

第一號	相替年齡	級名	教課	政學課	法學課	文學課
大	自二十一年至二十二年	一年級	憲法 行政法 東洋外交史 經濟學 及演習	民法 刑法 羅馬法	英文學 佛文學 獨文學 英文學副課 佛文學副課 獨文學副課	九
學	自二十三年至二十四年	二年級	國法学 行政法 西洋外交史 經濟學 及演習	民法 刑法 國際公法	英文學 佛文學 獨文學 英文學副課 佛文學副課 獨文學副課	九
科	自二十五年至二十六年	三年級	西洋外交史 經濟學 及演習	民法 商法 刑事訴訟法 國際公法 同演習	英文學 佛文學 獨文學 英文學副課 佛文學副課 獨文學副課	八
	自二十七年至二十八年	四年級	財政學 及演習	民法 民事訴訟法 商法 國際私法 同演習 法律哲學	英文學 佛文學 獨文學 英文學副課 佛文學副課 獨文學副課	九
一週時間通計						

○陸軍第一號

陸軍乘馬飼養條例施行規則第十一條ノ次ニ左ノ條ヲ追加ス

明治三十四年一月十二日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第十二條 甲乙遠隔セル地ニ於ケル兼職者ノ自馬ハ時宜ニ依リ全數若ハ若干數ヲ兼職地ニ於テ使用セシムルコトヲ得

○陸軍第二號

三十年式銃空包換替器並正形器別紙圖面ノ通制定ス

(別紙略ス)

明治三十四年一月十四日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸軍第三號

明治三十四年經理學校へ入校セシムヘキ軍吏學生ノ人員ハ六十名其ノ入校時期ハ五月トス

明治三十四年一月二十一日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸軍第四號

乘馬本分者タル隊附尉官ニシテ遠隔セル陸軍所轄ノ官衙ニ定員外トシテ出仕服務スルモノハ陸軍乘馬飼養條例第七條ニ依リ乘馬ノ飼養ヲ停止ス

明治三十四年一月二十一日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸軍第五號

軍隊内務書第十三章中左ノ通改正セラル

(改正略ス)

明治三十四年一月二十八日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○海軍省達第一號

海軍文官及海軍官衙ノ雇員備人本務ヲ行フニ當リ必要アルトキハ其著用スル上衣若ハ外套ノ左臂ニ左記ノ臂章ヲ纏ヒ附スヘシ

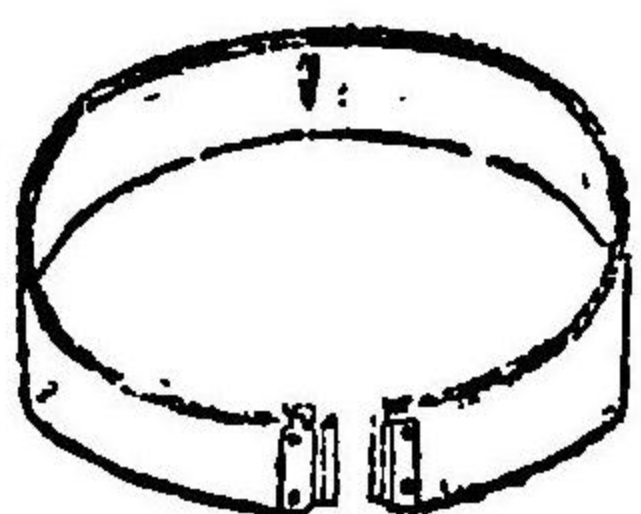
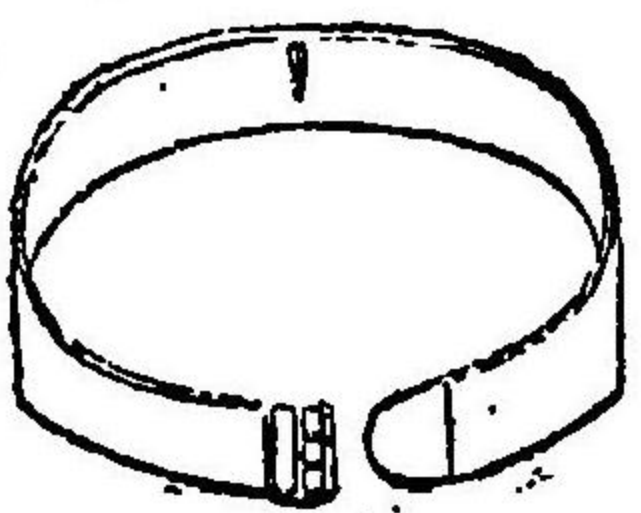
明治三十四年一月十五日

海軍大臣山本權兵衛

- |        |              |           |
|--------|--------------|-----------|
| 勅任文官   | 金線幅一寸長サ適宜    | 製式例圖ノ如シ   |
| 奏任文官   | 金線幅五分長サ適宜    | 製式勅任文官ニ同シ |
| 判任文官   | 銀線幅三分長サ適宜    | 製式勅任文官ニ同シ |
| 雇員備人   | 黃色絨幅二分五厘長サ適宜 | 製式勅任文官ニ同シ |
| 勅任文官臂章 |              |           |

幅一寸

幅一寸



○海軍省達第二號

軍艦進水手續第二條中進水命令書ヲ命名書ト改ム

明治三十四年一月十七日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

海軍省達第四十四號軍艦進水手續(明治二十八年五月十九日)抄録

第二條 鎮守府司令長官進水命令書ヲ受ケタルトキハ直ニ造船廠長ニ令シテ本艦ヲ進水セシム

○海軍省達第三號

驅逐艦ニ於テ仕拂ヲ要スル經費ハ所管鎮守府經理部第一課先任課員ヲ現金前渡官吏トシ該艦乗組主計官ヲ其分任官吏トシ之レカ仕拂ヲナサシム

明治三十四年一月十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四號

海軍文官考課表規則中左ノ通り改ム

明治三十四年一月十九日

海軍大臣山本權兵衛

第二條中「鎮守府司令長官」ノ下ニ「艦政本部長及教育本部長」ノ十一字ヲ加フ

第四條 考課表ハ左ノ各項ニ依リ進達又ハ移階スヘシ

鎮守府司令長官、艦政本部長及教育本部長ノ部下ニアル判任官ノ考課表ハ順序ヲ經テ司令長官

又ハ本部長ニ進達シ司令長官又ハ本部長ハ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

奏任官及前項外ノ判任官ノ考課表ハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達又ハ移階スヘシ

第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九條乙 判任官待遇者ノ考課表ニ就テハ本規則中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

別表第二號ヲ別紙ノ通改ム

(別紙)

別表第二號

所屬	海軍					省		臨時建築部	逓政本部	教育本部	軍令部	水路部
	總務局	軍務局	人事局	醫務局	經理局	司法局	高等官					
被考課官	高等官					高等官	高等官	支部ニ屬スル高等官	其ノ他ノ高等官	高等官	高等官	高等官
考課表調製官	總務長官					局長	局長	支部長	部長	部長	局長	局長
被考課官	判任官					判任官	判任官	支部ニ屬スル判任官	其ノ他ノ判任官	判任官	判任官	判任官
考課表調製官	首席副官					局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス

所屬	下瀬火藥製造所		主計官練習所	造船工練習所	機關術練習所	水雷術練習所	砲術練習所	軍醫學校	機關學校	兵學校	大學校	造兵廠	技術會議	東京軍法會議
	所長タル高等官	主幹タル高等官												
被考課官	高等官	高等官								高等官		高等官		高等官
考課表調製官	艦政本部長	所長								教頭		科長		總務長官
被考課官	判任官	判任官								判任官		判任官		其ノ他ノ判任官
考課表調製官	首席監事	主幹								部下高等官中ヨリ校長之ヲ指定ス		科課長主管自ラ調製シ又ハ部下高等官ヲシテ調製セシム		部長自ラ調製シ又ハ部下高等官ヲシテ調製セシム

職	守		府		兵	造	病	監	同	測	望	採	侍	東
	政	關	理	法										
艦政部長	艦政部長	艦政部長	艦政部長	艦政部長	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官	高等官
判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官
部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス

職	高等官	參謀長	判任官	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス
一 造船監督官	造船監督官	造船監督官	造船監督官	造船監督官
二 本表ニ掲ケル調製官	本表ニ掲ケル調製官	本表ニ掲ケル調製官	本表ニ掲ケル調製官	本表ニ掲ケル調製官
三 本表ニ記載セラル各部ニ於ケル考課表	本表ニ記載セラル各部ニ於ケル考課表	本表ニ記載セラル各部ニ於ケル考課表	本表ニ記載セラル各部ニ於ケル考課表	本表ニ記載セラル各部ニ於ケル考課表
四 考課表ハ高等官ニアラサレハ之ヲ調製スルコトヲ得ス	考課表ハ高等官ニアラサレハ之ヲ調製スルコトヲ得ス	考課表ハ高等官ニアラサレハ之ヲ調製スルコトヲ得ス	考課表ハ高等官ニアラサレハ之ヲ調製スルコトヲ得ス	考課表ハ高等官ニアラサレハ之ヲ調製スルコトヲ得ス

〔参照〕

海軍省達第百三十一號海軍文官考課表規則(明治三十一年十月三日)抄録  
 第二條 考課表ハ別表第一號格式ニ依リ一通ヲ調製スヘシ但艦守府司令長官ノ部下ニアル判任官ニ於テハ二通ヲ調製スヘシ  
 第四條 考課表ハ左ノ諸項ニ依リ進達又ハ移廉スヘシ  
 奏任官及艦守府司令長官ノ部下ニアラサル判任官ノ考課表ハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達又ハ移廉スヘシ  
 艦守府司令長官ノ部下ニアル判任官ノ考課表ハ順序ヲ經テ艦守府司令長官ニ進達シ艦守府司令長官ハ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

○海軍省達第五號

明治三十三年達第六十五號測器供給表中「アシューム」式寒暖計及「ポリメートル」ヲ削除シ更ニ兵器ニ編入ス

明治三十四年一月二十六日

海軍大臣山本權兵衛

○陸達第六號

本年陸軍大學校學生入學人員ハ約五十名以內、初審試驗開始ノ期日ハ六月二十五日トシ、其試驗科目別表ノ通定ス

明治三十四年二月五日

陸軍大臣 齋藤實 玉源太郎

(別表)

明治三十四年陸軍大學校入學初審並ニ再審試驗科目表

備考	外國語學	三	幾	代	地	交	築	兵	戰	術	初級ノ戰術及野外勤務並ニ圖上對策
一	外國語學ハ佛、獨、英、露、支、ノ内候補者ノ希望ニ從ヒ必ス其一ヲ試驗ス	角	何	初等	同	同	同				
		平三角	平面立體								

○陸達第七號

明治三十四年二月迄 陸軍省陸達第六號 陸達第七號



一 第三期學科中「艦船ノ種類及要部ノ名稱」ヲ「艦船ノ種類及要部名稱ノ摘要」ト改ム  
 一 備考中二項ヲ左ノ通り改メ三項ヲ削リ以下順次繰上ケ  
 二 初年兵第一期間ノ單砲教練ハ海岸砲ニ在テハ二十八珊米榴彈砲及二十四珊米加農、攻守城砲ニ在テハ十二珊米九珊米加農ノ内一種及十五珊米、九珊米白砲ノ内一種トシ第二期ヨリ爾餘諸砲ノ教練ニ移ル  
 第一期末ニ於テ海岸砲ニ就キ數回ノ砲臺教練ヲ施行スルコトヲ得  
 第七表輜重兵一箇年間教育順次表  
 一 初年兵第一期術科中「距離測量」ノ次ニ「狹窄射撃」ヲ加フ

○海軍省達第六號

雜役船舟還納及賣却手續中「豫備艦部長」ヲ「港務部長」ニ「豫備艦部」ヲ「港務部」ニ改ム  
 明治三十四年二月一日  
 海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七號

軍艦及水雷艇類別等級別表中ニ左ノ通追加ス  
 明治三十四年二月七日  
 海軍大臣山本權兵衛

水雷艇一等ノ欄「千鳥」ノ次ニ「雁、蒼鷹、鴿、燕、雲雀、雉」ヲ加フ  
 水雷艇二等ノ欄「第六十六號」ノ次ニ「第六十七號、第六十八號、第六十九號、第七十號、第七十一號」ヲ加フ

○海軍省達第八號

職工人夫給與規則中左ノ通追加ス  
 明治三十四年二月十三日  
 海軍大臣山本權兵衛

第五條別表中第八ノ次ニ左ノ一欄ヲ加ヘ備考「第一第二」ノ下ニ「第九」ヲ加フ

第九 砲臺製造ノ服裝

日給五十分ノ一

○海軍省達第九號

海軍艦團隊下士卒教育規則別紙ノ通定ム  
 明治三十四年二月十八日  
 海軍大臣山本權兵衛

(別紙)

海軍艦團隊下士卒教育規則

總則

第一條 海軍艦團隊下士卒教育ノ實施ハ軍艦、海兵團、驅逐隊、水雷艇隊、水雷敷設隊ヲ以テ其ノ基本トス  
 第二條 下士卒教育ヲ分チ精神教育、一般操練、部署教育、練習號教育ノ四種トス  
 第三條 教育基本部ニシテ特ニ下士卒練習ノ任務ニ服スル者ニ在テハ精神教育ノ外各共ノ規定スル所ニ從ヒ教育ヲ施行スルコトヲ得  
 第四條 基本長ハ毎年四回下士卒ノ教育ヲ査閲シ其ノ進歩ヲ圖ルヘシ但シ一般操練ハ四季演習ニ於テ其ノ進歩ヲ檢スヘキモノトス  
 第五條 基本部外ノ各部ニ屬スル下士卒ノ教育ハ其ノ部ノ部長基本長トナリ適當ト思考スル方法

ヲ設ケ時機ノ許ス限リ本則ニ準シ之ヲ施行スヘシ

第六條 戰時若クハ事變ニ際シテハ必要ニ應シ教育實施ノ時間及科目ヲ適宜得ルルコトヲ得

第七條 所管長官ハ日課及週課ヲ定メ各基本部ヲシテ嚴格ニ教練ヲ實施シ其ノ效果ヲ收メシムルノ責ニ任ス

教育ノ要旨

第八條 下士卒教育ノ目的ハ豫メ戰鬪ニ必要ナル性格技術ヲ修得シ以テ其ノ任務ヲ完フセシムルニ在リ故ニ最モ意ヲ精神教育ニ注キ軍人タルノ志操ヲ養成スルト同時ニ之ニ適應セシムル技術ヲ習熟セシメサルヘカラス

第九條 精神教育ハ感化ノ效力最モ大ナルカ故ニ將校及同相當官ニ在テハ躬行實踐以テ細大ノ模範ヲ示シ部下ヲ誘導スルコトニ努メサルヘカラス

第十條 下士卒教育ハ之ヲ全軍ニ普及シ齊一ノ發達ヲ遂ケシムルヲ要ス故ニ該博ニ流レヌ高尙ニ失セス各人ノ階級ニ應シ其ノ任務ヲ行フニ遺憾ナキヲ以テ程度トスヘシ

第十一條 教育ノ方法ハ簡易明白ニシテ會得シ易キヲ旨トシ勉メテ實地實物ニ就キテ之ヲ施行シ已ヲ得サル場合ノ外ハ他ノ方法ニ依ラサルヲ可トス

第十二條 軍人ハ身體強健ナラサレハ其ノ任務ヲ全フスルコト能ハス故ニ下士卒ノ教育ハ其ノ精神ヲ發揮シ技術ヲ練磨スルト共ニ體育ヲ重シ耐久不撓ノ身體ヲ養成セサルヘカラス

第十三條 本則ニ規定スル所ノ下士卒教育ハ尙ホ諸演習ト相俟テ完全ノ發達ヲ期スヘシ畢竟軍事教育ノ目的ハ有形無形ノ戰鬪力ヲ最大ニ活動發揮セシメ軍隊唯一ノ目的ヲ達スルニ在ルヲ以テ教育ハ軍隊平素ノ任務中最モ重要ナルモノタルコトヲ知悉セサルヘカラス

精神教育

第十四條 精神教育ハ主トシテ軍紀ニ服從セシメ義勇奉公ノ精神ヲ發揮スルヲ以テ目的ト爲ス

第十五條 精神教育ニ於テ施行スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 勅諭ヲ奉讀行義シ篤ク 聖旨ヲ奉體セシムルコト但シ基本長自ラ之ヲ施行スルヲ例トス
- 二 帝國ノ國體及之ニ關スル歴史上ノ講話ヲ爲シ忠君愛國ノ精神ヲ發揮セシムルコト
- 三 軍人ノ國家ニ對シ負フヘキ任務、軍艦旗ノ性質、由來若クハ戰役中其ノ艦ノ奏シタル功績等ヲ講話シ以テ士氣ヲ振起セシムルコト
- 四 有名ナル海陸戰爭ノ事蹟或ハ龜鑑タルヘキ勇將猛卒ノ偉績等ヲ講話シ以テ武勇ノ氣象ヲ振起セシムルコト
- 五 軍紀、風紀、賞罰等ニ關スル諸法規、内則ノ類ヲ講義シ以テ分限ヲ守リ禮儀ヲ正フシ品行ヲ修メシムルコト

第十六條 精神教育ハ前條ノ方法ニ依ルノ外常ニ兵員ノ動作ヲ監視シ其ノ過失ヲ矯正シ法令ヲ勵行シ下士卒ヲシテ軍紀風紀ニ慣習セシムルヲ要ス

第十七條 基本長ハ部下將校同相當官ヲシテ教育ノ任ニ當ラシムルノ外臨時基本部外ノ高等武官ヲシテ講話ヲナサシムルコトヲ得

一般操練

第十八條 一般操練ハ各基本部兵員ノ大部ヲ舉ケ固有ノ部署ニ就キ一齊ニ施行スル教練ヲ云フ

第十九條 一般操練ハ各兵員ヲシテ嚴正ナル軍紀及秩序ニ慣熟セシムルト同時ニ其ノ部署ニ於ケル本務ニ熟達セシムルニアリ故ニ確實迅速且靜肅ニ之ヲ遂行スルヲ要ス



第二十條 一般操練ノ終末ニ於テ基本長ハ各部署ノ長ヲシテ其ノ部下兵員ノ行動ニ關シ細カニ誤  
 謬ヲ修正シ且必要ノ事項ヲ注意セシメ終テ基本長自ラ操練ノ成績ヲ講評シ又適當ノ訓誡ヲ爲シ  
 效練ノ效果ヲシテ完全ナラシムルコトニ努ムヘシ

第二十一條 一般操練ニ於テ施行スヘキ科目ハ概ネ左ノ如シ

- 一 臨戰準備
- 二 合戰準備
- 三 戰鬪操練
- 四 夜中戰鬪操練
- 五 水雷艇防禦操練
- 六 端舟軍裝
- 七 端舟水雷軍裝
- 八 反裝水雷操練
- 九 敵艦捕獲操練
- 十 陸戰隊
- 十一 防火操練
- 十二 防火隊派遣操練
- 十三 防水操練
- 十四 總員乘艇退去操練
- 十五 溺者救助操練

- 十六 帆前又ハ圓材操練
- 十七 水雷防禦網展張
- 十八 總端舟燒漕
- 十九 總端舟帆走
- 二十 錨又ハ錨鎖運搬
- 二十一 探海又ハ掃海操練
- 二十二 水雷敷設操練
- 二十三 驅逐隊又ハ水雷艇隊諸運動

前記ノ事項ハ各基本部ノ情況ニ從ヒ其ノ任務ニ適切ナルモノニ限リ施行スヘキモノトス

部署教育

第二十二條 部署教育ハ兵員ヲシテ各部署ニ於ケル固有ノ配置ニ就カシメ其ノ部署ニ必要ナル科  
 目ヲ課シ各部毎ニ施行スル教練ヲ云フ

第二十三條 部署教育ハ一般操練ニ對スル準備トシテ施行スルモノニシテ單ニ操練事業ノ諸動作  
 ニ習熟セシムルノミヲ以テ足レリトセス其ノ使用ノ兵器及器具ノ構造用途其ノ他注意スヘキ  
 必要ノ件ハ懇切明細ニ之ヲ指教スルヲ要ス

第二十四條 部署教育ニ於テハ各部署ノ指揮官若ハ從屬士官自ラ之ヲ教練スルヲ例トシ部下兵曹  
 長、准士官、下士ヲ指名シテ教導セシムルトキト雖自ラ之ヲ監視スルヲ要ス但シ日常事業ヲ課シ  
 部署教育ヲ施行スルトキニ在テハ當直勤務ニ在ル將校及同相當官ハ之ヲ監視ヲ爲スヘキモノト  
 ス

第二十五條 部署教育ニ於テ施行スヘキ科目ハ概ネ別表第一ノ例ニ依ル

第二十六條 補充交代等ノ爲メ多數ノ兵員新ニ其ノ部下ニ屬シタル場合ニ在テハ基本長ハ前條ノ方法ニ據ルノ外時々總員ヲ集メテ諸部署ヲ訓示シ兵員ヲシテ先ツ之ヲ知悉セシムルコトヲ努ムヘシ

練習號教育

第二十七條 練習號教育ハ各兵種ノ等級ニ應シテ若干ノ練習號ヲ組織シ各練習號ニ就キ施行スル教練ヲ云フ

第二十八條 練習號教育ハ下士卒ヲシテ其ノ兵種ニ適應スル一般ノ智識ヲ得セシムルニ在リ

第二十九條 練習號教育ニ於テハ基本長ハ概ネ左ノ例ニ據リ部下ノ將校、同相當官、兵曹長、同相當官、准士官及下士卒ヲシテ教育ノ任ニ當ラシムヘシ

科目	教官	主任	補助員
砲術	砲術長 (砲術長ナキトキハ他ノ將校)	砲術長、基本長ヨリ命セラレタル准士官、下士	
水雷術	水雷長 (水雷長ナキトキハ他ノ將校)	水雷長、基本長ヨリ命セラレタル准士官、下士	
掌舵術及倍號法	航海長 (航海長ナキトキハ他ノ將校)	航海長ヨリ命セラレタル兵曹長、准士官、下士	
運用術	首席將校分隊長	掌帆長、基本長ヨリ命セラレタル准士官、下士	
機關術、機關工術及鍛冶術	機關長	基本長ヨリ命セラレタル機關兵曹長、准士官、下士	

科目	教官	主任	補助員
水雷工術	機關長	基本長ヨリ命セラレタル機關官	基本長ヨリ命セラレタル機關兵曹長、准士官、下士
船匠術	航海長 (航海長ナキトキハ他ノ將校)	航海長ヨリ命セラレタル士官	船匠長、基本長ヨリ命セラレタル准士官、下士
看護術	軍醫長	基本長ヨリ命セラレタル軍醫官	基本長ヨリ命セラレタル看護部員
庶務、會計及廚業	主計長	基本長ヨリ命セラレタル主計官	基本長ヨリ命セラレタル筆記、廚師若ハ割烹
備	下士官ハ將校若ハ同相當官自ラ教授シ止ムヲ得サレハ准士官若ハ優等ナル下士卒ヲシテ教授セシムヘシ		
備	普通學ニ在テハ各兵種ニ應シ將校、機關官、軍醫官、主計官ヲ以テ教官トシ學力アル准士官、下士卒ヲ選テ補助員ト爲スヘシ		
備	要港部又ハ水雷團ニ附屬スル水雷艇隊、水雷敷設隊ニシテ機關官、軍醫官若ハ主計官ヲ置カレサルモノニ在テハ要港部司令官又ハ水雷團長ハ部下ノ機關官、軍醫官若ハ主計官ヲシテ教育ノ任ニ當ラシムヘシ		

第三十條 各基本部ハ毎年六月、十二月練習號教育ヲ開始シ十一月、五月マテニ其ノ全科ヲ卒業シ得ル様教授スルヲ要ス但シ海兵團ハ此ノ限リニアラス

第三十一條 練習號教育ニ於テ教授スヘキ科目ハ別表第二ノ例ニ依ル

第三十二條 驅逐隊及水雷艇隊ハ一般操練及別表第三ノ科目ニ就キ教育ヲ施行シ部署教育及練習號教育ハ之ヲ施行セサルモノト爲ス

驅逐隊ニ編入セラレサル驅逐艦ハ各自ニ前項ノ教育ヲ施行スヘシ

第三十三條 基本長ハ第二十五條ニ掲グル科目ノ外適當ト思考スル方法ニ依リ水泳、體操、銃劍術、劍術、柔道等體育ニ關スル諸技及登橋、裝填術、室內銃射擊等軍人ノ習得スヘキ諸技ヲ練習セ

シメ自ラ尙武的嗜好心ヲ誘起シ併セテ體育ヲ完成スルコトヲ努メ特ニ水兵部下士卒ニハ適當ノ時機ヲ利用シ東洋ニ在ル諸外國軍艦ノ形狀勢力等ノ大略ニ付教指スルヲ要ス

教育ノ獎勵

第三十四條 基本長ハ艦砲射撃術獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年四月一日ニ於テ軍艦射撃規則ニ基ツキ部下士卒ノ射撃成績ヲ調査シ前年四月一日以後ノ射撃ニ於テ效果得點平均七十點以上ヲ得タル者ニ砲手履歷(別表第五)ヲ授與シ更ニ選抜ノ上優等射手ヲ命シ優等射手證狀(第一書式)ヲ與フヘシ

一 優等射手ハ前項優等者ニ就キ成績順序ニ從ヒ之ヲ命ス若シ其ノ成績同等ナルトキハ距離目測ノ成績ニ依リ距離目測ノ成績ハ優等測手選抜ノ例ニ依ル

二 優等射手ノ數ハ各其ノ基本部ニ屬スル艦砲以上ノ砲數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ半定員ヲ置キタルトキハ各其ノ砲數ノ十分ノ一トス

三 優等射手證狀ノ有効期限ハ翌年三月三十一日マテトス

四 砲手履歷ハ一回授與シタルトキハ更ニ授與セサルモノトス

第三十五條 基本長ハ距離目測獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ毎年四月一日ニ於テ部下士卒中前年四月一日以降三十回以上ノ實習ヲ經平均六點以上ノ成績ヲ得タル者ニ就キ選抜ヲ行ヒ優等測手ヲ命シ優等測手證狀ヲ與フヘシ(第二書式)

一 優等測手ハ前項優等者ニ就キ成績順序ニ從ヒ之ヲ命ス若シ其ノ成績同等ナルトキハ艦砲射撃ノ成績ニ依リ艦砲ヲ射撃セサル者ニ在テハ小銃射撃ノ成績ニ依ル又艦砲射撃ヲ爲セル者ト爲サル者ト其ノ成績同等ナルトキハ艦砲射撃ヲ爲セル者ニ命ス

二 優等測手ノ數ハ各基本部ニ屬スル艦砲以上ノ砲數ノ五分ノ一ヲ超ユルヲ得ス但シ半定員ヲ置キタルトキハ各其ノ砲數ノ十分ノ一トス

三 優等測手證狀ノ有効期限ハ翌年三月三十一日マテトス

四 測手ノ成績ヲ定ムルニハ左ノ例ニ依ル  
誤測ナキ者 十點

距離ノ誤測十分ノ一未滿ノ者 八點以上十點未滿  
距離ノ誤測十分ノ二未滿ノ者 四點以上八點未滿  
誤測十分ノ二ヲ超ユル者ハ點數ヲ與ヘス

五 基本部ハ各下士卒ノ距離目測成績記入表ヲ備ヘ置キテ距離目測ヲ施行スル毎ニ其ノ成績ヲ記入シ下士卒他ノ基本部ニ轉シタルトキハ之ヲ新基本部ニ移スヘシ(別表第六)

第三十六條 基本長ハ焚火術獎勵ノ爲メ左ノ諸號ニ依リ定期高速力試驗ノ際良好ナル成績ヲ得タルトキ各當直ニ在テ伎倆拔群ト認メタル者ヲ選抜シ焚火選手ヲ命シ焚火選手證狀(第二書式)ヲ與フヘシ

一 焚火選手ノ數ハ二千馬力以下ノ艦船ニ在テハ一名二千馬力以上ノ艦船ニテハ毎二千馬力ニ付一名トス

二 焚火選手證狀ノ有効期限ハ六箇月トス

第三十七條 左表ニ掲クル各基本部ニ於テハ左ノ諸號ニ依リ三等以上ノ水兵ニシテ實務ニ熟達シ身體強健、視力完全、品行方正ニシテ掌砲兵タルヘキ技能學力ヲ有スト認メタル者及三等以上ノ水兵及機關兵ニシテ實務ニ熟達シ身體強健、品行方正ニシテ掌水雷兵、水雷工若ハ機關工タルヘ

キ技能學力ヲ有スト認メタル者(何レモ練習終了後二箇年以上ノ服役期限ヲ有スル者)ヲ選抜シ特別練習號ヲ組織シテ教育ヲ行ヒ其ノ試験ニ及第シタル者ニ就キ特科兵助手ヲ命シ特科兵助手證狀(第四番式)ヲ與フヘシ

掌砲助手ヲ養成スヘキ基本部	一 砲艦	一 水雷發射管ヲ有スル各軍艦	一 水雷發射管ヲ有スル各軍艦	一 砲艦
	二 巡洋艦	二 水雷艇隊	二 水雷艇隊	二 一等二等巡洋艦
掌水雷工助手ヲ養成スヘキ基本部	三 水雷敷設隊	三 水雷敷設隊	三 水雷敷設隊	
機關工助手ヲ養成スヘキ基本部				
附	全定員ヲ置カサル基本部ニ於テハ水雷工助手ヲ施行スルニ及ハス又全定員ヲ置キタル基本部ニシテ本條ノ教育ヲ施行スルコト能ハサル事情アルトキハ所管長官ノ認可ヲ經ヘシ			

- 一 前表ノ各基本部ニ於テ毎年選抜スヘキ特別練習號ノ人員ハ掌砲助手、掌水雷工助手ニ在テハ掌砲兵、掌水雷兵各定員ノ四分ノ一以內、水雷工助手ニ在テハ水雷工定員ノ半數以內、機關工助手ニ在テハ機關工定員ノ二分ノ一以內トス
- 二 特別練習號ノ教育ハ毎年十二月ニ開始シ其ノ期限ハ約五箇月トス
- 三 各特別練習號ノ兵員ニハ其ノ教育期中第二十七號ニ掲グル練習號教育及艦隊內ノ雜業ヲ免除シ其ノ時間ヲ以テ教育時間ニ充ツヘシ
- 四 各特別練習號ニ於テ教授スヘキ科目ハ別表第四ノ例ニ依ル
- 五 教育期ノ終リニ於テ試験ヲ行ヒ其ノ全點數十分五以上ノ點數ヲ得タル者ヲ以テ及第トス
- 六 試験ニ及第シタルトキハ其ノ成績ヲ百分比ニテ本人ノ履歷ニ記入ス
- 七 各基本部ハ前諸號ノ教育ヲ受ケ試験ニ及第シタル者ニ就キ選抜ヲ行ヒ其ノ特科兵定員ノ半

數ニ達スルマテ特科兵助手ヲ命シ特科兵助手證狀ヲ與フルコトヲ得

特科兵助手證狀ヲ有スル者若ハ之ヲ有セサルモ前諸號ノ教育ヲ受ケ試験ニ及第シタル者他ノ基本部ニ移ルトキハ新基本部長ハ前項ニ準シテ特科兵助手ヲ命シ特科兵助手證狀ヲ與フルコトヲ得

基本部外ノ各部ニ移リタルトキ亦同シ

八 助手證狀ノ有効期限ハ受驗後二箇年トス

第三十八條 各基本部ハ各自若ハ互ニ聯合シ左ノ事項ニ就キ賞ヲ懸ケ技ヲ競ハシムルコトヲ得

- 一 艦舟機漕又ハ帆走 毎年二回
- 二 内筒砲及小銃點射擊 毎年各一回
- 三 信號 毎年一回
- 四 潜水、裝填術、焚火、水泳、銃劍術等ノ諸競技ノ内 毎年四回

報告

第三十九條 基本部長ハ毎年五月盡日及十一月盡日マテノ教育實施報告(別表第七)ニ通テ六月十五日及十二月十五日マテニ所屬長官ニ呈シ所屬長官ハ其ノ一通ヲ教育本部長ニ移送スヘシ

附則

海軍艦隊部下士官教育令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表第一)

部署教育科目表

軍艦		教育科目	
配員	砲	水雷部員	陸戰銃隊員
砲臺操練、大砲操練 一 砲臺操練、大砲操練 二 砲臺操練、大砲操練 三 距離目測(砲兵、砲助手及砲) 四 砲丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇、照準法 五 砲煩、砲架、彈藥、信管、火管ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合、附屬具、保備具ノ使用法 六 機動裝置ノ概略	水雷發射管操練 一 水雷發射管操練 二 魚形水雷ノ分解、結合、運搬、保存及發射管保存法、方位盤ノ使用法 三 艇用水雷發射管操練及其ノ取付、收納、保存法 四 探海電燈取扱法及保存法 五 反裝水雷、艦用敷設水雷ノ裝備、搭載及發火法 六 假裝水雷ノ裝備及發火 七 發電機ノ組成、取扱法ノ大要及諸電路	銃隊操練 一 銃隊操練 二 陸戰ニ關スル要務	野砲操練(砲臺操練ヲ含ムコトナラズ、砲臺ノ取付、分解、結合) 一 野砲操練(砲臺操練ヲ含ムコトナラズ、砲臺ノ取付、分解、結合) 二 砲煩、砲架、彈藥ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合 三 射擊ノ要領、砲丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇 四 陸戰銃隊員ノ各項
彈藥庫員	野砲員	水雷部員	陸戰銃隊員
一 彈藥供給操練 二 彈藥庫ノ構造、大略、通風及浸水裝置 三 警鳴器、ポリメーターノ概略、彈藥庫ニ關スル注意 四 彈藥信管、火管ノ取扱法、保存法	一 傷者救護操練 二 止血法、創傷ノ處置、傷者運搬、人工呼吸法等 一 工作事業	一 信號練習及喇叭練習 一 測鉛投法練習 一 補索練習、防水扉取附及取脫 一 豫備能輪及豫備能索ノ使用法 一 端舟機漕及帆走 一 端及端鎖運搬法(カウンター以上ノ艇員ニ限ル) 二 探海及探海法 三 反裝水雷搭載及發火法 四 艦用敷設水雷搭載及沈置法(之ヲ搭載スヘキ艇員ニ限ル) 五 艇砲操練 六 障礙物破壞法 一 端及端鎖ノ取扱ニ關スル事業 二 端索及「ホーサー」使用法 三 艦體、船具及艦體各部ノ保存、屬具ノ整頓等ニ關スル事業 四 重物ノ揚卸法 五 出入港操練 六 「スモークカバ」掛ケ方操練 七 右諸項ノ外、船具ノ應用及船上ノ事業	一 運轉準備配置ニ關スル操練 二 主機汽甬蓋取外シ反環備置換裝ノ作業 三 主機滑弁蓋取外シ及環備置換裝ノ作業 四 復水器蓋取外シ及環備置換裝ノ作業
負傷者運搬員	工作兵	信號部員	測鉛手
補索手	豫備能索手	端舟機漕及帆走	端及端鎖運搬員
端舟機漕及帆走	端及端鎖運搬員	探海及探海法	反裝水雷搭載及發火法
艦用敷設水雷搭載及沈置法	艇砲操練	障礙物破壞法	端及端鎖ノ取扱ニ關スル事業
端索及「ホーサー」使用法	艦體、船具及艦體各部ノ保存、屬具ノ整頓等ニ關スル事業	重物ノ揚卸法	出入港操練
「スモークカバ」掛ケ方操練	右諸項ノ外、船具ノ應用及船上ノ事業		

軍艦		教育科目	
配員	砲	水雷部員	陸戰銃隊員
砲臺操練、大砲操練 一 砲臺操練、大砲操練 二 砲臺操練、大砲操練 三 距離目測(砲兵、砲助手及砲) 四 砲丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇、照準法 五 砲煩、砲架、彈藥、信管、火管ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合、附屬具、保備具ノ使用法 六 機動裝置ノ概略	水雷發射管操練 一 水雷發射管操練 二 魚形水雷ノ分解、結合、運搬、保存及發射管保存法、方位盤ノ使用法 三 艇用水雷發射管操練及其ノ取付、收納、保存法 四 探海電燈取扱法及保存法 五 反裝水雷、艦用敷設水雷ノ裝備、搭載及發火法 六 假裝水雷ノ裝備及發火 七 發電機ノ組成、取扱法ノ大要及諸電路	銃隊操練 一 銃隊操練 二 陸戰ニ關スル要務	野砲操練(砲臺操練ヲ含ムコトナラズ、砲臺ノ取付、分解、結合) 一 野砲操練(砲臺操練ヲ含ムコトナラズ、砲臺ノ取付、分解、結合) 二 砲煩、砲架、彈藥ノ取扱法、保存法、砲具ノ分解、結合 三 射擊ノ要領、砲丸ノ用途、效力、射擊目的ノ選擇 四 陸戰銃隊員ノ各項
彈藥庫員	野砲員	水雷部員	陸戰銃隊員
一 彈藥供給操練 二 彈藥庫ノ構造、大略、通風及浸水裝置 三 警鳴器、ポリメーターノ概略、彈藥庫ニ關スル注意 四 彈藥信管、火管ノ取扱法、保存法	一 傷者救護操練 二 止血法、創傷ノ處置、傷者運搬、人工呼吸法等 一 工作事業	一 信號練習及喇叭練習 一 測鉛投法練習 一 補索練習、防水扉取附及取脫 一 豫備能輪及豫備能索ノ使用法 一 端舟機漕及帆走 一 端及端鎖運搬法(カウンター以上ノ艇員ニ限ル) 二 探海及探海法 三 反裝水雷搭載及發火法 四 艦用敷設水雷搭載及沈置法(之ヲ搭載スヘキ艇員ニ限ル) 五 艇砲操練 六 障礙物破壞法 一 端及端鎖ノ取扱ニ關スル事業 二 端索及「ホーサー」使用法 三 艦體、船具及艦體各部ノ保存、屬具ノ整頓等ニ關スル事業 四 重物ノ揚卸法 五 出入港操練 六 「スモークカバ」掛ケ方操練 七 右諸項ノ外、船具ノ應用及船上ノ事業	一 運轉準備配置ニ關スル操練 二 主機汽甬蓋取外シ反環備置換裝ノ作業 三 主機滑弁蓋取外シ及環備置換裝ノ作業 四 復水器蓋取外シ及環備置換裝ノ作業
負傷者運搬員	工作兵	信號部員	測鉛手
補索手	豫備能索手	端舟機漕及帆走	端及端鎖運搬員
端舟機漕及帆走	端及端鎖運搬員	探海及探海法	反裝水雷搭載及發火法
艦用敷設水雷搭載及沈置法	艇砲操練	障礙物破壞法	端及端鎖ノ取扱ニ關スル事業
端索及「ホーサー」使用法	艦體、船具及艦體各部ノ保存、屬具ノ整頓等ニ關スル事業	重物ノ揚卸法	出入港操練
「スモークカバ」掛ケ方操練	右諸項ノ外、船具ノ應用及船上ノ事業		

汽機部員	汽機部員	小機部員及特務員
五 主機運動部及軸部ノ調整並ニ豫備品換裝ノ作業 六 副機運動部及軸部ノ調整並ニ豫備品換裝ノ作業 七 「ニヤホン」諸弁換裝ノ作業 八 艦内浸水ニ處スル全力驅水教練 九 諸管裝置交通變更ニ關スル教練 十 通信裝置ノ缺損ニ處スル應急整理	一 汽機準備配位ニ關スル教練 二 船炭、焚火、給水ノ配位ニ關スル教練 三 強壓通風施行準備配位ニ關スル教練 四 掃羅及洗羅ノ作業 五 「ヘルビール」諸管列取外ノ作業 六 副機ノ運動部及軸部ノ調整並ニ豫備品換裝ノ作業 七 離水ノ漏洩及減水(假想)ニ對スル應急作業 八 艦内浸水ニ處スル全力驅水教練 九 諸管裝置交通變更ニ關スル教練 十 離炭準備	一 電機及電力配給ニ關スル教練 二 漏電、斷電ニ關スル應急作業 三 水力機及水力配給ニ關スル教練 四 空氣壓機及空氣配給ニ關スル教練 五 操舵機其ノ他諸小機ノ取扱法 六 操舵機動力變更ニ關スル教練 七 砲旋回機動力變更ニ關スル教練 八 艦内通風裝置、交通變更ニ關スル教練 九 蒸氣管、水力管及空氣管ノ破損ニ對スル應急作業 十 艦内浸水ニ處スル全力驅水教練 十一 汽機機關運轉準備ニ關スル教練

水雷敷設隊	配 置	水兵部員	機 關 部 員
一 水雷裝備 二 水雷搭載操練 三 水雷接合操練及解方操練 四 水雷沈置、揚收及發火法 五 衝所整備及視察器使用法、保存法 六 假設水雷ノ裝備及發火法 七 電機試驗及電機保存法 八 電池配列、試驗及保存法 九 水雷發射操練 十 魚形水雷ノ分解、結合、運搬、保存及發射機保存法、方位盤ノ使用法 十一 通信裝置整備法 十二 探海電燈取扱法及保存法 十三 探砲 十四 銃隊操練及障礙ニ關スル業務	一 水雷裝備 二 水雷搭載操練 三 水雷接合操練及解方操練 四 水雷沈置、揚收及發火法 五 衝所整備及視察器使用法、保存法 六 假設水雷ノ裝備及發火法 七 電機試驗及電機保存法 八 電池配列、試驗及保存法 九 水雷發射操練 十 魚形水雷ノ分解、結合、運搬、保存及發射機保存法、方位盤ノ使用法 十一 通信裝置整備法 十二 探海電燈取扱法及保存法 十三 探砲 十四 銃隊操練及障礙ニ關スル業務	一 機關並ニ器具ノ構成、汽機、運轉ノ方法及注意 二 汽機ノ缺損、離水ノ漏洩及減水ニ對スル應急作業 三 汽機及復水器洗掃ノ作業 四 積炭ノ各部開閉、調整並ニ豫備品換裝ノ作業 五 艦内浸水ニ處スル全力驅水教練 六 擴管、拔管、損壞及解脫法 七 發電機及空氣壓機ノ使用法 八 魚形水雷ノ分解、結合及運搬法	備考 一 本隊ノ附科目ニシテ其ノ基本部ニ適切ナラサルモノハ之ヲ教育スルヲ要セス 二 學砲兵等補助手ノ砲員ニアラサル者ト雖砲員ト同一ノ科目ヲ教練スルニ

- 三 機關部員ノ科目中豫備品ノ換裝ハ時宜ニ依リ現裝品ヲ以テ假想的ニ施行スルモ妨ナシ
- 四 砲具及水雷ノ分解、結合ハ發射後其ノ他手入レテ必要トスル時機ヲ利用シテ施行スヘシ
- 五 機關各部ノ解脫、換裝及調整等ハ成ルヘク其ノ部ニ於テ實行リ必要トスル時機ヲ利用シテ施行スヘシ
- 六 海兵團下士官ノ部署教育科目ハ時々臨時ノ部署ヲ與ヘ(例ハ八時隊隊隊ヲ編制シ或ハ附屬軍艦ニ乘組マシムル等ノ如シ)部署教育ヲ施行スルヲ要ス
- 七 一配置員ノミニテ施行シ難キ科目ハ他ノ配置員ト同時ニ教練セシムルコトヲ得

(別表第二)

練習號教育科目表

兵曹及水兵		兵曹及一等水兵科目	
二等水兵以下科目		二等水兵以下ノ科目	
電	術	電	術
一 大砲操練(砲目ハ其ノ砲隊ヲ依リ)	一 魚形水雷外部ノ名稱及其ノ水上水中ニ於ケル取扱並ニ短距離運搬ニ關スル注意	一 二等水兵以下ノ科目	一 二等水兵以下ノ科目
二 野砲操練(砲目ハ其ノ砲隊ヲ依リ)	二 鋼索及「ホーサー」ノ使用法	二 電氣及磁氣學ノ大要	二 電氣及磁氣學ノ大要
三 砲機、彈藥及火工品ノ種類、用途及取扱法	三 鋼索上ノ事業	三 電氣通信機ノ使用法	三 電氣通信機ノ使用法
四 銃隊操式第一部第三章迄	四 絞機使用法	四 探海鏡、掃海索ノ裝備及使用法	四 探海鏡、掃海索ノ裝備及使用法
五 小銃分解、結合	五 船體船具ノ用途		
六 小銃射法教範ノ摘要	六 海上衝突豫防法摘要		
七 內筒砲射擊(砲目ヲ)	七 船體船具ノ手入及保存法		
八 救難浮標	八 船體船具ノ番號、諸倉庫及諸室ノ防水面割ノ番號、諸倉庫及諸室ノ位地		

水雷術		水雷術	
運	用	運	用
術	術	術	術
一 敷設水雷ノ種類、名稱、使用目的及器具ノ名稱、電線、電機ノ種類、名稱、用途及貯藏法、水雷術所用水雷器具ノ名稱(電線、電機、水雷)	一 敷設水雷ノ種類、名稱、使用目的及器具ノ名稱、電線、電機ノ種類、名稱、用途及貯藏法、水雷術所用水雷器具ノ名稱(電線、電機、水雷)	一 二等水兵以下ノ科目	一 二等水兵以下ノ科目
二 鋼索及「ホーサー」ノ使用法	二 鋼索及「ホーサー」ノ使用法	二 按針術(磁針、電針、磁針)	二 按針術(磁針、電針、磁針)
三 絞機使用法	三 絞機使用法	三 鑄及鑄鐵ニ關スル事業	三 鑄及鑄鐵ニ關スル事業
四 絞機使用法	四 絞機使用法	四 重物揚卸法	四 重物揚卸法
五 船體船具ノ用途	五 船體船具ノ用途	五 號筒吹方	五 號筒吹方
六 海上衝突豫防法摘要	六 海上衝突豫防法摘要	六 海上衝突豫防法	六 海上衝突豫防法
七 船體船具ノ手入及保存法	七 船體船具ノ手入及保存法	七 内外國旗章、諸艦船ノ識別	七 内外國旗章、諸艦船ノ識別
八 船體船具ノ番號、諸倉庫及諸室ノ防水面割ノ番號、諸倉庫及諸室ノ位地	八 船體船具ノ番號、諸倉庫及諸室ノ防水面割ノ番號、諸倉庫及諸室ノ位地		
九 營直諸勤務ニ於ケル事項	九 營直諸勤務ニ於ケル事項		
十 負傷者救急及運搬法	十 負傷者救急及運搬法		
一 潜水術(學水雷兵及選抜サレタル者ノミ)	一 潜水術(學水雷兵及選抜サレタル者ノミ)	一 二等水兵以下ノ科目	一 二等水兵以下ノ科目
二 手旗信號	二 手旗信號	二 普通學(讀書、算術、作文、習字)	二 普通學(讀書、算術、作文、習字)
三 傳馬船漕方	三 傳馬船漕方	二 文算術(四則、分數)	二 文算術(四則、分數)
四 傳馬船漕方	四 傳馬船漕方		





砲 工 術	一 水力起重器其ノ他器具ノ小破損修 理 二 小銃ノ分解結合 三 砲架及砲架ノ分解、結合 徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 二等水兵以下ノ科目 二 端舟操演	一 二等砲治以下ノ科目 二 砲銃及器具ノ小修理
	一 砲治用器具物品ノ名稱及使用法 二 金屬鍛煉法、金屬接合法、金屬ノ硬 軟、純ニスル法、鍍金法、鍍銀ニ合 金ノ調合及使用法 三 金屬ノ種類ニ就キ使用法說明 四 潛水術及水中事業	一 二等砲治以下ノ科目 二 金屬ノ強力大意及使用ノ用途 三 金屬ノ器具製作及修理ノ方法並ニ 其ノ見積 四 船體ノ修理
武 科	徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 二等水兵以下ノ科目 三 端舟操演	二 二等機關兵以下ノ科目 二 普通學(讀書、作文、算術、地理、 幾何畫法、見取圖)
	二 二等砲治以下ノ科目	二 二等機關兵以下ノ科目
拳 銃 術	一 汽罐ノ各部並ニ器具用具ノ名稱、 效用及使用途 二 汽罐ニ關係アル諸裝置ノ名稱及效 用 三 焚火法、充水法、放水法 四 瀧水ノ増減、濃淡及沸溢ニ關スル 取扱法 五 汽罐中並ニ其ノ前後ニ於ケル注意 及處置 六 燃料ノ種類、性質及取扱法 七 炭量目測	一 二等機關兵以下ノ科目 二 汽罐並ニ汽罐ニ關係アル諸裝置ノ 構造、作動調整及取扱法 三 給水法 四 保護法 五 水壓試驗及透過試驗法 六 石灰ノ摺疊並ニ收貯ニ關スル注意 七 炭水ノ適否
	二 二等機關兵以下ノ科目	二 二等機關兵以下ノ科目
雜 科	一 二等水兵以下ノ科目 二 潛水術及水中事業 三 端舟操演	一 二等機關兵以下ノ科目 二 普通學(讀書、作文、算術、地理、 幾何畫法、見取圖)
	二 二等砲治以下ノ科目	二 二等機關兵以下ノ科目
砲 治 術	二 二等砲治以下ノ科目	二 二等砲治以下ノ科目

砲 工 術	一 水力起重器其ノ他器具ノ小破損修 理 二 小銃ノ分解結合 三 砲架及砲架ノ分解、結合 徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 二等水兵以下ノ科目 二 端舟操演	一 二等砲治以下ノ科目 二 砲銃及器具ノ小修理
	一 砲治用器具物品ノ名稱及使用法 二 金屬鍛煉法、金屬接合法、金屬ノ硬 軟、純ニスル法、鍍金法、鍍銀ニ合 金ノ調合及使用法 三 金屬ノ種類ニ就キ使用法說明 四 潛水術及水中事業	一 二等砲治以下ノ科目 二 金屬ノ強力大意及使用ノ用途 三 金屬ノ器具製作及修理ノ方法並ニ 其ノ見積 四 船體ノ修理
武 科	徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 二等水兵以下ノ科目 三 端舟操演	二 二等機關兵以下ノ科目 二 普通學(讀書、作文、算術、地理、 幾何畫法、見取圖)
	二 二等砲治以下ノ科目	二 二等機關兵以下ノ科目
解 剖 學	一 骨關節及筋ノ概略 二 血行器、呼吸器、消化器及泌尿生殖器ノ概略 三 神經系及五官器ノ概略 四 身體外部名稱ノ概略	一 骨及筋ノ作用ノ概略 二 血液、淋巴ノ循環及呼吸ノ概略 三 消化、泌尿及皮膚作用ノ概略 四 神經及五官ノ概略
	一 骨關節及筋ノ概略 二 血行器、呼吸器、消化器及泌尿生殖器ノ概略 三 神經系及五官器ノ概略 四 身體外部名稱ノ概略	一 骨及筋ノ作用ノ概略 二 血液、淋巴ノ循環及呼吸ノ概略 三 消化、泌尿及皮膚作用ノ概略 四 神經及五官ノ概略
生 理 學	一 骨關節及筋ノ概略 二 血行器、呼吸器、消化器及泌尿生殖器ノ概略 三 神經系及五官器ノ概略 四 身體外部名稱ノ概略	一 骨及筋ノ作用ノ概略 二 血液、淋巴ノ循環及呼吸ノ概略 三 消化、泌尿及皮膚作用ノ概略 四 神經及五官ノ概略
	一 骨關節及筋ノ概略 二 血行器、呼吸器、消化器及泌尿生殖器ノ概略 三 神經系及五官器ノ概略 四 身體外部名稱ノ概略	一 骨及筋ノ作用ノ概略 二 血液、淋巴ノ循環及呼吸ノ概略 三 消化、泌尿及皮膚作用ノ概略 四 神經及五官ノ概略
藥 劑 學	一 劑藥及毒藥 二 規程藥品ノ性狀、效用、使用法及用量ノ概略 三 調劑法 四 滋養品調劑法	一 劑藥及毒藥 二 規程藥品ノ性狀、效用、使用法及用量ノ概略 三 調劑法 四 滋養品調劑法
	一 劑藥及毒藥 二 規程藥品ノ性狀、效用、使用法及用量ノ概略 三 調劑法 四 滋養品調劑法	一 劑藥及毒藥 二 規程藥品ノ性狀、效用、使用法及用量ノ概略 三 調劑法 四 滋養品調劑法
看 護 手 及 看 護 科 目	一 普通看護法、病室ノ溫暖法、換氣法及清潔法、換衣及換褥法 二 傳染病看護法、消毒法 三 呼吸脈搏及體溫検査法、内外整用法	一 普通看護法、病室ノ溫暖法、換氣法及清潔法、換衣及換褥法 二 傳染病看護法、消毒法 三 呼吸脈搏及體溫検査法、内外整用法
	一 普通看護法、病室ノ溫暖法、換氣法及清潔法、換衣及換褥法 二 傳染病看護法、消毒法 三 呼吸脈搏及體溫検査法、内外整用法	一 普通看護法、病室ノ溫暖法、換氣法及清潔法、換衣及換褥法 二 傳染病看護法、消毒法 三 呼吸脈搏及體溫検査法、内外整用法

看 護 病	一 患者飲食物及排泄物ノ注意 二 止血法、創傷ノ處置及防腐の制腐の製創法 三 救急法 四 沐浴法	武 科	一 徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 治療品出納規程、病院諸規則(此科目ハ看護手ニ限ル) 三 手旗信號	雜 科	一 普通學(讀書、作文、算術)分則 二 筆記及一等廚卒 三 筆記及一等廚卒科目	庶 務	一 海軍諸官廳ノ組織大要 二 公文書整理ノ大要 三 海軍諸規則ノ釋義	會 計	一 總給旅費其ノ他金錢給與事務ノ大要 二 衣糧及諸品經理ノ大要 三 衣糧保存法	普 通 學	一 讀書 句讀、訓點及解題(國語、漢文) 二 作文 和漢文、往來文 三 算術 四則、分數、珠算、加減、乘除、開方、行軍 四 體操 格行軍
-------------	---	--------	--	--------	---	--------	--	--------	---	-------------	---

武 科	一 徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 手旗信號	雜 科	一 英語 讀字、讀法、讀口 二 三等廚卒及主廚 三 二等主廚以下科目	會 計	一 衣糧經理ノ大要 二 衣糧保存法	廚 業	和洋料理	普 通 學	一 讀書 漢語、英語、國語、規則ノ四 二 作文 通俗文 三 算術 四則、分數、珠算、加減、乘除、體操、格行 四 體操 格行	武 科	一 徒手教練、拳銃操法及分解、結合 二 手旗信號	雜 科	一 讀書 漢語、英語、國語、規則ノ四 二 作文 通俗文 三 算術 四則、分數、珠算、加減、乘除、體操、格行 四 體操 格行
--------	-----------------------------	--------	--	--------	----------------------	--------	------	-------------	--	--------	-----------------------------	--------	--

備考  
一 本表中各科目ノ程度ハ等級ニ應シ酌量スヘキモノトス  
二 科目ニ精通シタル者ニハ其ノ科目ノ就業ヲ免スルコトヲ得  
三 各科教員、掌砲兵、掌水雷兵、水雷工、機關工、船匠工、兵器工及裝創諸狀所有ノ看護手、看護、筆記、狀所有ノ筆記、師等ニハ他ノ兵員ト混交シテ其ノ專門ニ關スル科目ヲ課スルコトヲ必要アルトキ別ニ教授スヘシ  
特別兵助手教習ヲ履行シタル者ノ教育モ之ニ準ス





第二條 定員ヲ補充スルハ總テ所定ノ等級ニ適合スルヲ要ス但シ所定等級ノ者ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ次級以下ノ者ヲ以テ補充スルコトヲ得

第三條 定期ノ補充及交代ハ五月及十一月ニ於テシ臨時ノ補充及交代ハ必要ニ應ジ臨時ニ之ヲ行フ

第四條 定期ノ補充及交代ハ左ノ諸號ニ依リ之ヲ行フ

一 鎮守府司令長官ハ五等水兵五等機關兵ノ卒業期ニ先チ其ノ卒業スヘキ人員ニ應ジ艦團其ノ他各部ニ配賦スヘキ人員ヲ豫定ス

二 前號ノ配賦人員過多ニシテ其ノ級ノ定員ヲ超過スルトキハ實地研究トシテ定員外ニ其ノ超過人員ヲ配賦スルモノトス

三 鎮守府司令長官ハ艦團其ノ他各部ニ於ケル各級定員ノ過不足ヲ調査シテ其ノ入團及補充人員ヲ定ムヘシ

四 鎮守府司令長官ハ補充交代實施期日ヲ定メ前諸號ノ人員ト共ニ之ヲ艦團其ノ他各部ノ長ニ告達シ期日ニ至リ補充交代ヲ實施スヘシ

五 艦團其ノ他各部ノ長第二號ノ實地研究人員過多ナルカ爲メ一時定員中ノ幾分ヲ減スルヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ入團セシメ實地研究ノ員外者ヲ以テ其ノ缺員ヲ補充シ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

六 定期補充交代期日ニハ艦船ハ差支ナキ限り各其ノ本籍鎮守府ノ軍港ニ到ルヘシ

七 艦團其ノ他各部遠隔ノ地ニ在ルカ若ハ止ムヲ得サル事故アリテ前諸號ニ依リ難キトキハ鎮守府司令長官ハ便宜補充交代期日ヲ延シ若ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五條 所管長官ハ所管艦團其ノ他各部定員ノ新置改正若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ臨時定員ノ補充交代ヲ必要ト認ムルトキハ適宜ニ之ヲ實施スヘシ但シ他ノ所管長官ニ屬スル艦團其ノ他各部ニ關係アルトキハ豫メ之ヲ該長官ニ協議スルヲ要ス

第六條 艦團其ノ他各部ノ長相互ノ協議ニ依リ其ノ部下下士卒ヲ交代セントスルトキハ其ノ一方ヨリ事由ヲ具シ本籍鎮守府司令長官ニ上申スヘシ司令長官ハ第一條及第二條ノ規定ニ背カサル限り之ヲ許可スルコトヲ得但シ雙方所管ヲ異ニスルトキハ上申ヲ受ケタル司令長官ハ之ヲ他ノ司令長官ニ協議スルモノトス

艦團其ノ他各部本籍鎮守府ト遠隔ノ地ニ在ルトキハ前項ノ許可ヲ受クルコトナク其ノ長ニ於テ協議ノ上便宜交代ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ之ヲ本籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第七條 艦團其ノ他各部ノ定員缺員ヲ生スルモ各兵種定員ノ十分ノ一ニ達セサレハ其ノ補充ヲナサハルヲ例トス但シ軍港所在ノ各部、本籍軍港ニ寄泊若ハ外國派遣ノ艦船ニ在テハ此ノ限ニアラス

第八條 艦船長ハ部下定員ニ缺員ヲ生スルトキハ實地研究トシテ員外乗組ノ四等卒ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ本籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第九條 五等軍樂生五等木工五等鍛冶五等看護五等主廚及信號練習生ノ卒業期ニ在テハ鎮守府司令長官ハ臨時ニ艦團其ノ他各部定員中各其ノ兵種ニ屬スル者ノ補充交代ヲ實施スルコトヲ得

第十條 艦團其ノ他各部ニ於テ急速ニ補充ヲ要シ本籍鎮守府ノ在籍者ヲ得ル邊ナキトキハ便宜直

接ニ他鎮守府司令長官ニ上申シ一時其ノ所管兵員ヲ以テ補充スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ本籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第十一條 艦團共ノ他各部ニ於テ特科ノ修業ヲ經タル者若ハ特種ノ職務ニ充ツヘキ下士卒ヲ要スルニ際シ本籍鎮守府ノ在籍者ヲ以テ之ヲ補充スルコト能ハサルトキハ該鎮守府司令長官ハ之ヲ他鎮守府司令長官ニ協議シ一時其ノ鎮守府ノ在籍者ヲ以テ補充スルコトヲ得

第十二條 兵學校、機關學校、砲術練習所、水雷術練習所及機關術練習所ノ教員トナス者ハ校長若ハ所長之ヲ選拔シ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ請求スヘシ司令長官ハ可成差繰リ共ノ請求ニ應スヘシ

第十三條 第十條及第十一條ノ場合ニ於テ本籍鎮守府ヨリ所要ノ兵員ヲ補充スルトキハ艦團共ノ他各部ノ長ハ速ニ他鎮守府ノ在籍者ヲ其ノ海兵團ニ入團セシムヘシ

第十四條 艦團共ノ他各部ノ長ハ進級若ハ定員改正等ノ爲メニ部下下士卒所定等級ノ定員ニ超過スルトキハ速ニ之ヲ本籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシムヘシ但シ定期補充交代期ニ切迫スルトキハ該期日ヲ待ツモノトス

艦船乗組ノ卒ニシテ前項ニ該當スル者アルトキハ差支ナキ限り乘艦ノ久シキ者ヨリ次ヲ逐フテ入團セシムルモノトス

第十五條 艦團共ノ他各部ノ長ハ毎月一日部下下士卒定員現員比較表第一號 特科兵定員現員比較表第二號 及定員中他管鎮守府在籍者表第三號ヲ作り之ヲ本籍鎮守府ノ兵事官ニ送附スヘシ練習生又ハ練習ノ爲メ乗組タル者及其ノ他ノ臨時在勤者ハ員外トシテ別ニ備考欄内ニ記入スヘシ兵事官ハ毎月第一項ノ通牒ニ依リ他管鎮守府在籍者ヲ調査シ共ノ月内ニ之ヲ共ノ鎮守府兵事官

ニ送附スヘシ

第十六條 軍樂手及軍樂生ハ其ノ原籍ヲ横須賀鎮守府ニ置ク

横須賀鎮守府司令長官ハ各鎮守府及艦隊ニ於ケル軍樂手及軍樂生ノ定員ニ應スル配置ヲ設定シ且ツ時期ヲ定メ輪番交代セシムヘシ

第十七條 水雷敷設隊ノ定員ニ充ツヘキ四等水兵ハ徵兵ノミヲ以テ補充シ其ノ員數ハ三四等水兵ノ定員ノ半數ヲ超ルコトヲ得ス

前項ニ依リ水雷敷設隊勤務ヲ命セラレタル者ハ其ノ現役中差支ナキ限り恆ニ水雷敷設隊ノ定員ニ充ツルモノトス

第十八條 東京及横須賀軍港所在ノ各廳勤務ノ下士卒ハ横須賀鎮守府ヨリ吳軍港所在ノ各廳及臨時建築支部勤務ノ下士卒ハ吳鎮守府ヨリ竹敷要港部及臺灣總督府勤務ノ下士卒ハ佐世保鎮守府ヨリ之ヲ補充交代ス

第十九條 常備艦隊司令長官旗艦增加定員タル下士卒ハ横須賀鎮守府ヨリ同司令官旗艦增加定員タル下士卒ハ一組ヲ吳鎮守府ヨリ一組ヲ佐世保鎮守府ヨリ一組ヲ横須賀鎮守府ヨリ補充交代シ四組以上ヲ要スルトキハ此ノ順序ニ依リ各鎮守府ヨリ補充交代スルモノトス

第二十條 佐世保鎮守府司令長官ハ竹敷要港部勤務ノ下士卒ヲ約二箇年毎ニ又馬公水雷敷設隊勤務ノ下士卒ヲ約十八箇月毎ニ共ノ他ニ在ル下士卒ト交代セシムヘシ但シ特種ノ職務ニ充ツルモノ若ハ引續キ共ノ地勤務ヲ志望スル者ハ交代セシメサルコトヲ得

附則

前項ニ依リ交代セシムヘキ人員及時期ハ司令長官之ヲ定ム

第二十一條 明治二十六年達第四百一十一號明治三十一年達第二百一號明治三十二年官房第三五一五號及同第四〇一三號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第一號樣式

發送番號		明治 年 月 一日 調													
		(艦團其ノ他各部職名)													
下士卒定員現員比較表															
		卒						下 士							
合計	四	三	二	一	等級 兵種	水兵	信號兵	木工	機關兵	鍛冶	看護	主	廚	合計	
															兵曹

第二號樣式

發送番號		明治 年 月 一日 調												
		(艦團其ノ他各部職名)												
特科兵定員現員比較表														
考備 シ	本表ニハ缺員若ハ過員ノ數ノミヲ記入スルモノニシテ缺員數ハ黑字ヲ用ヒ過員數ハ朱字ヲ用フヘシ	掌砲兵	掌水雷兵	機關工	水雷工	兵器工	船匠工							

第三號樣式

發送番號		明治 年 月 一日 調												
		(艦團其ノ他各部職名)												
定員中他管領守府在籍者表														
所管	職	員	數											

〔参照〕

明治二十六年十一月二日 海軍省達第四百四十一號 海軍砲術、水雷術及機關術練習所ノ教員ト爲スヘキ海軍下士卒選抜ニ關スル件同三十一年六月七日 海軍省達第四百二號 海軍兵學校及機關學校ノ教員ト爲スヘキ海軍下士選抜ニ關スル件ナリ

○海軍省達第十三號

海軍准士官下士任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十四年二月二十日

海軍大臣山本權兵衛

第二條中「一等兵曹及一等信號兵曹ヨリ准士官ニ」ヲ「一等兵曹ヨリ上等兵曹ニ」ニ改メ第四號ヲ削除ス

第三條第一項中「及艇隊司令」ヲ「驅逐隊司令及艇隊司令」ニ改ム

第五條第二項中「五月三十一日十一月三十日」ヲ「四月一日十月一日」ニ改ム

第七條中「四月一日十月一日」ヲ「三月一日九月一日」ニ改ム

第十條 停年ヲ算スルハ二月盡日八月三十一日ヲ以テ期限トシ三月一日九月一日ノ現在所屬ニ就

キ拔擢名簿ヲ調製スヘシ

拔擢名簿ハ三月一日九月一日ノ所屬ニ依リ三月三十一日九月三十日マテニ第一條第一項ノ司令

長官ニ進達スヘシ

候補名簿ヲ海軍大臣ニ進達スルハ四月三十日十月三十一日ヲ以テ期限トス

第十三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

實務ノ欄ニハ日常ノ勤務教練及事業上ニ就キ各自ノ能否ヲ論定シ其ノ狀況通常ナル者ニ七十點以上佳良ナル者ニ八十點以上優等ナル者ニ九十點以上ヲ與フルモノトス但シ全點百點ヲ與フル

ハ非凡拔群ノ者ニ限ルヘシ

書式第一中任用(進級)試験得點百分比ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

(「」内ハ朱書)

任用(進級)試験得點百分比		實務
「七〇」	「八〇」	「九〇」
「七〇」	「八〇」	「七五」
「七〇」	「九〇」	「六〇」
「七〇」	「九〇」	「七五」
「七〇」	「九〇」	「九〇」

書式第三中任用試験得點百分比ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

任用試験得點百分比		實務
「八〇」	「九〇」	「一〇〇」
「八〇」	「九五」	「八六三」
「八〇」	「八〇」	「八六三」
「八〇」	「八〇」	「一〇〇」
「六五」	「七五」	「八〇」
「六五」	「八五」	「七〇」
「六五」	「五五」	「七〇」
「六五」	「七〇」	「八〇」

書式第四中任用試験成績百分比ノ欄ヲ左ノ如ク改ム



任用試験成績百分比		實務	
海軍省	海軍省	海軍省	海軍省
「一〇〇」	「九〇」	「九〇」	「九〇」
「八五」	「七五」	「八〇」	「七〇」
「七五」	「七〇」	「六〇」	「七六七」
「八〇」	「七〇」	「九〇」	「八〇」
「七〇」	「六〇」	「七〇」	「八〇」
「六〇」	「五〇」	「六〇」	「七〇」
「五〇」	「四〇」	「五〇」	「六〇」
「四〇」	「三〇」	「四〇」	「五〇」
「三〇」	「二〇」	「三〇」	「四〇」
「二〇」	「一〇」	「二〇」	「三〇」
「一〇」	「〇」	「一〇」	「二〇」

〔参照〕

海軍省達第七十七號海軍准士官下士任用進級取扱規則(明治二十九年九月十四日)抄録

第二條 拔擢名簿ハ各在籍鎮守府ニ分チ更ニ之ヲ各兵種各等級ニ区分シ調製スルモノトス

一等兵曹及一等信號兵曹ヨリ准士官ニ任スヘキ者ノ拔擢名簿ハ前項ニ依ルノ外尙左ノ如ク区分ス但艦隊ニ在テハ各鎮守府ヲ通シテ之ヲ調製スヘシ

四 信號ノ職ニ充ツヘキ者

第三條 艦隊司令長官ハ參謀長及同藩内ニ在ル部下ノ司令官、艦隊長及艦隊司令ヲ會同シ鎮守府司令長官ハ參謀長及軍港内ニ在ル部下ノ艦隊長ノ外各部ノ長ヲ會同シ拔擢名簿ニ就キ其ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士任用進級決定候補名簿ヲ調製スヘシ

第五條第二項

上級ニ缺員アリ其ノ次級ノ候補者ノ數之ヲ補フニ足ラサルトキハ其ノ不足數ヲ順次次級以下ノ任用進級セシムヘキ數ニ加算スルコトヲ得但准士官ノ不足數ヲ一等下士以下ノ任用進級セシムヘキ數ニ加算スル場合ニ在テハ其ノ年五月三十一日十一月三十日現在所管ノ艦隊部及各艦隊准士官ノ定員現員ニ基キ算出スルモノトス

第七條 拔擢名簿ニ登録シタル者ニシテ四月一日十月一日以後其ノ所屬ニ異動ヲ生シタルトキハ前調製官ヨリ其ノ拔擢ノ有無ヲ新調製官ニ通知スヘシ新調製官ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル者ニシテ名簿ヨリ除クヘキ者由ラ生シタルトキハ之ヲ前調製官ニ通牒スヘシ

第十條 停年ヲ算スルハ三月一日九月一日ヲ以テ期限トシ四月一日十月一日ノ現在所屬ニ就キ拔擢名簿ヲ調製スヘシ

拔擢名簿ヲ司令長官ニ進達スルハ五月一日十一月一日ヲ以テ期限トシ候補名簿ヲ海軍大臣ニ進達スルハ五月三十一日十一月三十日ヲ以テ期限トス

○海軍省達第十四號

海軍准士官下士任用進級試験規則中左ノ通改正ス

明治三十四年二月二十日

海軍大臣山本權兵衛

第三條中「四月及十月」ヲ「三月及九月」ニ改ム

第四條中「部下士官以上」ヲ以テ委員ヲ組織シ准士官ヲ補助委員トナシ「部下將校及同相當官」ヲ以テ委員ヲ組織シ兵曹長同相當官及准士官ヲ補助委員トナシ「臺灣總督府軍務局海軍部勤務」ノ下士ハ當該課長委員長トナリ「臺灣總督府海軍幕僚附」ノ下士ハ首席參謀委員長トナリニ改ム

第五條中「上等兵曹」ヲ「兵曹長上等兵曹」ニ改ム

第八條 削除

第十三條 試験委員長ハ三月一日九月一日ニ於ケル受験者ノ所屬長ニ其ノ試験成績ヲ通知スヘシ

第十四條 下士卒ノ試験科目ハ分テ學科及雜問ノ二トス

第十五條 學科試験ハ海軍下士卒教育規則ニ掲グル教育科目ニ就キ左ノ諸號ニ依リ試験ヲ行フモノトス

一 學科試験ハ受験者ノ等級ニ應シテ難易ヲ區別スヘシ

二 兵曹及水兵ニ在テハ練習號教育科目中運用術ノ各科目及砲術(銃隊操式ノ外)若ハ水雷術中ノ一科目竝ニ銃隊操式ニ就キ他ノ下士卒ニ在テハ各其ノ練習號教育科目ニ就キ試験ヲ行フ

- 三 練習號教育科目中雜科ハ必シモ試験スルヲ要セスト雖普通學ハ各兵種ノ下士及一等卒ニ在テハ必ス試験スヘキモノトス
- 四 驅逐艦水雷艇ノ乘員ニ在テハ第二號ノ試験ヲ免除シ水雷艇員教育科目ニ就キ試験ヲ行フモノトス
- 五 特別練習號ニ編入セラレタル者ニ在テハ第二號若ハ第四號ノ試験ヲ免除シ特別練習號教育科目中既ニ修了シタルモノニ就キ試験ヲ行フモノトス
- 第十六條 雜問試験ハ各部署ニ於ケル本務、海軍敬禮式及服裝ニ關スル事項竝ニ海軍下士若ハ卒トシテ知ラサル可カラサル事項ニ就テ試問スルモノトス
- 第十七條 教員ノ職ヲ奉スル者、掌砲兵、掌水雷兵、水雷工、機關工、船匠工、兵器工及教員適任證書、軍樂高等科卒業證書、裝創證狀、掌記證狀ヲ有スル者ニ在テハ、各其ノ專門ニ屬スル科目ノ學科試験ヲ免除シ雜問ニ於テ各其ノ專門ニ屬スル科目中二三ノ事項ヲ試問スヘシ
- 第十八條 練習所及海兵團ニ於テ練習中ノ下士卒ニ在テハ學科試験ヲ免除シ雜問ニ於テ學科試験科目中二三ノ事項ヲ試問スヘシ
- 第十九條 戰時若ハ事變ニ際シ學科試験ヲ行フコト能ハサルトキハ之ヲ免除ス但シ事情ノ許ス限リ雜問ノ試験ヲ行ヒ學科試験科目中二三ノ事項ヲ試問スヘシ

別表ヲ削除ス

〔參照〕 海軍省達第九十三號海軍准士官下士任用進級試驗規則(明治二十九年十月十二日)抄錄

- 第三條 任用進級試驗ハ三等卒以上ニ在テハ毎年四月及十月ニ於テ、四等卒ニ在テハ毎年五月及十一月ニ於テ施行スヘシ
  - 第四條 任用進級試驗ハ海軍武官考課表規則ニ記載スル所屬ノ長(所屬ノ長將官若クハ同相當官ナルトキハ次府將校若クハ同相當官)委員長トナリ部下士官以上ヲ以テ委員ヲ組織シ准士官ヲ補助委員トナシ要スルトキハ下士ヲ加ヘ所屬毎ニ之ヲ行フ但シ海軍總督府事務局海軍部勤務ノ下士ハ當該課長委員長トナリ本條ノ例ニ準シ之ヲ行フ
  - 第五條 委員若クハ補助委員ニ將校若クハ上等兵曹ヲ編入シ難キ各屬ニ在テハ其ノ驅勤務ノ下士卒ノ運用史料及信號ノ試驗ハ各在籍鎮守府ニ屬スル海兵團ニ於テ之ヲ行フ
  - 第八條 練習中ノ下士卒ニハ實務及雜問ノ試驗ノミヲ行ヒ雜問ニ於テ他ノ學科ニ對スル二三ノ答問ヲ爲サシム
  - 第十三條 試驗委員長ハ試驗終了ノ後試驗及第者ニ就キ其ノ等級及實務ノ得點(百%)ニ從ヒ順序ヲ定メ其ノ成績表ヲ調製シ下士及一等卒ノ試験成績表ハ本人ノ屬スル所管長官ニ報告スヘシ但シ試驗ノ成績ハ所屬長ヨリ本人在籍鎮守府ノ兵曹官ニ通報スヘシ
  - 第十四條 試驗ノ科目ハ別表ニ依ル
- 海軍省達第十五號
- 海軍卒進級條例中左ノ通改正ス
- 明治三十四年二月二十日 海軍大臣山本權兵衛
- 第六條第一項中「四月一日及十月一日」ヲ「二月盡日及八月三十一日」ニ「五月十五日及十一月十五日」ヲ「四月三十日及十月三十一日」ニ改ム
- 第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム
- 艦團其ノ他各部ノ長ハ三月一日九月一日現在セシ部下二等卒三等卒若ハ四等卒ノ進級試驗成績ト實務ノ能否ニ依リ進級セシムルニ適スル者ヲ撰拔シ之ヲ在籍鎮守府及各兵種等級ニ區別シテ順序ヲ定メ候補名簿ヲ調製シ候補者ノ員數ヲ各在籍鎮守府ノ司令長官ニ報告スヘシ但シ實務ノ能否ヲ定ムルハ海軍准士官下士任用進級取扱規則第十三條ニ準スヘシ

〔參照〕

海軍省達第七十八號海軍本進級條例(明治二十九年九月十四日)抄録  
 第六條 實役停年ハ海上勤務若クハ陸上勤務ヲ以テ算シ二等卒及三等卒ニ在テハ四月一日及十月一日四等卒ニ在テハ五月十五日及十一月十五日ヲ以テ期限トス  
 第十一條 艦團其ノ他各部ノ長ハ部下二等卒三等卒若ハ四等卒ノ進級試験ヲ行ヒタルトキハ進級セシムルニ適スル者ヲ選拔シ之ヲ在籍鎮守府及各兵種等級ニ區別シ其ノ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ停年計算期限ノ現在所屬ニ就キ其ノ長候補名簿ヲ調製シ候補者ノ員數ヲ各在籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

○海軍省達第十六號

海軍武官考課表規則中左ノ通改正ス

明治三十四年二月二十日

海軍大臣山本權兵衛

- 第三條第三項中「在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官」ヲ「在籍鎮守府ノ司令長官」ニ改ム
- 第四條中「三月一日」ヲ「三月一日九月一日」ニ改ム
- 第五條 考課表ヲ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スルハ准士官以上ニ在テハ八月三十一日マテトス下士ニ在テハ三月三十一日九月三十日マテニ司令長官ニ進達シ四月三十日十月三十一日マテニ海軍大臣ニ進達スルモノトス但シ進級資格ヲ有スル下士ノ考課表ハ三月一日九月一日ノ所屬ニ依リ
- 第三條第三項ノ司令長官ニ進達スヘシ
- 第六條中「毎年一回」ヲ削除ス
- 第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
- 第十條 進級資格ヲ有スル一等卒ニ在テハ下士ニ準シ其ノ考課表ヲ調製進達スヘシ

〔參照〕

海軍省達第二十六號海軍武官考課表規則(明治二十九年四月二日)抄録  
 第三條 考課表ハ左ノ諸項ニ依リ進達又ハ移牒スヘシ

准士官以上ニ在テハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スヘシ  
 艦隊司令長官ノ麾下ニアル下士ニ在テハ順序ヲ經テ各其ノ司令長官ニ進達シ其ノ他ノ下士ニ在テハ艦船團其ノ他各部ノ長ハ各其ノ在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ニ進達又ハ移牒スヘシ但シ一等下士ニ在テハ各司令長官ヨリ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ  
 第四條 考課表ハ准士官以上ニ在テハ六月三十日下士ニ在テハ三月一日ノ所屬ニ就キ之ヲ調製スルモノトス但シ其ノ調製時期ニ近接シ所屬ニ異動ヲ生スルトキハ前調製官ハ新調製官ニ自己ノ意見書ヲ移牒スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新調製官ハ之ヲ自己ノ調製セシ考課表ニ添附スヘシ  
 第五條 考課表ヲ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スルハ准士官以上ニ在テハ八月三十一日マテトス下士ニ在テハ五月一日マテニ司令長官ニ進達シ五月三十一日マテニ海軍大臣ニ進達スルモノトス  
 第六條 考課表ハ毎年一回第四條ノ期限ニ於テ調製スルヲ定メトス但シ臨時報告ヲ要スヘキ事件アルトキハ其ノ都度之ヲ調製シ進達又ハ移牒スヘシ

○宮内省達甲第二號

東宮御所御造營局官制第二條中技師三人ヲ四人ニ改ム

明治三十四年三月十九日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸達第十號

政府ノ保管ニ屬スル左記ノ物品ハ明治三十四年度ヨリ陸軍物品會計規程第十九條ニ據リ取扱フ

明治三十四年三月四日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

一軍法會議ニ於テ證據物件トシテ押收セル物品

一陸軍監獄ニ於テ領置セル在監人ノ物品

○陸達第十一號

明治三十二年陸達第五百五十九號達臂章圖中靴工長靴工ノ區畫ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十四年三月六日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

(品實排紙)



明治三十四年三月

宮内省第二號

陸軍省陸達第十號

陸達第十一號

○陸軍第十二號

陸軍勤務演習教令別冊ノ通定ム

但明治二十六年陸軍第八號同第九號同第二十七號同第二十八號同第二十九號同第五十七號同第五十八號同第五十九號明治二十七年陸軍第六十一號明治三十年陸軍第二十五號ヲ廢止ス

明治三十四年三月十二日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

(別冊)

陸軍勤務演習教令

第一章 總則

第一條 勤務演習ヲ分テ左ノ三種トス

第一種

陸軍補充條例ノ規定ニ據リ一年志願兵終末試験及第證書ヲ得テ豫備役ニ入りタル者ノ勤務演習

陸軍補充條例ノ規定ニ據リ豫備役後備役准士官下士ニシテ士官適任證書ヲ所持スル者ヲ士官ニ任スル爲メニ行フ勤務演習

第二種

陸軍豫備後備武官進級令ノ規定ニ據リ豫備役後備役將校同相當官並ニ下士ヲ進級セシムル爲メニ行フ勤務演習

第三種

徵兵令及陸軍服役條例ノ規定ニ據リ豫備役後備役將校同相當官准士官下士兵卒第一補充兵並

ニ歸休兵ヲシテ復習ヲナサシムル爲メニ行フ勤務演習

第二條 第一種及第二種ノ勤務演習ニ在リテハ平戰兩時ノ諸勤務ニ習熟セシムル爲メ各種ノ教練演習作業ヲ施行シ以テ必要ノ技能ヲ修得セシメ任官若クハ進級ノ資格ヲ得セシムルヲ以テ目的トシ第三種ノ勤務演習ニ在リテハ專ラ戰時諸勤務ニ堪ヘキ能力ヲ保持セシムルヲ目的トス

第三條 各種勤務演習ノ爲メ召集スヘキ人員及時期ハ師團長監督部軍吏部ノ者ニ在リテハ監督部部長之ヲ定ムルモノトス但演習人員ノ多寡ニ應ジ演習者ヲ二回若クハ數回ニ分チテ召集スルコトヲ得

他師管ヨリ召集スル場合ニ在リテハ其時期ハ師團長關係師團長ト協議ノ上定ムルモノトス

第四條 各種勤務演習員第一種第一項ノ勤務スヘキ部隊及監督者ハ附表第一號ニ據ル

第二章 第一種勤務演習  
第五條 豫備役後備役見習士官同見習醫官同見習藥劑官同見習獸醫官同見習軍吏ノ勤務演習日數ハ九十日トシ其教習セシムヘキ科程ハ附表第二號其一二其三其四ノ如シ

第三章 第二種勤務演習

第六條 將校同相當官ノ勤務演習日數ハ左ノ區分ニ據リ其教習セシムヘキ科程ハ附表第二號ノ科目ヲ適宜斟酌シ概ネ現役將校同相當官ト同一ニ施行ス但監督部上長官士官ノ爲メニハ附表第二號其四ノ科目ヲ擴張スルモノトス

一 各兵科上長官士官ハ豫備役ニ在リテハ六週間、後備役ニ在リテハ四週間  
二 各部上長官士官ハ豫備役ニ在リテハ四週間、後備役ニ在リテハ二週間

第七條 下士ノ勤務演習日數ハ豫備役ニ在リテハ四週間、後備役ニ在リテハ二週間トシ其教習セ

シムヘキ科程ハ各兵科下士ニ在リテハ陸軍各兵科下士上等兵教育教令ニ據リ概ネ現役下士ト同  
一ニ施行ス但技術專修者ニ在リテハ必要ニ應シ其技術ヲ教習ス  
各部下士及蹄鐵工長ノ科程ハ當該監督部長軍醫部長獸醫部長之ヲ定メ師團長ノ承認若クハ認可  
ヲ經テ當該部隊長ニ通報ス

第四章 第三種勤務演習

第一款 將校同相當官及准士官

第八條 勤務演習ノ日數ハ左ノ區分ニ據リ其復習スヘキ科程ハ第六條ニ準ス但勤員計畫上特種ノ  
戰時職務ヲ有スルモノハ之ニ適應スル勤務ヲモ修得セシム  
一 各兵科上長官士官及准士官ハ豫備役ニ在リテハ三週間後備役ニ在リテハ二週間トス  
二 各部長官士官ハ豫備役ニ在リテハ三週間後備役ニ在リテハ二週間トス  
第九條 復習ノ爲メ豫備役後備役將校同相當官及准士官ヲ召集スルハ各兵科ニ在リテハ其役ニ入  
リタル翌年ヨリ隔年、各部ニ在リテハ各役内一回トス但特ニ志願スル者ハ本條ノ外特ニ召集ス  
ルコトヲ得

第二款 下士

第十條 下士ノ勤務演習日數ハ豫備役ニ在リテハ三週間、後備役ニ在リテハ二週間トシ其復習セ  
シムヘキ科程ハ第七條ニ準ス但各兵科下士中技術專修ノ者ニ在リテハ本科ノ諸科目ヲ適宜省略  
シ各其專科ノ業務ヲ復習セシムルヲ要ス  
第十一條 復習ノ爲メ豫備役後備役下士ヲ召集スルハ各兵科ニ在リテハ其役ニ入リタル翌年ヨリ  
隔年、各部ニ在リテハ各役内一回トス但現役ヲ離ル、トキ其服役シタル年月ヲ通算シ九年ヲ超

過シタル者ハ復習ノ爲メ召集スルコトナク

第十二條 豫備役後備役兵卒中下士適任證書ヲ所持スル者ハ本款ニ據リ復習セシム

第三款 兵卒

第十三條 復習ノ爲メ兵卒ヲ召集スルハ左ノ諸兵ノミヨシ其召集年次及召集日數ハ附表第三號ニ  
據ル

一 豫備役後備役各兵科上等兵及看護卒並ニ豫備役看護手及各兵科一、二等卒

二 步兵野戰砲兵及工兵ノ第一補充兵

三 警備步兵隊ノ歸休兵

第十四條 歸休兵歸休兵ハ秋季演習ノ際要員ヲ充足スル爲メ又ハ兵器典範改正ノ際等必要ア  
ルトキ之ヲ召集ス

第十五條 砲兵輸卒及輜重輸卒ハ豫備役後備役ヲ問ハス秋季演習ノ際要員ヲ充足スルニ必要アル  
トキハ召集スルコトヲ得

第十六條 復習セシムヘキ科程ハ各兵科ニ在リテハ附表第四號ニ據リ其他ノ者ニ在リテハ概ネ現  
役ニ準シ復習セシムヘシ但電信通信術要塞通信術電燈使用法修業者鼓手喇叭手及諸工卒ノ爲メ  
ニハ附表ノ諸科目ヲ適宜省略シ各其專科ノ業務ヲ復習セシムルヲ要ス

第五章 雜則

第十七條 第三種勤務演習ヲ秋季演習ノ際施行セントスルトキハ該勤務演習ノ日數ニ更ニ二週間  
以內ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 第一種ノ勤務演習ヲ爲サシムル者ハ第三種勤務演習ニ召集セシ者ノ中ヨリ選擇ス但第  
六條第七條ノ日數ハ第八條第十條ノ日數ヲ通算スルモノトス



考	<p>三 要務通情術電報使用法修業ノ下士兵卒ハ左ノ區分ニ據リ召集シ其技術ニ關スル實習ハ其地 茲城郡支那長之ヲ監督ス</p> <p>第一、第二師管ハ 東京灣要塞砲兵大隊 第三、第四師管ハ 由良要塞砲兵大隊 第五師管ハ 吳要塞砲兵大隊 第六師管ハ 佐世保要塞砲兵大隊 第七、第八師管ハ 函館要塞砲兵大隊 第九、第十師管ハ 舞鶴要塞砲兵大隊 第十一師管ハ 松島要塞砲兵大隊 第十二師管ハ 下ノ關要塞砲兵大隊</p> <p>四 計手通任職書ヲ所持スル各兵科下士ハ軍吏部下士ニ同シ</p> <p>五 衛生部下士兵卒ノ調劑看護勤務ハ新成病院ニ於テ實習セシメ新成病院長之ヲ監督ス</p> <p>六 應得ニ在リテハ師團司令部所在地ヲ臺北ニ換フ</p>
---	---

附表第二號 其一

豫備役後備役見習士官勤務演習科程表

科	目	要
編	<p>一 操典及教範ハ其本科ノミナラス各兵種ノ典範中戰團ニ 必要ナル部ヲ摘譯シ以テ各兵種所ノ原則ヲ教習セシムルヲ要ス</p> <p>二 戰術ハ士官學校戰術學教程ノ程度ヲ以テ基準トシ小 隊中隊ノ戰團動作ヲ講習セシメ尙ホ團上戰術實施、兵 棋、現地講話等ニ依リ原則ノ應用並ニ諸兵連合小支隊 ノ戰術ヲ攻究セシムルヲ要ス</p> <p>三 演習ハ路上並ニ目算演習ニ習熟シ且略圖ノ調製ニ慣レ シムルヲ要ス</p> <p>又兵種ニ依リ迅速演習ヲ施行セシムルヲ可トス</p>	<p>一 教練及野外演習ニ於テハ主トシテ小隊長ノ勤務ニ關セ シメ且中隊ノ指揮ニ慣レシムルヲ要ス</p> <p>又勤務演習中必ス一回ハ將校團教育實施教令第三條乃 至第六條ニ準シ野外演習ヲ行ハシムルニシ</p> <p>二 作業ハ職種ノ工製破壞、築橋等ニシテ各兵科ノ業務 ニ關スルモノヲ實施若クハ指揮セシムルモノトス</p> <p>三 召集時期ノ關係ニ依リ火砲ノ實際射撃ヲ實施セシムル コト能ハサルトキハ適宜ノ方法ニ依リ射法ヲ練習セシ ムルヲ要ス</p>

科	要
考	<p>一年志願兵又ハ准士官下士服役中修得不充分ナル學術科ハ本表科目外適宜之ヲ補修セシムルヲ 要ス</p>

附表第二號 其二

豫備役後備役見習醫官見習藥劑官勤務演習科程表

科	目	要
學	<p>見習醫官 平戰兩時勤務學 軍醫衛生學 軍醫外科學 理化學の細菌學的試驗 軍隊經理概要 製圖法 見習藥劑官 平戰兩時勤務學 監軍藥局方 外科器械學</p>	<p>一 勤務學中殊ニ撰兵醫兵及恩給ニ關スル取扱及報告文書ニ 係ル事務等ニ習熟セシムルヲ要ス</p> <p>二 軍隊經理概要中殊ニ病院經理及軍隊ノ被服糧食等給與ニ 關スル概要</p> <p>製圖法ハ地圖ヲ讀ミ得ルニ差支ナキヲ程度トス</p>







〔參照〕

明治三十二年三月陸軍第十三號ハ會計法ニ依リ常時現金前渡ヲ受クヘキ資格ヲ有スル官吏ノ件ナリ

○陸軍第十六號

明治三十四年十二月經理學校へ入校セシムヘキ監督學生ノ人員八十名トス

明治三十四年三月十九日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸軍第十七號

陸軍乘馬飼養條例施行規則中左ノ通改正ス

明治三十四年三月二十四日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第四條中第二項ノ但書ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

斃死發疾ノ事情如何ニ由リ乘馬委員ハ前二項ノ規定ニ係ハラズ代金ヲ減免シ又ハ其全部若ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

〔參照〕

陸軍第五百五號陸軍乘馬飼養條例施行規則(明治二十九年十月十五日)抄録

第四條 支給乘馬其保額期限内ニ於テ斃死シ若クハ發疾ニ罹リタルトキハ飼養者ヨリ代金ヲ徵收シテ更ニ支給ス  
斃死發疾公務ニ起因シタルトキハ代金ヲ徵收セス但飼養者ノ不注意ヨリ生シタルトキハ尙前項ニ據ル

○陸軍第十八號

明治三十四年度中衛成病院條例第七條ノ定額ハ一日金十三錢五厘同條例第九條ノ定額ハ一日金二

錢八厘トス又屯田兵移住給與規則第十六條ノ徵收費額及明治二十五年陸軍第二十六號ノ定額ハ一日金三錢三厘七毫未滿ノ者ハ金一錢七厘トス

明治三十四年三月二十九日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

〔參照〕

勅令第二十七號衛成病院條例(明治三十一年二月二十一日官報)抄録

第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支辨トス但准士官以上ノ醫員及自費服役ノ一年志願兵並軍醫ニシテ其ノ傷疾疾病公務ニ起因セサル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム

第九條 營外居住タル軍人軍醫ノ患者ハ入院ヲ要スル者ノ外衛成病院ヨリ藥物藥用品ヲ與フルコトナシト雖モ土地ノ情況又ハ救急處置等ノ爲メ止ラ得サル場合ニ限リ軍醫ノ處方ニ據リ之ヲ與フルコトヲ得但此ノ傷疾疾病公務ニ起因セサル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム

勅令第九十六號屯田兵移住給與規則(明治二十七年七月十二日官報)抄録

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

陸軍第二十六號(明治二十五年三月三十一日)

北海道ニ於テ藥局ナキ地方又ハ藥局アルモ止ムヲ得サル場合ニ當リ官費治療ヲ受ケサル軍人軍醫及其家族ニシテ軍醫ノ處方ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請求シタルトキハ屯田兵部隊ノ藥室ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但軍人軍醫ノ傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノ、他ハ其定額ヲ納メシム

○陸軍第十九號

要塞用一號測腔機 加式鋼製二十八口徑二十七瓏米加農用 制式別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)

明治三十四年三月二十九日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸軍第二十號

明治二十六年陸軍第三百二十三號左ノ通改正シ明治三十四年五月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十九日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

陸軍省所管出納官吏身元保證金取扱規程

第一條 出納官吏ノ所屬長ハ該官吏ノ任免異動ヲ第一號甲書式ニ準シ當該仕拂命令官ニ報告スヘシ

仕拂命令官（陸軍省委員ニ係ルモノハ左ノ標準ニ依リ身元保證金額ヲ當該所管内ニ就職シタル出納官吏ニ達スヘシ但シ出納官吏ノ所屬長ニ委任シテ之ヲ達セシムルヲ得  
其ノ取扱金額、保管價格ニ増減アリタルトキ亦同シ

現金前渡ヲ受クル官吏  
收入官吏

政府ニ屬スル歳入歳出外現金ヲ取扱フ出納官吏

取 扱 額	身 元 保 證 金 額
五百圓以上壹萬圓未満	四 拾
壹萬圓以上五萬圓未満	百
五萬圓以上拾萬圓未満	百 四 拾
拾萬圓以上	貳 百

物品會計官吏

保 管 物 品 價 額	身 元 保 證 金 額
千圓以上壹萬圓未満	貳 拾
壹萬圓以上五萬圓未満	五 拾
五萬圓以上拾萬圓未満	七 拾
拾萬圓以上	百

第二條 仕拂命令官前條達濟ノ上ハ直ニ第一號書式ニ依リ大藏大臣及會計検査院長（物品會計官吏長ノミ）ニ報告スヘシ

第三條 出納官吏現金ヲ以テ身元保證金ヲ納付セントスルトキハ現金ヲ金庫ニ預ケ入レ其ノ保管

證書ヲ得之レニ第二號書式ノ納付證書ヲ添ヘ當該仕拂命令官ニ差出シ同官之ヲ保管スヘシ

第四條 出納官吏土地ヲ現金ニ代用シテ納付セントスルトキハ第三號書式ノ土地抵當權設定登記

請求書ニ通及第四號書式ノ土地抵當權設定證書一通ヲ當該仕拂命令官ニ差出スヘシ

第五條 仕拂命令官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ登記囑託ノ手續ヲナシ登記所ヨリ登記濟證

書ノ廻付ヲ受ケ之ヲ保管スヘシ

第六條

出納官吏有價證券ヲ現金ニ代用シテ納付セントスルトキハ利札付ノ儘之ヲ金庫ニ預ケ入

レ其ノ保管證書ヲ得之ニ第五號書式ノ質權設定證書ヲ添ヘ當該仕拂命令官ニ差出シ同官之ヲ保

管スヘシ

記名公債證書ナルトキハ記名者ヲレテ其ノ記名證印ヲ爲シタル取扱店ノ承諾書又記名勸業債券

ナルトキハ記名者ヲシテ其ノ發行者タル會社ノ帳簿ニ質權設定記入濟ノ書面ヲ受ケシメ之ヲ當

該出納官吏ヨリ差出サシムヘシ

第七條 現金ニ代用スル土地若ハ有價證券ハ其ノ價格身元保證金額ニ對シ過剩アルモ其ノ儘納付

スルヲ妨ケス

第八條 職職ヲ兼ル出納官吏ノ身元保證金ハ各職毎ニ區別シテ納付スヘシ

第九條 仕拂命令官身元保證金納付済トナリタルトキハ第六號書式ノ納付濟證ヲ當該出納官吏ニ

交付スヘシ

第十條 出納官吏保證人ヲ立テ身元保證金ノ一部若ハ全部ノ免除ヲ請ハントスルトキハ第七號書

式ノ願書ニ相當ノ證明ヲ受ケタル保證人ノ資産調書ヲ添ヘ仕拂命令官ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 仕拂命令官前條ノ認可ヲナシタルトキハ當該出納官吏ヨリ其ノ保證人ノ調製シタル第八號書式ノ身元保證金辨償引受證書ヲ徴シ之ヲ保管シ且ツ第九號書式ニ依リ其ノ保證人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院長ニ通知スヘシ

第十二條 出納官吏甲屬ニ於テ納付シタル身元保證金ヲ乙屬ニ轉用セントスルトキハ第十號書式ノ請求書ヲ乙屬所管ノ仕拂命令官ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

甲乙其ノ所管ヲ異ニスル場合ニ在テハ乙屬所管ノ仕拂命令官ハ直ニ之ヲ甲屬所管ノ仕拂命令官ニ通報シ保管證書若ハ土地抵當權設定證書、質權設定證書ノ廻付ヲ受ケ保管スヘシ

第十三條 出納官吏身元保證金ノ拂戻ヲ請ハントスルトキハ第十一號書式ノ請求書ニ身元保證金納付済證並認可狀寫ヲ添ヘ當該仕拂命令官ニ請求スヘシ但シ保證人ヲ立テ免除ヲ得タル出納官吏ハ第十二號書式ノ請求書ヲ差出スヘシ

第十四條 仕拂命令官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書、質權設定證書、又ハ身元保證金辨償引受證書ヲ請求者ニ還付シ其ノ領收證ヲ徴スヘシ

土地ニ係ルモノハ土地抵當權解除證書ヲ調製シ抵當權抹消登記囑託ノ手續ヲ了シ土地抵當權設定證書並土地抵當權解除證書ヲ請求者ニ還付シ其ノ領收證ヲ徴スヘシ

第十五條 出納官吏會計規則第八條ニ依リ身元保證金ノ追納ヲ要スルトキハ仕拂命令官ハ其ノ期限ヲ定メ當該出納官吏ニ達スヘシ

第十六條 仕拂命令官ハ第十三號書式ノ出納官吏身元保證金彙帳ヲ備ヘ身元保證金ニ關スル一切ノ事項ヲ登記スヘシ

第十七條 凡テ出納官吏ノ授受ニ係ル書類ハ其ノ所屬長ヲ經由スヘシ

(書式略ス)

○陸軍第二十一號  
要塞司令部服務規則廢止セラル  
明治三十四年三月三十一日

陸軍大臣 野島 玉源 太郎

○海軍省達第十七號  
海軍官印規程第二條中「本省」ノ下ニ「人事局」ヲ加ヘ「本省經理局」トアルヲ「經理局」ニ改ム  
明治三十四年三月七日  
海軍大臣 山本 權兵衛

○海軍省達第十八號  
海軍採炭規程左ノ通定ム  
明治三十四年三月十六日  
海軍大臣 山本 權兵衛

海軍採炭規程

第一條 海軍採炭所長ハ艦政本部長ノ方針命令ニ從ヒ海軍炭山ノ保存及石炭ノ採掘ヲ施設監督ス

第二條 採掘シタル石炭ハ其精粗ニ因リ上等炭下等炭ノ二種ニ區別シ上等炭ハ更ニ細別シテ塊炭及粉炭トス

第三條 上等炭ハ艦船用トシ下等炭ハ坑業用トス  
但シ下等炭不足ノ場合ニ於テハ粉炭ヲ坑業用ニ充ツルコトヲ得

第四條 採掘シタル石炭ハ總テ海軍採炭所通常物品會計官吏之ヲ保管シ艦船用ハ各需品庫兵備品會計官吏ニ保管轉換ヲナシ坑業用ハ之ヲ坑業主任ニ供給シ殘餘ノ下等炭ハ成規ニ依リ賣却處分スヘシ

第五條 採炭所長ハ採炭費ヲ以テ坑業ニ必要ナル職工人夫ヲ使役スルコトヲ得

第六條 採炭事業一口金五百圓未滿ノモノハ採炭所長ニ於テ職工人夫ヲ使役シ之ヲ處分スルコトヲ得

第七條 採炭事業請負規則ニ依リ請負ニ附スル事業ハ其設計圖面及仕様書豫定價格等ヲ定メ一口金五千圓以内ハ採炭所長之ヲ決行シ金五千圓以上ハ艦政本部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第八條 石炭ハ採掘費(採炭材料職工人夫等)及運搬費ヲ一箇月毎ニ平均シタル金額ヲ其原價トス但シ該金額ハ炭量毎千基ヲ以テ算ス

第九條 採炭所長ハ事業ノ情況職工人夫ノ移動、採掘シタル炭量其費額竝ニ保管轉換及供給若クハ賣却シタル炭量ヲ毎月末ニ艦政本部長ニ報告ス可シ

第十條 採炭所長ハ事業ノ進歩ニ隨ヒ坑内實測圖ヲ追補シ毎三箇月ニ艦政本部長ニ報告ス可シ

附則

第十一條 本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年六月連第百二十一號新原炭坑採炭規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

○海軍省連第十九號

海軍駐在員規則左ノ通定ム

明治三十四年三月十八日

海軍大臣山本權兵衛

海軍駐在員規則

第一條 駐在員トハ學術研究、軍事視察等ノ爲メ外國駐在ヲ命セラレタル者ヲ謂フ

第二條 駐在員ハ總務長官ニ隸ス

第三條 駐在員ノ任務ハ總務長官之ヲ訓令ス

第四條 駐在員ノ願、伺、屈、報告等ハ任地に到着前任地出發後及駐在員監督缺員中ニ在テハ直接ニ其ノ他ノ場合ニ在テハ駐在員監督ヲ經テ總務長官ニ差出スモノトス

第五條 駐在員ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ届出ヘシ

一本邦出發及歸著ノトキ

一任地に到着及出發ノトキ

一任地に於テ宿所ヲ轉シタルトキ

第六條 駐在員ハ任地に到着シタルトキハ直ニ駐在員監督ニ就キ任務ノ實行ニ關スル諸般ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條 駐在員ハ毎年一月及七月ノ初日ニ於テ過去及未來ノ六箇月間ニ於ケル任務實行ニ關スル經過及豫定ヲ報告スヘシ但シ軍事上重要ナル事項ハ速ニ之ヲ報告スヘシ

第八條 駐在員任務實行上旅行ヲ爲スノ必要アルトキハ旅行日數旅費概算等ヲ詳記シ前年度中ニ出願スヘシ但シ駐在員監督ニ於テ許可スルモノニ就テハ其ノ都度同官ニ出願スヘシ

第九條 駐在員疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ任務ヲ遂行シ能ハスト思惟スルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ其中スヘシ

第十條 駐在員歸朝ヲ命セラレタルトキハ受命ノ日ヨリ三十日以内ニ出發スヘシ

第十一條 駐在員歸朝シタルトキハ研究若ハ視察シタル事項及其ノ實行ニ關スル報告ヲ差出スヘシ

附則

第十二條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

○海軍省達第二十號

海軍駐在員監督服務規則左ノ通定ム

明治三十四年三月十八日

海軍大臣山本權兵衛

海軍駐在員監督服務規則

- 第一條 駐在員監督ハ其ノ駐劄國ニ於ケル駐在員ヲ督勵シ其ノ任務ヲ遂行セシムルヲ任トス  
各駐在員ニ與ヘタル任務ハ總務長官之ヲ關係ノ駐在員監督ニ通知ス
- 第二條 駐在員監督ハ事故アリテ任地ヲ離ル、トキハ駐在員中ノ一名ヲ指名シ之ニ其ノ事務ノ全部若ハ一部ヲ代理セシメ又ハ公使館附武官ニ之ヲ委託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨總務長官ニ届出ヘシ
- 第三條 駐在員監督ハ駐在員ノ願伺、届、報告等ヲ檢シ意見アルトキハ之ヲ附シ總務長官ニ進達スヘシ
- 第四條 駐在員監督ハ毎年度總務長官ヨリ令達スル旅費定額内ニ於テ駐在員ノ旅行願ヲ許可スルコトヲ得但シ甲者ニ充テタル定額中不用額ヲ生シタルトキハ之ヲ乙者ニ流用スルコトヲ得ルト雖任地轉換ノ爲生シタル不用額ハ此ノ限ニ非ラス
- 第五條 駐在員監督ハ駐在員中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ任務ヲ遂行スルコト能ハサル者ト認ムル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ總務長官ニ具申スヘシ
- 第六條 駐在員監督ハ駐在員ノ任務實行ニ關シ功勞アル外人ニ對シ謝意ヲ表スルヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ總務長官ニ具申スヘシ
- 外人ノ功勞勳章ヲ授與セラル、ニ適スル者ナルトキ亦前項ニ同シ但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ該

國駐劄本邦公使ニ協議スヘシ

附則

第七條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十三年達第百十七號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十三年<sup>九</sup>海軍省達第百十七號ハ留學生監督服務規則ナリ

○海軍省達第二十一號

海軍武官考課表規則別表第二號備考中左ノ通改正ス

明治三十四年三月十八日

海軍大臣山本權兵衛

備考

- 三 全定員若ハ半定員ヲ置クトコロノ豫備艦職員ノ考課表ハ在役艦ニ準シ特別定員ヲ置クトコロノ豫備艦職員中准士官以上ノ考課表ハ首席將校之ヲ調製ス  
但其艦長(艦長ナキトキ副長、特別定員ヲ置クトコロノ豫備艦ニ在テハ首席將校)ノ考課表ハ豫備艦部長之ヲ調製ス  
學校練習所海兵團ニ屬スルモノニ在テハ上長官士官ノ考課表ハ各其所屬校所團長之ヲ調製スヘシ
- 六 外國駐在員及ヒ元帥副官ノ考課表ハ海軍總務長官之ヲ調製スヘシ但准士官ノ考課表ハ海軍總務長官ノ指定スル上長官士官之ヲ調製ス
- 十一 待命、休職及停職者ノ考課表ハ上長官士官ニ在テハ直屬長官之ヲ調製シ准士官ニ在テハ





第三條 被服物品ノ品質製式及裁縫區分ハ第一表ニ依ル但シ被服取扱主任第一表ノ裁縫區分ニ依リ難キモノヲ要スルトキハ其ノ寸法ヲ兵備品出納命令官ニ通牒シ其ノ請求ヲ豫告スヘシ

第四條 初任筆記及五等卒入團ノトキハ第二表ノ被服物品ヲ交付スヘシ

豫備役後備役下士卒歸休兵召集ノトキハ第三表ノ被服物品ヲ交付シ其ノ召集ヲ解キタルトキ之ヲ還付セシムヘシ

第五條 下士卒ハ海軍被服條例第三條ニ依リ交付スル被服物品ノ定數ヲ所持スヘシ

第六條 海軍被服條例第七條第一項ニ依リ給與スル被服物品ハ第四表ニ依ル

同條例第七條第二項ニ依リ被服物品ノ給與ヲ必要トスルトキハ海兵團長其ノ品名數量及事由ヲ附シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

本條ノ場合ニ於テハ海兵團長事實ノ證明書ヲ作り被服取扱主任ニ移スヘシ

第七條 下士卒進級シタルトキ又ハ下士卒重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ被服物品ヲ還付セシムヘシ

下士卒死亡シタルトキハ第五表ニ依リ其ノ被服物品ヲ遺骸ニ著セシメ若ハ之ヲ遺族ニ下付ス又必要アルトキハ遺骸ニ附著セル被服物品ヲ棄却スルコトヲ得

前項ノ場合又ハ還付ノ被服物品ニシテ不足品アルトキハ分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者各其ノ證明書ヲ作り所屬長ノ檢印ヲ受ケ現在品ト共ニ之ヲ被服取扱主任ニ移スヘシ

第八條 下士卒刑期六箇月以上ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ在監若ハ逃亡中ノ者六箇月ヲ經過シ復歸セサルトキハ分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者其ノ被服物品ヲ收ムヘシ但シ本人復歸シタルトキ同數種ノ被服物品ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者之ヲ調査シ不足品アルトキハ證明書ヲ作り所屬長ノ檢印ヲ受ケ現在品ト共ニ之ヲ被服取扱主任ニ移スヘシ但シ此ノ證明書ハ當該在監若ハ逃亡中ノ者所屬ヲ轉スルトキ之ヲ所屬艦團其ノ他各部ノ被服取扱主任ニ移スモノトス

在監若ハ逃亡中ノ者復歸シタルトキハ前項ノ證明書ニ依リ第十八條第二項ニ準シ不足品ヲ交付スヘシ

第九條 下士卒刑期滿限出監若ハ免訴放免ノ際制服ヲ所持セサルトキハ出監ノ者ニハ監獄ニ於テ放免ノ者ニハ軍法會議ニ於テ第四表ニ依リ古被服物品ヲ貸與シ之ヲ所屬艦團其ノ他各部ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ貸與ノ被服物品ハ本人ノ所屬艦團ニ到著ノ後分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者之ヲ收メ被服取扱主任ニ移シ被服取扱主任ハ之ヲ貸與應ニ返付スヘシ

第十條 海軍被服條例第十條ノ場合ニ於テハ古被服物品ヲ給與ス但シ其ノ給與ヲ必要トセサルトキハ古被服物品ヲ貸與スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ古品ナキトキハ新品ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ被服物品ヲ給與シタルトキハ所屬長事實ノ證明書ヲ作り被服取扱主任ニ移スヘシ

第十一條 艦團其ノ他各部ノ長海軍被服條例第四條ニ依リ腹卷若ハ防寒服ノ給與ヲ必要トスルトキハ品名數量及事由ヲ附シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十二條 下士卒及艦團其ノ他各部ニ臨時起臥スル者ニハ各其ノ服裝若ハ使用ヲ要スルトキ第六表ノ被服物品ヲ貸與ス

第十三條 艦團其ノ他ノ各部ニ在ル患者ニハ何人ヲ問ハス第七表ノ被服物品ヲ貸與ス

第十四條 海軍監獄ニ在ル囚人及刑事被告人ニハ第八表ノ被服物品ヲ貸與ス

在監人死亡シタルトキハ必要ニ依リ遺骸ニ附著セル貸與ノ被服物品ヲ棄却スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ海軍監獄長事實ノ證明書ヲ作り被服取扱主任ニ移スヘシ

第十五條 被服物品ノ交換定數及交換期限ハ第九表ニ依ル但シ無期品ハ古品ヲ以テ交付交換スルコトヲ得

第十六條 下士卒ニ交付スル古被服物品ハ無期品トシ實際其ノ用ニ堪ヘサルトキ交換ス

第十七條 任用進級其ノ他ノ事由ニ依リ被服物品ノ制式若ハ交付定數ヲ異ニスルモノハ其ノ際交付交換シ若ハ還付セシムヘシ

第十八條 下士卒被服物品ヲ亡失シ又ハ毀損シ其ノ用ニ堪ヘサラシムルトキハ直ニ其ノ事實ヲ分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者ニ届出テ分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者ハ之ヲ調査シ其ノ事實避クヘカラサル事故ニ原由シタルトキハ證明書ヲ故意若ハ過失ニ原由シタルトキハ副定書ヲ作り所屬長ニ出シ所屬長之ヲ適當ト認ムルトキハ檢印ノ上被服取扱主任ニ移スヘシ被服取扱主任ハ前項ノ事實避クヘカラサル場合ニシテ代品ヲ要スルトキハ之ヲ交付交換シ故意若ハ過失ノ場合ナルトキハ當該被服物品ノ代價ヲ辨償セシメ代品ヲ要スルトキハ之ヲ交付交換スヘシ

病者傳播豫防ノ爲メ被服物品ヲ燒却スルトキハ軍醫長ハ證明書ヲ作り所屬長ニ出シ所屬長ハ檢印ノ上之ヲ被服取扱主任ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テ代品ヲ要スルトキハ被服取扱主任之ヲ交付給與スヘシ

第十九條 前條第二項ニ依リ代價ヲ辨償セシメタル被服物品ノ交換期限ハ前ニ交付交換シタル月

ヨリ起算スヘシ

第二十條 修補料ハ所屬艦團其ノ他各部ニ於テ俸給支給ノ定日之ヲ支給ス但シ當日轉勤スル者ニハ前所屬艦團ニ於テ之ヲ支給ス

第二十一條 被服物品ニハ第十表ニ依リ記號ヲ鑄著スヘシ

下士卒被服物品ヲ受領シタルトキハ記號ニ自己ノ氏名兵籍番號及交付年月ヲ明瞭ニ記入スヘシ但シ記號ハ還付ノトキモ剝離セサルモノトス

第二十二條 兵備品會計官吏ハ被服物品ヲ調製準備シ艦團其ノ他各部ニ供給スヘシ但シ鎮守府ノ所管ニアラサル各艦ニ於テ要スル被服物品ハ最寄兵備品會計官吏之ヲ供給スヘシ

横須賀鎮守府兵備品會計官吏ハ前項ノ外別ニ定ムル所ニ依リ被服物品ヲ買辦貯藏シ他鎮守府兵備品會計官吏ニ供給スヘシ

第二十三條 兵備品會計官吏被服物品ヲ出納スルトキハ請求票上納票還納票領收票其ノ他受拂ノ證券トナルヘキモノニ兵備品出納命令官ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十四條 折メス紐海軍被服條例別表ノ臂章正服階級章ヲ第一種品トシ本規程第六表乃至第八表ノ被服物品ヲ第二種品トシ其ノ他ヲ第三種品トス

第二十五條 兵備品會計官吏艦團其ノ他各部ニ被服物品ヲ供給スルトキハ第二種品第三種品ハ之ヲ供用トシ第三種品ハ各自ノ領收證書ニ依リ第一種品ハ被服取扱主任ノ領收票ニ依リ各決算整理スヘシ

第二十六條 兵備品會計官吏ハ天災其ノ他ノ事故ニ依リ自己ノ保管ニ屬スル被服物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ兵備品出納命令官ニ報告スヘシ

第二十七條 被服取扱主任ハ天災其ノ他ノ事故ニ依リ自己ノ保管ニ屬スル被服物品ヲ亡失毀損シタルトキハ直ニ之ヲ所屬長ニ届出テ所屬長ハ委員三名ヲ指定シ之ヲ審査セシメ意見ヲ附シ所管鎮守府兵備品會計官吏ヲ經テ速ニ之ヲ兵備品出納命令官ニ報告スヘシ

第二十八條 兵備品出納命令官第二十六條第二十七條ノ報告ニ接シタルトキハ之ヲ調査シ其ノ處分ヲ爲シ其ノ經過ヲ海軍大臣ニ申報スヘシ

第二十九條 被服取扱主任第六條第七條第八條第十條第十四條第十八條ノ證明書調定書第三十六條ノ領收證書第三十九條第三項ノ報告書各一箇月分ヲ取纏メ目錄ヲ附シ翌月十五日限り之ヲ所管鎮守府兵備品會計官吏ニ送付スヘシ

鎮守府ノ所管ニアラサル各廳ノ被服取扱主任ハ當該兵備品會計官吏ニ對シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 兵備品會計官吏若ハ被服取扱主任被服物品ヲ請求送付領收還納スルトキハ各其ノ應票ヲ發スヘシ

第三十一條 兵備品會計官吏若ハ被服取扱主任請求票送付票領收票還納票ヲ作ルトキハ第一種品ハ他ノ被服物品ト混同セス別ニ調製シ還納票ハ新古各別ニ調製スヘシ

第三十二條 被服取扱主任ハ被服物品ヲ兵備品出納命令官ニ請求シ之ヲ受込ムヘシ

第三十三條 被服取扱主任兵備品會計官吏ヨリ被服物品ヲ領收シタルトキハ保管受拂ノ責ニ任スヘシ

第三十四條 艦船鎮守府隔絶ノ地ニ在リテ被服物品缺乏シ支障アルトキハ最寄艦團其ノ他各部ニ請求シ艦團其ノ他各部其ノ請求ニ應スルトキハ現品ヲ送付スヘシ此ノ場合ニ於テハ供給シタル

艦團其ノ他各部ノ被服取扱主任ハ其ノ請求票領收票ヲ添ヘ速ニ在籍鎮守府兵備品會計官吏ヘ還納ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五條 艦船外國ニ在リテ被服物品缺乏シ支障アルトキハ購買スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納人ヨリ適宜ノ上納票ヲ徴シ之ニ領收票ヲ添ヘ在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ對シ受授ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者ハ部下下士卒ノ被服物品交換期限ニ至リタルモノヲ取調ヘ毎月一回請求書ヲ作り所屬長ノ檢印ヲ受ケ被服取扱主任ニ請求シ被服取扱主任ハ速ニ之ヲ調査シ各自ニ之ヲ交付シ領收證書ニ捺印セシムヘシ

第四條第八條第十一條第十七條及第十八條ノ場合ニハ其ノ際前項ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ノ領收證書ニシテ第三種品ニ係ルモノハ之ヲ所管鎮守府兵備品會計官吏ニ送付シ第一種品ニ係ルモノハ被服取扱主任之ヲ保管スヘシ

第三十七條 分隊長其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者ハ部下下士卒ノ被服物品中無期品ノ其ノ用ニ堪ヘサルモノヲ取調ヘ毎月一回請求書ヲ作り之ヲ被服取扱主任ニ移シ被服取扱主任ハ現品ヲ檢査シ請求書ニ所屬長ノ檢印ヲ受ケ第三十六條ニ依リ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

兵備品會計官吏ハ還納ノ無期品ニシテ尙其ノ用ニ堪ヘ檢査正確ナラスト認ムルモノアルトキハ之ヲ兵備品出納命令官ニ報告シ兵備品出納命令官ハ之ヲ調査シ其ノ報告ヲ正當ト思惟スルトキハ當該被服取扱主任ニ戒告スヘシ

第三十八條 第六表ノ被服物品ハ副長分隊長衛兵司令其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者ノ請求ニ依リ被服取扱主任ハ之ヲ請求者、請求者ノ指示スル下士卒若ハ各自ニ貸與シ第七表第八表ノ被服物

品ハ適宜貨與ノ方法ヲ設クヘシ

第二十九條 交換若ハ下士卒ヨリ還付シタル古被服物品及貯藏ヲ要セサル被服物品ハ被服取扱主任之ヲ兵備品會計官吏ニ還納スヘシ

兵備品會計官吏被服取扱主任ヨリ第一種品ノ還納ヲ受ケタルトキハ其ノ際原簿ニ記載アル平均單價ヲ附シ又古被服物品ノ還納ヲ受ケタルトキハ相當代價ヲ附シ後來其ノ用ニ堪フルモノハ洗濯修補ヲ加ヘ其ノ用ニ堪ヘサルモノハ修補材料トシテ受入レ若ハ保管轉換ヲ爲シ若ハ賣却スヘシ但シ微單啓章ハ燒却スルコトヲ得

艦船二箇月以上北海道臺灣島澎湖島若ハ外國ニ在ルトキ交換シタル古被服物品ニシテ後來其ノ用ニ堪ヘサルモノハ被服取扱主任相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量及事由ヲ附シ所屬長ノ證明ヲ受ケ兵備品會計官吏ヲ經テ兵備品出納命令官ニ報告スヘシ

第四十條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ニ被服物品ヲ供給シタルトキハ送付票ヲ作り之ニ艦船ヨリ差出シタル請求票領收票ヲ添ヘ該艦船在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ送付シ其ノ保管轉換ヲ爲スヘシ但シ第一種品ハ此ノ限ニアラス

兵備品會計官吏ハ其ノ保管ノ被服物品ヲ相互間ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ヨリ第二種品第三種品ノ還納ヲ受ケタルトキハ請求票領收票ヲ作り之ニ艦船ヨリ出シタル還納票ヲ添ヘ該艦船在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ送付シ其ノ保管轉換ヲ受クヘシ

兵備品會計官吏第三十四條ニ依リ被服物品ノ還納ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル艦船他鎮守府在籍ナルトキハ前條ニ依リ該艦船在籍鎮守府兵備品會計官吏ヘ保管轉換ヲ爲スヘシ

第四十二條 被服取扱主任ハ下士卒轉勤轉乘ノトキ被服物品交付表ヲ所屬艦團其ノ他各部ノ被服取扱主任ニ送付スヘシ

下士卒不在中所屬ヲ轉シタルトキハ其ノ被服物品ト共ニ交付表ヲ送付スヘシ

第四十三條 兵備品會計官吏ハ原簿内譯簿ヲ備ヘ被服物品及材料品ノ出納ヲ登記スヘシ

被服取扱主任ハ受拂簿ヲ備ヘ被服物品ノ受拂ヲ登記スヘシ

第四十四條 艦團其ノ他各部ニ於テ被服物品亡失シタルトキ該品ニ附スル代價及第十八條ニ依リ辨償スヘキ代價ハ經理局ニ於テ定ムル所ノ代價表ニ依ルヘシ但シ兵備品會計官吏ヨリ受込ミタル古被服物品ノ代價ハ所定代價ノ三分ノ一下士卒ヨリ還付シタル古被服物品ノ代價ハ二十分ノ一トス

兵備品會計官吏前年度ヨリ繰越シタル古被服物品ノ代價ニ相當ノモノアリト思量シタルトキハ年度初頭ニ於テ之ヲ評價シ其ノ代價ヲ更正スヘシ

第四十五條 兵備品會計官吏ハ物品會計規則ニ依リ被服物品出納計算書ヲ作り諸憑書類及受拂供用代價仕譯書ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ下検査官吏ニ出スヘシ但シ其ノ手續及會計検査院ニ對シ證明ニ關スル事項ハ通常物品會計規程ニ依ルヘシ

第四十六條 被服取扱主任ハ第一種品第三種品ニ在テハ毎月第二種品ニ在テハ四月十月ノ二期ニ於テ前六箇月間ノ被服物品受拂報告書ヲ作り翌月十五日迄ニ本管鎮守府兵備品會計官吏ヲ經テ鎮守府經理部長ニ出スヘシ

鎮守府ノ所管ニアラサル各艦ノ被服取扱主任ハ當該鎮守府經理部長ニ對シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 被服取扱主任交替ノトキハ受拂簿ヲ締切り殘高ト現在高トヲ對查シ之ヲ後任者ニ引

繼フヘシ

被服取扱主任前項ノ引繼ヲ了リタルトキハ其ノ日ヨリ十五日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ  
第四十八條 艦團其ノ他各部ノ被服取扱主任ハ主計長トス主計長ヲ置カサル應ニアリテハ廳長部  
下判任官以上ニ之ヲ命シ其ノ人名ヲ當該兵備品出納命令官ニ通報スヘシ

附則

第四十九條 本規程ハ明治三十四年勅令第四號施行ノ日ヨリ施行ス但シ製式交換期限交付定數地  
質ヲ變更セシ被服物品ニシテ漸次施行スルモノハ別ニ之ヲ定ム

第五十條 本規程施行ノ際外國ニ在ル下士卒ハ本邦歸著ノ日マテ舊被服條例ニ依リ舊式ノモノ  
ヲ交付交換スルロトヲ得

被服物品交付表ハ明治三十四年十二月一日迄ニ轉記スヘシ

(諸裝及製式圖略ス)

○海軍省達第二十五號

明治二十九年達第八十九號ハ本年三月三十一日限り廢止ス

明治三十四年三月二十六日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治二十九年ハ海軍省達第八十九號ハ在監人被服規則ナリ

○海軍省達第二十六號

明治二十三年達第六十三號左ノ通改正シ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十六日

海軍大臣山本權兵衛

下士卒ノ被服物品ハ毎月一回他艦團其ノ他各部ニ轉スル下士卒ノモノハ其ノ際別表ニ照シ分隊長  
其ノ他直接下士卒ヲ統率スル者之ヲ點檢シ所屬長ノ檢視ヲ受クヘシ  
被服物品ノ定數不足シ若ハ毀損シ其ノ用ニ堪ヘサルモノアルトキハ被服經理規程ニ依リ交付若ハ  
交換ノ手續ヲ爲スヘシ

被服物品ヲ交付若ハ交換シタルトキハ被服物品領收證書ニ依リ其ノ年月ヲ別表ニ記入スヘシ  
下士卒所屬ヲ轉スルトキハ別表ヲ其ノ所屬艦團其ノ他各部ニ送付スヘシ  
從來ノ被服物品點檢表ハ明治三十四年十二月一日マテニ本達ノモノニ轉記スヘシ

(別表略ス)

○海軍省達第二十七號

靜動索及滑車定數表中ヨリ左記ノ四條ヲ削除シ需用品定額表航海長主管掌帆長ノ部定備第五類ニ  
追加ス

一 ポートホール 一同ライフライン 一 クロースライン 一 シグナルハリヤード及之ニ屬スル  
滑車

但數量表ハ之ヲ要スル向ヘ艦政本部ヨリ配付セシム

明治三十四年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第二十八號

需用品定額表航海長主管掌帆長ノ部定備第五類中鋼線網ヲ削除シ靜動索及滑車定數表中  
「ホーサー」ノ部ニ編入ス

明治三十四年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第二十九號

需品經理規程ニ依リ供給スル靜動索及滑車ハ二十四年度以降造船及修理費ノ支辨トシ造船廠ヨリ供給セシム

明治三十四年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第二十號

砲術練習所及水雷術練習所ノ會計經理ハ明治三十四年度ヨリ艦團部隊ノ經理ニ屬セシム

明治三十四年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第二十一號

明治二十七年達第二十三號艦團部隊金錢出納規程中第十九條ヲ左ノ通改正シ明治三十四年度ヨリ施行ス

第十九條

此ノ規程中所轄長トハ要港部司令官、軍艦長、海兵團長、水雷團長(水雷放設隊附主計ヲシテ現金前派官更々々ラシ)、砲術練習所長、水雷術練習所長ヲ云フ

軍事費機動費ノ保管出納ニ關シテハ常備艦隊主計長所轄長ノ職務ヲ行フ可シ

明治三十四年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第三十三號艦團部隊金錢出納規程(明治二十七年三月十五日)抄録  
第十九條 此ノ規程中所轄長トハ要港部司令官、軍艦長、海兵團長及水雷團長(水雷放設隊附主計ヲシテ現金前派官更々々ラシ)、軍事費機動費ノ保管出納ニ關シテハ常備艦隊主計長所轄長ノ職務ヲ行フ可シ

○海軍省達第二十二號

需品經理規程中左ノ通改正ス

本達ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

本規程中ニ「艦團部隊」トアルヲ「艦團部」ト改ム

第一條ノ次ニ左ノ通り加フ

第二條 艦團部ト稱スルハ艦團、要港部、砲術練習所、水雷術練習所、及港務部學校、練習所ノ所屬船ヲ云フ

第五條中「靜動索及滑車定額表」ヲ削除ス

第六條中「及靜動索及滑車定額表」ニ據リ供給シタル需品ヲ削除ス

第九條中「職氏名ヲ」ノ下ニ「需品供給廳」ヲ加フ

第十一條ノ次ニ左ノ通り加フ

第十二條 需品ハ海軍需品庫ニ於テ所管鎮守府管區内ニアル艦團部ニ供給ス

第二十八條中「シ又ハ靜動索及滑車定額表」ニ據リ必要ノ需品ノ供給ヲ要「ヲ削除シ」「詳記シ」ノ下ニ「需品供給廳」ノ所屬ヲ加フ

第四十二條中「艦團」ヲ「艦團部」ニ改ム

第四十七條中「司令長官」ノ下ニ「司令官」ヲ加フ

第五十條中「之ヲ」ヲ「艦團」ニ在テハ「ニ改メ」本管ノ下ニ「其他」ニ在テハ需品供給廳所屬ノ「ヲ加フ

書式中「第五號乙」ヲ削除ス

○海軍省達第三十三號

艦隊需品出納整理規程ノ「隊」ヲ「部」ニ改メ規程中左ノ通改正ス  
本達ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十四年三月二十九日

本規程中ニ「艦隊」トアルヲ「艦隊部」ト改ム

第八條中「靜動索及滑車定額表」ニヨリ受込タル需品及「ヲ削除ス

書式中「第一號書式甲」ヲ削除ス

○海軍省達第三十四號

通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通加除改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十四年三月二十九日

應名欄練習所ノ下ニ「砲術水雷術練習所」ヲ除ク「ヲ加フ

品名欄鎮守府ノ部「及他ノ主管ニ屬セサル通常物品」ノ下ニ「佐世保ニ在テハ竹敷要港部ニ要スル  
分共」港務部ノ部「艦船裝置用具」ノ下ニ「佐世保ニ在テハ竹敷要港部ニ要スル分共」ヲ加ヘ港務部  
學校練習所ノ各部「附屬船艇需用物品」ヲ削ル

○海軍省達第三十五號

雇員備人規則中左ノ通改メ四月一日ヨリ施行ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十四年三月三十日

第二條左表中「工手」要港部ノ欄ヲ削ル

第三條左表中「工夫」要港部ノ欄ヲ削ル

別表中「警手」ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

千早	一	二	一	一
三笠	一	八	四	一

○海軍省達第三十六號

雇員備人給與規則第九條中「技工」第一表中「技工」工手第二表中「工夫」第四表中「技工」ヲ削除ス  
本達ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十四年三月三十日

○海軍省達第三十七號

海軍糧食條例第八條ノ金額ハ明治三十四年度間左ノ通り定ム

海軍大臣山本權兵衛

明治三十四年三月三十日

食		料	
食	別	内	外
一	一	六	十二
錢	錢	錢	錢
五	五	二	二
圓	圓	圓	圓
一	一	一	一
錢	錢	錢	錢
五	五	五	五
圓	圓	圓	圓
一	一	一	一
錢	錢	錢	錢
五	五	五	五
圓	圓	圓	圓

備考	外國	夜食	二	三	五
備考	濟國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ類ニ依ル				

○海軍省達第三十八號  
糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給與スル場合ノ最上限金額ハ明治三十四年度間左ノ通定

明治三十四年三月三十日

海軍大臣山本權兵衛

備考	食		別	一金額
	内	外		
備考	外	内	外	内
	夜食	夜食	國	國
備考	三	三	二	十
	五	五		三
備考	五	五		
	五	五		

○海軍省達第三十九號

糧食經理規程第十九條第三項ニ依リ購買スル糧食品代價ハ明治三十四年度間別表ノ通定

明治三十四年三月三十日

海軍大臣山本權兵衛

(別表)

物價表

品名	數量	別								
		第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區
乾麵包	一貫目	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇
生麵包	一貫目	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇
付生魚肉	同	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇	一〇八〇
付生魚肉	同	六九〇	六九〇	六九〇	六九〇	六九〇	六九〇	六九〇	六九〇	六九〇
貯藏魚肉	同	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
貯藏魚肉	同	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇
白米	同	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇
白米	同	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇
麥	同	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇

明治三十四年三月 海軍省第三十九號



火酒	燒酎	鹽	類油		砂糖	麥類	茶焙	類野菜	乾物	類	
			胡麻油	油						豆	麥粉
一升	同	一貫匁	同	同	三本行	焙	茶	生野菜	乾物	同	同
四五〇	一〇五〇	三三〇	五〇〇	二〇〇	五七〇	三五〇	九〇〇	一六〇	七〇〇	四二〇	三五〇
四五〇	一〇五〇	一〇〇	五〇〇	〇九〇	六三〇	四七〇	九五〇	一五〇	八一〇	四四〇	三六〇
四五〇	一〇五〇	〇九五	五五〇	一〇〇	五六〇	四八〇	六四〇	一四〇	五六〇	三九〇	三七〇
四五〇	一〇五〇	一〇〇	五四〇	〇九〇	六三〇	四七〇	九五〇	一六〇	八一〇	四四〇	三六〇
四五〇	一〇五〇	一〇〇	五四〇	〇九〇	六三〇	四七〇	九五〇	一五〇	八一〇	四四〇	三六〇
四五〇	一〇五〇	〇八〇	六〇〇	一〇〇	六〇〇	四五〇	七五〇	一四〇	七五〇	三三〇	三七〇
四五〇	一〇五〇	一三〇	五〇〇	一〇〇	五七〇	五二〇	三五〇	九〇〇	七〇〇	四二〇	三五〇
四五〇	一〇五〇	二二〇	六〇〇	一五〇	六六〇	五〇〇	三五〇	九〇〇	二〇〇	四九〇	四七〇
四五〇	一〇五〇	一九〇	八三〇	一六〇	六九〇	七三〇	三二〇	九五〇	二六〇	三九〇	四四〇

備考  
 一 本表記載外ノ諸外國ニ在テハ時價ヲ以テ購買スルモノトス  
 二 本表ノ代價ヲ以テ購買シ能ハサルトキハ一割増以内ノ代價ヲ以テ購買スルコトヲ得但艦隊所屬ノ艦船ニシテ艦隊主計長其ノ地ニ在ルトキハ其ノ承認ヲ受クヘシ  
 三 前項ニ依リ割増購買ヲ爲シタルトキハ其ノ品名代價ヲ在籍守府經理部長ヲ經テ經理局長ヘ報告シ艦隊所屬ノ艦船ハ同時ニ艦隊主計長ニ報告スヘシ

○海軍省達第四十號

海軍財産取扱手續中左ノ通加除改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十日

海軍大臣山本權兵衛

- 第一條及第二條中「第二局」ヲ「經理局」ニ改ム
- 第三條中「第二局」ヲ「艦政本部」ニ改ム
- 第四條及第五條中「第二局長」ヲ「艦政本部長」ニ「第二局長」ヲ「經理局長」ニ改ム
- 第六條及第七條中「第三局長」ヲ「經理局長」ニ改ム
- 第九條ヲ削除ス

書式中土地家屋營造物ニ關スル分別表ノ通改ム (別表略ス)

○宮内省達乙第二號

華族 華族女學校

明治二十六年八月宮内省達乙第四號華族女學校規則第六章及明治二十七年八月宮内省達乙第一號華族女學校幼稚園規則第十六條乃至第十九條ヲ削除シ各條章順次繰上ク

明治三十四年四月六日

宮内大臣子爵田中光顯

〔参照〕

明治二十六年八月宮内省達乙第四號華族女學校規則第六章ハ授業料ニ關スル條項、同二十七年七月宮内省達乙第一號華族女學校幼稚園規則第十六條乃至第十九條ハ保育料ニ關スル規定ナリ

○陸達第二十二號

明治三十五年十二月陸地測量部修技所生徒十二名ヲ召募ス

但シ採用手續ハ明治二十五年本省令第四號陸地測量部修技所生徒採用規則ニ據ル

明治三十四年四月十日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸達第二十三號

將校演習旅行條例細則中左ノ通改正ス

明治三十四年四月十日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第一條中竝ニ東京防禦總督要塞幹部演習旅行ヲ統裁スルトキヲ削ル  
第二條中竝ニ東京防禦總督ノ施行スル要塞幹部演習旅行及又ハ東京防禦總督ヲ削ル  
第三條第一項中師團旅團及要塞司令官要塞幹部演習旅行ヲ統裁スルトキヲ削ル  
同條第二項中若クハ要塞司令官ノ施行スルヲ及ニ改ム

第十條中「東京防禦總督若クハ」ヲ削リ「東京海軍要港司令官ハ東京防禦總督」ヲ「師團長ヲ經テ」ニ改

〔參照〕

陸軍第七十五號將校演習旅行條例細則(明治三十三年七月十日)抄錄

- 第一條 將官演習旅行及參謀演習旅行ノ統裁官位ニ東京防禦總督要港司令部演習旅行ヲ統裁スルトキハ因員トシテ乘馬兵科ノ下士一名計手一名下士若クハ判任文官二名、師團工卒一名、兵卒若クハ判任若干名ヲ隨ヘ又副馬及豫備馬若干頭ヲ携行スルコトヲ得
- 第二條 將官演習旅行及參謀演習旅行ハ東京防禦總督ノ施行スル要港司令部演習旅行ノ因員及馬匹ハ所要ニ應ジテ其ノ演習旅行ヲ施行スル地方ノ師團ヨリ出サシムルコトヲ得但シ其ノ人員及馬數ハ參謀總長又ハ東京防禦總督ヨリ陸軍大臣ニ請求シ陸軍大臣ハ師團長ニ命シテ之ヲ出サシム
- 第三條 師團旅團幹部演習旅行ノ統裁官及要港司令官要港司令部演習旅行ヲ統裁スルトキハ因員トシテ下士二名(内一名ハ乘馬兵科ノ下士ニ限ル)計手一名、師團工卒一名、兵卒若クハ判任若干名ヲ隨ヘ又副馬及豫備馬若干頭ヲ携行スルコトヲ得但シ步兵旅團幹部演習若クハ要港司令官ノ施行スル要港司令部演習旅行ニ隨行セシムヘキ乘馬兵科ノ下士、師團工卒若クハ所要ノ馬匹ハ當該旅團長若クハ要港司令官ヨリ所屬師團長ニ請求スヘシ
- 第十條 要港司令部演習旅行ニ在テハ東京防禦總督若クハ要港司令官ハ第八條ト同一ノ時期ニ於テ同一ノ報告ヲ(東京防禦總督若クハ要港司令部演習旅行ニ在テハ)教育總監ニ報告ス可シ

○陸軍第二十四號

陸軍馬匹拂下規則別冊ノ通告正ス

明治三十四年四月十七日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

(別冊)

陸軍馬匹拂下規則

- 第一條 軍馬補充部支部保管ノ馬匹ハ陸軍乘馬飼養條例ノ乘馬本分者ニ拂下クルヲ得
- 第二條 拂下ヲ受ケタル者ハ其拂下馬ニ對シ爾後九年間ハ交換ノ爲メニ拂下ヲ受クル能ハサルモ

ノトス

- 第三條 拂下馬數ハ每所管乘馬ノ數ニ應シ豫メ所管長官及軍馬補充部本部長ニ内達ス
- 第四條 拂下ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ所管乘馬委員長ニ申出ツヘシ乘馬委員長ハ其理由ヲ審查シ緩急ヲ量リ拂下ヲ受クヘキ者ノ順序ヲ定メテ所管長官ニ報告スヘシ
- 第五條 乘馬委員長ハ拂下希望數第三條ノ内達數ニ達セサルトキハ其數ヲ毎年八月下旬迄ニ軍馬補充部本部長ニ通報スヘシ
- 第六條 拂下馬ハ軍馬補充部本部長毎年十一月下旬所管長官ニ交付ス所管長官ハ乘馬委員長ニ命シテ適宜配當セシムルモノトス
- 第七條 拂下馬ノ代價ハ百圓トス但支部ヨリ交付地迄ノ輸送費ハ拂下ヲ受クル者ノ自辨トス
- 第八條 乘馬委員長ハ拂下ヲ受ケタル者ノ職官姓名ヲ軍馬補充部本部長ニ通報スルモノトス
- 第九條 拂下代金ハ其馬匹ヲ保管セシ支部ノ當該年度ノ歳入ニ屬ス
- 第十條 拂下馬ノ番號及名稱ハ軍馬補充部本部長之レヲ定ム此番號及名稱ハ變更スルコトヲ許サス
- 第十一條 拂下ヲ受ケタル者ハ拂下馬ニ係ル陸軍馬匹名簿規則ノ乙號馬匹名簿ヲ軍馬補充部本部ニ送付シテ拂下馬匹名簿ヲ受領スヘシ
- 第十二條 拂下馬ノ讓渡讓受ヲナシタルトキハ雙方ヨリ軍馬補充部本部及乘馬委員長ニ届出ツルモノトス但乘馬本分者及乘馬委員外ニ讓渡シタルトキハ事由書ヲ添付スルモノトス
- 第十三條 拂下馬廢斃ニ歸シタルトキハ事由書ヲ添ヘテ軍馬補充部本部長及乘馬委員長ニ届出ツヘシ

○陸軍第二十五號

明治三十二年十一月陸軍第百二十一號衛生部下士候補者教育令中左ノ通改正ス

明治三十四年四月十七日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第二條中「二年三箇月」ノ下ニ「警備隊ニ在テハ三月盡日」ノ下ニ「警備隊ニ在テハ一月盡日及七月盡日」ヲ加フ

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊ニ在テハ二月ヨリ五月、八月ヨリ十一月ニ至ルニ一回ニ於テ約ネ三箇月間之ヲ行フ其授業時間ハ前項ノ規定ニ拘ラス適宜増スコトヲ得

第五條中ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊ニ在テハ前條ノ教育期間ヲ適宜區分シ看護學ヲ終リタル後調劑學ヲ教授スルモノトス

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第六條ヲ第七條トシ以下順次繰下ク

第六條 臺灣守備隊ニ於ケル衛生部下士要員ニ充ツヘキ看護手ノ教育ハ約ネ警備隊ニ於ケルモノト同一ノ月數内ニ終ルコトヲ得但シ派遣時期ノ都合ニ依リ原隊ニ於テ教育ヲ終ルコト能ハサルトキハ守備隊ニ於テ之ヲ繼續スルモノトス此場合ニ在テハ教育ノ程度ヲ原隊ノ高級醫官

ヨリ守備隊ノ高級醫官ニ通報スヘシ

第八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第六條ニ依リ臺灣ニ於テ教育ヲ繼續シタル場合ニ在テハ隊附高級醫官、病院長ヨリ臺灣陸軍軍醫部長ニ申報スヘシ

〔參照〕

陸軍第百二十一號陸軍衛生部下士候補者教育令(明治三十二年十一月十七日)抄録  
第二條 看護手ハ隊附高級醫官ニ於テ入隊ノ月ヨリ起算シ一年三箇月以上現役ニ服シ衛生部下士適當ト認ムル者ニ就キ之

ヲ選ビ三月盡日マテニ隊長ヲ經テ師團軍醫部長ニ申報スヘシ

第四條 下士候補者タル看護手ノ教育ハ毎年四月ヨリ九月ニ至ル間ニ於テ約ネ五箇月間之ヲ行フ其ノ授業時間ハ一日約三時間トス

第五條 前條教育期中前二箇月間ハ看護學、後三箇月間ハ調劑學ヲ教授スルモノトス

第八條 看護學ノ教育ヲ終リタルトキハ隊附高級醫官優秀ノ順序ヲ定メ隊長ヲ經テ師團軍醫部長ニ申報シ調劑學ノ教育ヲ終リタルトキハ病院長優秀ノ順序ヲ定メ師團軍醫部長及隊長ニ申報スヘシ

○陸軍第二十六號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十四年四月十九日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第二條中「陸軍省副官、同各局課長」ヲ「陸軍省課長」ニ改ム

第五條中ニ左ノ一項ヲ加フ

俸給共ノ他金錢ノ給與ハ共ノ在勤ノ地ニ於テ本人ニ支給スルヲ例トス但シ派遣出張等ノ者ニ在リテハ本人ノ願ニ依リ共ノ旅行先ニ送金シ若ハ本人ノ定メタル受取人ニ支給スルコトヲ得

第六條中「東京防禦總督部副官」ヲ削ル

第十條第一項但シ書寫第十一條第十四條及第二十二條中「發令當日」ノ下割註ヲ削ル

第二十三條第一項ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

休職、停職者ノ俸給ハ現住地所管廳ニ於テ毎月之ヲ支給シ遠隔ノ地ニ在リテハ之ヲ遞送スヘシ

第四十一條 委任經理ニ屬スル糧食ハ概算ヲ以テ各部各隊ニ交付シ月次現食數ニ應シ定額ヲ以テ決算スヘシ

委任經理ニ屬セサル糧食ハ現食數ニ應シ定額ヲ標準トシ實費交辦トス

第四十二條第二號中「豫備役」ノ上ニ「士官適任證書ヲ有スル豫備役後備役准士官下士及」ヲ加フ





ハ其ノ舊所屬廳ニ於テ支給ス  
 第二十二條 駐節部隊ニ備附クヘキ陣營具ノ定數ハ内地屯在各隊ノ例ニ準ス

附則

第二十三條 本細則第二條ハ雇員備役者ニモ之ヲ準用ス  
 第二十四條 雇員ノ給料ハ月額三十圓ヲ最上限トス但シ醫師通譯又ハ技術者ハ此ノ限ニアラス  
 備役者雇員備役者ハ給料支給規則備給表及明治二十八ノ給料モ亦前項ニ準シ日給トス但シ特別ノ役務ヲ爲サシムル者ハ此ノ限ニアラス  
 第二十五條 雇員又ハ備役者雇員備役者ハ給料支給規則備給表及明治ニシテ本規則第五條ノ場合ニ在リテハ第三表ノ手當ヲ給ス  
 前項手當金支給ノ方法ハ本細則第六條ノ例ニ準ス  
 第二十六條 前條ノ者ニハ駐節地ニ出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄給料五分ノ一ヲ増給ス其ノ支給法ハ本細則第四條第五條及第七條ノ例ニ準ス  
 第二十七條 雇員及備役者相當官ノ馬丁及以上ノ代用者ニハ糧食ヲ給ス其ノ給與區分ハ當該部隊ノ下士以下ニ準ス  
 前項ノ外糧食ヲ給スヘキ雇員及備役者ノ種別人員ハ別ニ之ヲ定ム其ノ給與區分ハ前項ニ準ス  
 臺灣總督ハ匪徒鎮壓等非常ノ場合ニ在リテ必要アルトキハ第四表ノ定額以內ニ於テ前二項以外ノ者ニ糧食ヲ給シ又ハ部隊長ニ委任シテ之ヲ給セシムルコトヲ得  
 第二十八條 備役者雇員備役者ハ給料支給規則備給表及明治ニノ被服ハ代金ヲ以テ本人ニ給ス其ノ定額ハ第十四表ニ據ル

前項ノ者内地臺灣等ノ間交互相轉スルトキ其ノ被服料ノ保續期間ハコレヲ通算スルモノトス  
 第二十九條 雇員及前條ニ掲ル備役者ニハ時宜ニ依リ第十表ノ寢具ヲ貸與スルコトヲ得  
 第三十條 第二十七條ニ依リ糧食ヲ官給スル雇員及備役者ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ノ藥餌並ニ死亡者ニ係ル諸費ハ本規則第十七條第十八條ノ例ニ準ス但シ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受ル者ノ藥餌ハ官給スルノ限ニアラス  
 第三十一條 本細則ニ明文ナキモノハ陸軍給與令細則、雇員備役人給料支給規則並陸軍監獄看守及陸軍備人被服給與規則ヲ準用ス

第一表

官名	在隊加修月限
短 期 下 士	金 八 十 四 圓
兵 手 補	金 七 十 二 圓
卒 兵	金 六 十 十 圓
卒 工	金 四 十 八 圓

第二表

年 階 級	功 加 修 月 限
三 年 以 上	四 圓
三 年 以 上	三 圓 五 十 錢
三 年 以 上	三 圓
三 年 以 上	二 圓
三 年 以 上	四 圓

考備	滿七年以上	滿六年以上	滿五年以上	滿四年以上
内地ヨリ轉屬セシモノハ内地ニ於ケル服役年ヲ通算スルモノトス	十圓	八圓五十錢	七圓	五圓五十錢
	八圓五十錢	七圓二十五錢	六圓	四圓七十五錢
	八圓	六圓七十五錢	五圓五十錢	四圓二十五錢
	六圓	五圓	四圓	三圓

第三表 旅行手當

階級	大		中		少		大		中		少	
	相	當	相	當	相	當	相	當	相	當	相	當
准士	官	試	官	試	官	試	官	試	官	試	官	試
階級	高等	官親任	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
金額	五百	三百	二百	一百	九十	八十	七十	六十	五十	四十	三十	二十

考備	中將ニシテ親補職ニ在ル者ハ大將ノ額ニ曹長ニシテ在職中准士官タル者ハ准士官ノ額ニ依ル員ニシテ給料一箇月六十圓以上ハ曹長四十五圓以上ハ軍曹十五圓以上ハ伍長十五圓未滿及傭人ハ兵卒ノ額ニ依ル											
曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹	同曹
伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍	同伍
兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵	同兵
階級	官長	官長	官長	官長	官長	官長	官長	官長	官長	官長	官長	官長
金額	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓

第四表

品目	一人一日ノ量	品目	一人一日ノ量
米	六合	醬油	四勺
鳥獸魚肉類	四勺	味噌	二勺
鹽肉類	二勺	漬物類	十勺
乾干セル肉類	三勺	干類	十勺
野菜類	四勺	梅干	十勺
乾物類	十勺	鹽	三勺
茶	一勺	糖	六勺

第五表

明治三十四年四月 陸軍省陸軍第二十七號 臺灣島及澎湖島駐軍陸軍部隊給與規則

考備 本表ノ外薪炭ハ實際費消高ヲ給シ又調理用鹽及砂糖ハ適宜其費消高ヲ給スルコトヲ得



管 區	精 米	人	精 米	日 額	準 額	夜 食	
						料	六 錢 以 下
第一旅團管區内			十	七	錢	一	厘
第二旅團管區内	六		十	八	錢	六	厘
第三旅團管區内			十	六	錢	二	厘
合 計			三十	一	錢	九	厘

備 補給隊長ハ地方ノ狀況ヲ酌量シ各地方ノ賄料定額ヲ定メ陸軍大臣ニ報告シ當該官衛各隊ニ通報ス  
ヘシ但シ各地屯在部隊ノ人員ト木文所定ノ額トヲ以テ算定シタル一人一日ノ平均額ハ本表賄料標  
準額ニ超過スルヲ得ス  
各衛戍病院ノ賄料ハ各其ノ所在地ノ額ニ依ル  
准士官以上及高等文官ニ限リ入病院中ハ第七表ノ食料定額ニ依ル

第六表

區 分	精 米	人	精 米	日 額	準 額	夜 食	
						料	六 錢 以 下
力業ニ服スル者	六		八	錢	四	厘	
力業ニ服セサル者	五		三	錢	六	厘	
忽戒減食ノ者	二	合	三	錢	六	厘	
重懲倉ニ處セラレタル者	五	合	三	錢	六	厘	
輕懲倉ニ處セラレタル者	五	合	三	錢	六	厘	
合 計			三十	一	錢	九	厘

備 各隊ノ營倉ニ留置セラレタル者ハ輕懲倉ニ處セラレタル者ノ定額ニ據ル  
精米五合ニ對スル備食設計算ハ之ヲ三分シ四拾五入勺位ニ止メ一食ノ數額ヲ得  
貸表ヲ有スル囚人ニ拘束ヲ與フル場合ハ一向金一錢ヲ附給ス

第七表

階 級	朝 食 料	晝 食 料	夕 食 料	日 額				
					備 人	備 錢	備 錢	備 錢
將 官	五十	五十	五十	一圓五十錢				
上 長 官	四十	四十	四十	一圓二十錢				
士 官	三十	三十	三十	一圓				
准 士 官	二十	二十	二十	七角				
下 士	十五	十五	十五	四角五分				
兵 卒	十一	十二	十二	三角五分				
備 人	十	十	十	三十錢				

第八表

品 目	備 額	要	携 行 數		補 填 數		駐 節 地 附 屬
			一 箇	一 箇	一 箇	一 箇	
第二種精			二	二	二	二	
誠衣袴			二	二	二	二	
日 履 垂 布			一	一	一	一	
日 履 垂 布			一	一	一	一	
各兵各部下士兵卒			三	二	二	二	



數	枕	蚊	備
數	枕	蚊	備
布	枕	蚊	備
組	枕	蚊	備
組	枕	蚊	備
組	枕	蚊	備

携行被服ハ前途保存確實ナルモノヲ携行セシムヘシ  
 歩兵下士兵卒ニハ駐節中足袋一足及草鞋四足ヲ加給スルコトヲ得  
 駐節地備付品ノ支給區分ハ第九表ノ規定ニ同シ但シ作業頭巾同衣袴、胸當、前垂及靴靴ハ二箇年間  
 應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス  
 襪袴袴下ノ内一組ハ冬季用ヲ携行セシムヘシ  
 砲兵下士兵卒ニシテ小銃ヲ携帶セサル者ニハ麻雜襪ヲ給セス  
 被服自辦ノ下士ニシテ隊伍ニ列スル者ニ要スル背蓋、飯骨、水筒、携行毛布ハ該隊ニ於テ貸  
 與スルモノトス

第九表

品目	携行數	駐節地備付數	支給區分
第一種背蓋	一箇		一箇年間應用セシメ爾後毎年一箇ヲ給ス
第二種背蓋	一箇		一箇年間應用ノ後一組ヲ給シ爾後毎年一組ヲ給ス
第三種背蓋	一箇		三箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
靴	一箇		一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
日履	一箇		日履ニ同シ
夏衣	一箇		一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
外衣	一箇		一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
雨履	一箇		一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
携行毛布	一箇		一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス

第一種背蓋	步兵下士	一箇	一箇	四箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
第二種背蓋	工兵下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
第三種背蓋	砲兵下士、諸工兵、計手、衛生部下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
靴	砲兵下士上等兵	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
日履	步兵下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
夏衣	步兵下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
外衣	步兵下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
雨履	步兵下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
携行毛布	各兵各部下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
厚毛布	各兵各部下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
包	各兵各部下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
蒲	各兵各部下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
數	各兵各部下士	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス

考備	蚊	枕
携行被服ハ前述保存確實ナルモノヲ携行セシムヘシ 憲兵隊ニハ下士卒用トシテ拍車及紺木綿脚絆若干組ヲ備附ケ必要ニ際シ使用セシム 携行毛布ハ出發ノ際乘船地(澎湖)ノ補給廠支廠若ハ同出發所ニ於テ受領シ歸還ノ際同所ニ返納ス ヘシ但シ駐留地ニ於テ現役ヲ離レタル者ハ所屬部隊ヲ經テ補給廠ニ返納スルモノトス	一 箇	一 箇
	備附地	備附地
	支	支
	給	給
	區	區
	分	分

第十表

品目	備	附	定	數
厚毛布(三組)	判任文官、雇員、看守、番 病人、醫工、守醫、小使、 馬丁、	一 箇	一 箇	一 箇
品目	備	附	定	數
厚毛布(一組)	步兵隊	野戰砲兵隊	製藥砲兵隊	工兵隊

第十一表

品目	保存期限	備	附	定	數
厚毛布(四組)	十年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
包布	五年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
蒲團	五年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
敷布(二組)	二年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇

考備	蚊	枕
括弧内ノ數字ハ第二旅團管内歩兵隊ノ定數ヲ示スモノトス	三年 五年	三年 五年
	一 箇	一 箇
	三 箇	三 箇
	六 箇	六 箇

第十二表

品目	保存期限	備	附	定	數
厚毛布(六組)	十年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
包布	五年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
大蒲團	五年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
敷布(二組)	二年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
大蚊帳	三年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
大蚊帳	五年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
單病衣	一年六箇月	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
裕病衣	三年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
綿入病衣	六年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
親衣	一年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
帶衣	二年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇
狂病衣	三年	一 箇	一 箇	一 箇	一 箇

備考	用 隨 看					上	鼓	
	蚊	枕	敷	蒲	包			厚毛布
看用上靴ハ患者用定數中ニ包含ス 本表定數ハ當該各分院ノ分ヲモ包含ス	帳	帳	帳	帳	帳	帳	帳	帳
	五	三	二	五	五	十	六箇月	二
	年	年	年	年	年	年	年	年
	六五	六五	六五	六五	六五	六五	六五〇	一五〇
	六五	六五	六五	六五	六五	六五	六五〇	一五〇

第十三表

備考	品 目	摘 要	携行數	駐 紮 地	支 給 區 分
本表ノ携行數ハ出發ノ際乘船地(宇品)補給廠支廠若ハ同出張所ニ於テ給與シ内地ニ歸還後モ其儘 應用セシムルモノトス	夏 外 露	將校同相當官准士官 各部隊下士兵卒看守 看病人守醫	一	一	二箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ 依リ換給ス
	本 小 絨 襪 類	各部隊下士兵卒看守 看病人守醫	二	二	一箇年間應用ノ後毎年一箇ヲ給 ス

第十四表

備考	馬	小	看病人守醫	看 守	名 稱		料 價
					甲	乙	
初テ採用者ハ借入ノトキハ甲額ヲ給シテ新調セシメ爾後滿一箇年毎ニ乙額ヲ給シテ保續セシム	丁	使	守	守	二	十	七
	十圓	十五圓	二十二圓	二十二圓	七	十八圓	十一圓
	二十五圓	八十七圓	七十八圓	七十八圓	十	三十五圓	三十五圓
	七圓	三十圓	三十八圓	三十八圓	三	三十八圓	三十八圓
	八十六圓	八十六圓	八十六圓	八十六圓	八十六圓	八十六圓	八十六圓

○陸軍第二十八號

明治三十二年陸軍第六十六號中左ノ通改正ス  
明治三十四年四月十九日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第二項ヲ左ノ如ク改ム

一各官衛及憲兵隊附下士以下及判任文官ノ糧食ハ本規則第七條第一號及第二號ニ準ス但シ賄料  
定額ハ一八一日金拾四錢七厘トス

第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一病室備附被服定數ハ第一表ニ據ル

第四項中「別表ノ品種」ヲ「第二表ノ品種」ニ改ム

別表ヲ第二表ト改メ其摘要中「被服ヲ官給スル」ヲ「被服料ヲ給スル」ニ改ム

第一表

品目	保存期限	庫	附	定	
				山	元
厚毛布(六組)	十年	四五	〇	〇	〇
包	五年	四五	〇	〇	〇
大	五年	四五	〇	〇	〇
敷布(二組)	二年	四五	〇	〇	〇
大	三年	四五	〇	〇	〇
大	五年	四五	〇	〇	〇
大	二年	四五	〇	〇	〇
單	二年	四五	〇	〇	〇
裕	三年	四五	〇	〇	〇
綿	四年	四五	〇	〇	〇
襪	一年	四五	〇	〇	〇
帶	二年	四五	〇	〇	〇
狂	三年	四五	〇	〇	〇
散	二年	四五	〇	〇	〇
上	六箇月	四五	〇	〇	〇
厚毛布(六組)	十年	六	二	二	二

看	護	用	考備	
			看	護
包	布	五	六	二
蒲	團	五	六	二
敷	布(二組)	二	六	二
枕	三	年	六	二
蚊	帳	五	六	二

〔參照〕

明治三十二年七月陸軍第六十六號ハ韓國駐劄陸軍部隊給與ニ關スル件ナリ

○陸軍第二十九號

馬匹補充及育成規則中左ノ通改正ス

明治三十四年四月二十五日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

- 第四條第二項「輜重兵隊」ノ下ニ「憲兵隊」ノ三字ヲ加フ
- 第七條中「軍馬補充部保管馬」ノ下ニ「及耕牛馬」ノ四字ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第九十三號馬匹補充及育成規則(明治三十三年九月八日)抄録

第四條 定期補充馬ノ交付時期ハ左ノ如シ但シ臺灣陸軍部隊ニ在リテハ臨時之ヲ定ム

輜重兵隊

五月

第七條 軍馬補充部保管馬ハ牧場内ノ耕作物(天然草ヲ含ム)ヲ以テ飼養スヘシ但シ剩餘トナリタル耕作物ハ之ヲ貯蔵シ次年度ノ用ニ供スルコトヲ得

○海軍省達第四十一號

艦隊職員勤務令廢止セラル

明治三十四年四月四日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四十二號

艦隊職員勤務令左ノ通定ム

明治三十四年四月四日

海軍大臣山本權兵衛

艦隊職員勤務令

- 第一條 司令長官ハ任務又ハ戰術上ノ必要ニ依リ艦隊ヲ數部ニ區分シ又ハ其ノ區分ヲ變更シタルトキハ之ヲ海軍大臣海軍軍令部長ニ報告スヘシ
- 第二條 司令長官ハ其ノ自ラ直率スル部ト司令官ニ分率セシメタル部トニ麾下幕僚ヲ分屬セシメ之ヲ海軍大臣海軍軍令部長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第三條 司令長官ハ自己並司令官ノ旗艦ヲ定メ若ハ變更スル毎ニ之ヲ海軍大臣海軍軍令部長ニ報告スヘシ
- 前項ハ驅逐隊司令ノ乘艦ニ適用ス
- 第四條 司令長官ハ毎年三月翌會計年度ノ豫算ニ對照シテ該年度内麾下艦船ヲシテ執ラシメント欲スル行動豫定明細表ヲ調製シ海軍大臣海軍軍令部長ニ提出スヘシ
- 第五條 司令長官其ノ麾下ヲ率ヒテ巡航區域外ニ赴キ若ハ其ノ麾下ノ一部ヲ巡航區域外ニ差遣スルヲ要スルトキハ行動豫定明細表ニ記載セント否トニ關セス其ノ航行日程及行動計畫ヲ定メ海軍大臣海軍軍令部長ニ提出スヘシ但シ艦隊條例第七條ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第六條 司令長官其ノ麾下ヲ率ヒテ電信ノ連絡ナキ地方ニ赴クトキハ電信ノ連絡アル最終ノ地ヲ發スル二十四時間前ニ其ノ航行スヘキ地方並其ノ所要ノ時日ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ麾下ノ一部ヲ差遣スルトキ亦之ニ準ス

第七條 司令長官ハ麾下艦隊ノ内規内則等ヲ制定若ハ變更シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 司令長官ハ麾下艦船ノ日課週課ヲ制定シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 司令長官ハ自己ノ發スル命令訓令告示等ヲ左ノ三種ニ區別シテ軍機ヲ保護スヘシ

一 司令官及幕僚並其ノ令達ニ關係アル高等武官ノ外秘密トスヘキモノ

二 麾下高等武官以上並其ノ令達ニ關係アル准士官及下士卒ノ外秘密トスヘキモノ

三 其ノ傳達ヲ麾下一般トシ部外ニ洩ル、モ差支ナキモノ

第十條 司令長官ハ軍機上必要ト認ムルトキハ己ノ閱覽ヲ經スシテ麾下職員一切ノ私信ヲ發送スルコトヲ禁シ又他トノ交通ヲ禁スルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ同所ニ於ケル麾下艦船ノ時辰ヲ齊一ナラシムルコトヲ要ス

第十二條 司令長官ハ麾下艦隊ノ任務施行上必要ト認ムルトキハ便宜ノ區域内ニ限り一定ノ標準時ヲ指定シ麾下艦船限リ之ヲ用ヒシムルコトヲ得

第十三條 司令長官其ノ麾下ヲ率ヒテ航行中ハ天候ノ模様ニ依リ又ハ其ノ他ノ必要ニ應シ艦隊ノ集合地點ヲ指示スルヲ要ス

第十四條 司令長官ハ麾下工作船若ハ艦船乘員ノカヲ以テ修理セシムルコト能ハサルモノ、外ハ麾下艦船兵器ノ修理ヲ造船及造兵工場ニ委託セシムヘカラス但シ任務上急速ヲ要スルトキハ此

ノ限ニアラス

第十五條 司令長官ハ海軍信號書及艦隊運動程式等ニ變更追加ノ必要ヲ認メタルトキハ假ニ之ヲ記入シ艦下艦船限リ之ヲ實施セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第十六條 司令長官ハ艦下ノ候補生及准士官ニ轉勤ヲ命シタルトキ又ハ艦下ノ職員ニ他ノ職務ヲ代理セシメタルトキ及之ヲ解キタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ海軍省ヨリ發スル辭令ト牴觸スル場合ニ於テハ海軍省ノ辭令ニ從フヘシ

第十七條 司令長官艦隊條例第十條ニ依リ同港内ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルハ其ノ港ノ守備其ノ他港内一般ニ關スルコトニ限ル但シ如何ナル場合ヲ問ハス其ノ本務ヲ妨クルコトヲ得ス

第十八條 司令長官ハ法令ニ依ルカ又ハ許可ヲ得ルニアラサレハ職工船舟ヲ備ヒ入レ又ハ土地建物ヲ借入ル、コトヲ得ス若シ緊急ノ必要アリテ其ノ手續ヲ履ム能ハサルトキハ事後其ノ詳細ヲ具シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十九條 司令長官ハ内國港灣ニ於テハ事情止ヲ得スト認ムル場合ニアラサレハ艦下艦船ニ他人ヲ便乗セシムルコトヲ得ス但シ之ヲ便乗セシメタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十條 司令長官ハ銃砲ノ射撃、水雷ノ發射、發火若ハ陸上操練等ヲ施行セシムルニ當リ所在人、民ノ生業ニ影響シ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ勿論其ノ然ラサル場合ニ於テモ成ルヘク地方ノ官衙公署ニ豫報スヘシ

第二十一條 司令長官ハ内外國艦船ノ坐礁、衝突、火災其ノ他海難ニ罹レル事實ヲ見聞スルトキハ成ルヘク艦下ノ艦船ヲシテ相當ノ救護ヲナサシムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ海軍大臣ニ

報告スヘシ

第二十二條 司令官ハ其ノ艦下ヲ指揮統率シ其ノ軍紀、風紀、教育、訓練ヲ監視スヘシ

第二十三條 司令官ハ艦下艦船ヨリノ諸上申、報告、伺等ハ審査ノ上之ヲ處分シ其ノ進達ヲ要スルモノハ之ヲ司令長官ニ進達スヘシ

第二十四條 司令官ハ其ノ艦下ニ對シテハ司令長官ノ職務ヲ規定セル箇條ニ準シ職務ヲ行フヘシ但シ艦隊全部ニ渉ル事項ハ凡テ司令長官ノ計畫ニ則ルヲ要ス

第二十五條 參謀長ハ司令長官ノ職務ニ參シ其ノ命令ノ傳達ヲ掌リ並之カ實施ヲ監視スヘシ

第二十六條 參謀長ハ艦隊日誌ヲ整備シ艦隊艦船日々ノ所在、行動、演習及重大ナル事件ヲ記録シ常ニ艦隊ノ事歴ヲシテ明瞭ナラシムヘシ

第二十七條 參謀長ハ海軍省、海軍軍令部、海軍艦政本部、海軍教育本部、鎮守府、要港部等關係アル官衙ノ主務官ト常ニ相通報シ内外ノ事情ニ疎隔ナキコトヲ期スヘシ

第二十八條 參謀長ハ艦隊ニテ實驗シタル事業ニシテ海軍戰術講究ノ資料タルヘシト認ムルモノハ凡テ之ヲ海軍大學校ニ通報スヘシ

第二十九條 參謀長ハ司令長官カ艦下司令官及艦船長ヲ會シ軍議ヲ開クトキハ常ニ之ニ參與シ且其ノ記録ヲ掌理スヘシ

第三十條 司令長官ノ幕僚タル參謀長ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分擔スヘシ

第三十一條 司令官ノ參謀ハ司令官ノ命ヲ承ケテ服務シ其ノ命令ノ傳達ヲ掌リ並之カ實施ヲ監視シ且人事、文書ノ取扱其ノ他機密事務ヲ掌理シ官印ヲ監守スヘシ

第三十二條 司令官ノ首席參謀ハ參謀長ノ職務ヲ規定スル箇條ニ準シ服務スヘシ



- 第三十三條 副官ハ人事、文書ノ取扱其ノ他機密事務ヲ掌理シ官印ヲ監守スヘシ
- 第三十四條 航海長、機關長、軍醫長、主計長、主理及通譯官ハ其ノ主務ニ關シ司令長官ニ具申若ハ報告等ヲナス場合ニハ凡テ參謀長ヲ經由スヘシ
- 第三十五條 航海長ハ艦隊ノ出航及碇泊ニ先チ司令長官ノ指示スル所ニ基キ艦隊ノ行路、速力、航行日程、錨地及碇泊艦位等ヲ案定シ參謀長ニ提出スヘシ
- 第三十六條 航海長ハ其ノ主管品ヲ整理シ又艦隊艦船航海ノ事務及其ノ航海長ノ主任タル教育事務カ規定ニ適合シテ實施セラル、ヤ否ヲ監視スヘシ
- 第三十七條 航海長ハ艦隊艦船ノ航海ニ關スル諸報告、上申、何等ヲ審查シ其ノ指令スヘキモノハ指令案ヲ附シ又意見アルモノハ意見ヲ附シ司令長官ニ進達スヘシ
- 第三十八條 航海長ハ未測ノ港灣ニ至リ時機之ヲ許ストキハ司令長官ニ具申シ各艦船航海長及必要人員ヲ集メ自ラ其ノ長トナリ測量ヲ行ヒ其ノ測圖及水路記事ヲ司令長官ニ進達スヘシ
- 第三十九條 機關長ハ艦隊ノ出航及碇泊ニ先チ司令長官ノ指示スル所ニ基キ艦隊艦船ノ石炭及燃料ノ補給其ノ他機關ノ處理ニ關スル必要ノ計畫ヲ定メ之ヲ參謀長ニ提出スヘシ
- 第四十條 機關長ハ常ニ艦隊艦船ノ石炭消費額ノ當否ニ注意シ艦隊ノ行動ニ要スル石炭費額其ノ年度内石炭豫算額ニ超過セサルヤ否ヲ調査シ毎月五日マテニ各艦ノ航行里程及石炭消費額並豫算全額、殘額、増額等ノ對照統計表ヲ作り司令長官ニ進達スヘシ
- 第四十一條 機關長ハ艦隊艦船ニ於ケル機關官以下ノ教育訓練及機關ノ管理カ規定ニ適合シテ實施セラル、ヤ否ヲ監視スヘシ
- 第四十二條 機關長ハ艦隊艦船ノ汽機、汽罐其ノ他機關長ノ主管ニ屬スル兵器及機械等ノ検査若

- ハ試驗ヲ執行スルモノアマトキハ之ニ立會其ノ結果ヲ司令長官ニ報告スヘシ
- 第四十三條 機關長ハ艦隊艦船ノ汽機、汽罐其ノ他機關長ノ主管ニ屬スル兵器及機械等ノ構造適否及其ノ改良ニ關シ意見アルトキハ司令長官ニ具申シ且之ヲ其ノ艦船ノ本籍鎮守府機關部長ニ通牒スヘシ
- 第四十四條 機關長ハ艦隊艦船ノ機關ニ關スル諸報告、上申、何等ヲ審查シ指令スヘキモノハ指令案ヲ附シ又意見アルモノハ意見ヲ附シ司令長官ニ進達スヘシ
- 第四十五條 軍醫長ハ艦隊ノ出航及碇泊ニ先チ司令長官ノ指示スル所ニ基キ艦隊艦船ノ治療品準備ニ關スル計畫ヲ定メ之ヲ參謀長ニ提出スヘシ
- 第四十六條 軍醫長ハ艦隊ノ港灣ニ入港スル毎ニ必要ニ應シ直ニ其ノ地健康ノ情況、食品及飲料水ノ良否等ヲ調査シ艦隊乗員ノ衛生ニ關シ必要ノ措置ヲ定メ之ヲ參謀長ニ提出スヘシ
- 第四十七條 軍醫長ハ艦隊艦船ノ衛生實況ヲ詳知シ各艦船ノ醫務及其ノ軍醫長ノ主任タル教育事務カ規定ニ適合シテ實施セラル、ヤ否ヲ監視スヘシ
- 第四十八條 軍醫長ハ艦隊艦船ノ醫務衛生ニ關スル諸報告、上申、何等ヲ審查シ其ノ指令スヘキモノハ指令案ヲ附シ又意見アルモノハ意見ヲ附シ司令長官ニ進達スヘシ
- 第四十九條 軍醫長ハ艦隊艦船ニ傳染病發生スルトキハ必要ノ措置ヲ定メテ司令長官ニ具申スヘシ
- 第五十條 主計長ハ艦隊ノ出航及碇泊ニ先チ司令長官ノ指示スル所ニ基キ艦隊艦船主計長ノ主管ニ屬スル金錢、被服、糧食ノ準備ニ關スル計畫ヲ定メ之ヲ參謀長ニ提出スヘシ
- 第五十一條 主計長ハ機動費ノ準備及之カ支出ノ當否ヲ精査シ且其ノ運用ヲ監視スヘシ

第五十二條 主計長ハ艦隊艦船主計長主管ニ關スル金錢、物品ノ出納、保管及準備ノ現況ニ注意シ之ニ關スル諸規程訓令等ノ施行ヲ監視スヘシ

第五十三條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ會計給與上ノ當否及其ノ主計長ノ主任タル教育事務ヲ監視シ特ニ物品ノ購買ニ關シテハ其ノ手續ヲ盡シタルヤ否ヲ注意スヘシ

第五十四條 主計長ハ艦隊艦船ノ會計給與ニ關スル諸報告、上申、伺等ヲ審査シ其ノ指令スヘキモノハ指令案ヲ附シ又意見アルモノハ意見ヲ附シ司令長官ニ進達スヘシ

第五十五條 主計長ハ艦隊艦船ノ會計給與事務ノ進行上ニ關シ報告ヲ要スルトキハ主計長ヲシテ之ヲ報告セシムルコトヲ得

第五十六條 主計長ハ艦隊艦船ノ金櫃及會計給與ニ關スル帳簿、書類等ノ調査ヲ必要ト認ムルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ艦船長ニ照會シ主計長ヲシテ之ヲ提出セシメ若ハ之ヲ臨檢スルコトヲ得

第五十七條 主理ハ海軍檢察ノ正當ニ行ハル、ヤ否ニ注意シ其ノ主務ニ關スル諸般ノ取調ヲ爲シ之ニ關スル命令若ハ指令案ヲ附シ具申、申請等ヲ審査シ意見アルトキハ司令長官ニ具申スヘシ

第五十八條 鎮守府艦隊ノ職員ハ本令ニ於テ司令官以下ノ職務ヲ規定スル箇條ニ準シ其ノ職務ヲ行フヘシ

○海軍省達第四十三號

海軍少機關士候補生實務練習規則中左ノ通り改正ス

明治三十四年四月五日

海軍大臣山本權兵衛

第二條中ノ教科目ヲ左ノ如ク改ム

一 操縱法 汽艫及焚火法、運轉法、應急作業諸小機及諸裝置ノ操法

二 整理法 調整法、解裝法、檢査法、保存法、修理法、應急準備、需品ノ處理

三 實驗法 機關及諸裝置ノ效力ニ關スル實驗

四 部署及配置法 艦船ニ於ケル現實施ノ部署及配置

五 勤務 航海練習艦長之レヲ定ム

第三條中各教科目ニ對スル點數左ノ如ク改ム

操縱法 全點 海軍機關學校卒業成績全點ノ百分ノ五

整理法 全點 同 右

實驗法 全點 同 百分ノ四

部署及配置 全點 同 百分ノ二

第四條中「八百點ヨリ二百點ヲ」海軍機關學校卒業成績全點ノ百分ノ八ヨリ同百分ノ四ニ改メ「實務ヲ勤務」ニ改ム

○海軍省達第四十四號

驅逐艦寬ハ明治三十三年七月二十九日清國山東省南東岬角附近ニ於テ坐礁ノ末沈没シ引揚ノ見込ナキニ付帝國軍艦ヨリ除名セラル

明治三十四年四月八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四十五號

艦國部隊需用品定額表中左ノ通改正追加及削除ス (改正加除略ス)

明治三十四年四月八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四十六號

明治三十四年達第百八十四號貸與品表中左ノ三廉ヲ削除ス

鋼線鐵網	但百二十七ミリヨリ百	マニラ網	但二百三ミリヨリ二百
輕荷	五十二ミリマテノモノ		五十四ミリマテノモノ

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四十七號

海軍外國旅費規則中左ノ通改正ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十四年四月十一日

第五條 左ノ事項ニ該ルトキハ汽車料船舶料ハ定價トシ客舍料食卓料ハ旅費等級ノ區分ニ從ヒ各定價以內ノ實費ヲ支給シ日當ハ第一號乃至第四號ノ場合ニ在テハ各共ノ定額ノ半額ヲ支給シ第五號ノ場合ニ在テハ之ヲ支給セズ但第五號ノ場合ニ於テ休憩料棧橋料舢舨料ヲ要スルトキハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

- 一 外國ニ在ル艦船艇ノ乘員其ノ所在地外ノ地ニ入院若ハ治療場所ヲ移轉スルトキ
- 二 外國ニ在ル艦船艇ノ乘員陸地療養ノ未歸國若ハ歸艦スルトキ
- 三 艦船艇ノ乘員公暇上陸中本艦船艇出航ノ爲メ追尾歸艦スルトキ
- 四 囚人ヲ旅行セシムルトキ又ハ刑事被告事件ニ依リ旅行スルトキ
- 五 行軍及隊伍ノ旅行若ハ隊外員其ノ職務ヲ以テ旅行スルトキ

第七條但書中「第二項」ヲ「第一號」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第百四十九號海軍外國旅費規則(明治三十年十月二十六日)抄錄  
第五條 左ノ事項ニ該ルトキハ汽車料船舶料ハ定價トシ客舍料食卓料ハ旅費等級ノ區分ニ從ヒ各定價以內ノ實費ヲ支給シ

○海軍省達第四十八號

明治二十三年達第百八十五號中「拳銃ヲ攜帶スル下士卒」ヲ「水兵部員、信號部員及軍樂部員」ヲ除ク外下士卒ニ第一號ノ「二十發」ヲ「十二發」ニ第二號ノ表中「彈藥包數」欄「五發」ヲ何レモ「三發」ニ改ム  
明治三十四年四月十二日 海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治二十三年八月海軍省達第百八十五號ハ拳銃ヲ攜帶スル下士卒ニ毎年一回拳銃射撃ヲ施行セシムル件ナリ

○海軍省達第四十九號

造船造兵材料資金取扱規程別冊ノ通相定メ明治三十四年度ヨリ施行ス但明治二十年達第百五十一號及明治三十三年達第四十一號ハ明治三十三年度限り廢止ス  
明治三十四年四月十五日 海軍大臣山本權兵衛

(別冊)

造船造兵材料資金取扱規程

第一章 豫算

第一條 海軍省所管經費ノ歲出概算額決定シタルトキ艦政本部長ハ當該年度ニ於ケル造船造兵事業ノ梗概及其ノ內定金額並ニ資金分配ノ內定額ヲ順序ヲ經テ各廳長ニ通知スヘシ

第二條 各廳長前條ノ通知ヲ得タルトキハ當該年度ニ於ケル造船及造兵材料資金ノ歳入歳出ヲ概定シ損減歩合額ヲ豫量シ第一號書式ノ概算書及明細仕譯書並ニ前々年度受拂勘定表ヲ作り前年度七月三十一日マテニ順序ヲ經テ海軍大臣ニ提出スヘシ

第三條 經理局長ハ前條ノ書類ヲ調査統計シ明治二十三年大藏省令第九號中第一號及第二號書式ニ據リ造船及造兵材料資金歳入歳出豫定計算書各目明細書及受拂勘定表ヲ作り前年度八月三十一日マテニ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 毎年度造船及造兵材料資金歳入歳出ノ豫算公布セラレタルトキ經理局長ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 當該年度資金分配額ヲ各廳長ニ令達ノ手續ヲ爲スコト
- 二 第二號書式ニ據リ歳入及仕拂豫算書ヲ作り各廳長ニ令示ノ手續ヲ爲スコト
- 三 損減歩合トシテ加算收入スヘキ乘率ヲ各廳長ニ令達ノ手續ヲ爲スコト

第五條 經理局長前條第二ノ手續ヲ爲シタルトキハ同時ニ明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式甲ニ據リ仕拂豫算書ヲ作り大藏大臣及會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ又同條第三ノ手續ヲ爲シタルトキハ同時ニ其損減歩合ノ乘率ヲ會計検査院ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 經理局長仕拂豫算ノ更定ヲ要スルトキハ第三號書式ニ據リ第四條第二ノ手續ヲ爲シ同時ニ明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式乙ニ據リ仕拂豫算更定計算書ヲ作り大藏大臣及會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 經理局長資金分配額ノ更定ヲ要スルトキハ第四條第一ノ手續ヲ爲スヘシ

第二章 收入支出

第八條 造船及造兵材料資金ノ歳入ハ各廳會計課長若ハ主計長ヲ收入官吏トシ該廳長ヲ歳入徴收官トス但會計課長若ハ主計長ヲ置カサル廳ニ在テハ其ノ收入官吏ハ別ニ之ヲ命ス

造船及造兵材料資金ノ歳出ハ仕拂豫算ヲ以テ各廳長ニ令示シ之ヲ執行セシム

第九條 各廳長及收入官吏ハ歳入歳出取扱規程第八條乃至第十二條及第十八條第十九條ノ規定及明治二十三年大藏省訓令第七十一號收入金收納取扱順序ニ據リ造船及造兵材料資金ノ歳入ヲ取扱フヘシ但領收證書現金拂込書及納入告知書ハ明治二十三年大藏省令第九號中第二十號第二十一號及第二十五號書式ニ據ルヘシ

第十條 各廳長ハ前條ニ據リ金庫ニ納付シタル收入金ハ其都度金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケ毎日金庫ノ歳入金領收濟額(即チ仕拂元受)ヲ取纏メ之ヲ歳出仕拂元受金ニ組換ノ手續ヲナスヘシ

第十一條 各廳長資金ノ持越額ヲ歳出仕拂元受金ニ組換ヘントスルトキハ金庫ニ請求シ其ノ組換ヲナスヘシ

第十二條 各廳長造船及造兵材料資金ノ歳出ヲ支出スルニハ毎年度令示セラレタル歳出豫算金額科目及目的ニ從ヒ作業及鐵道會計規則第十三條乃至第十七條及第十九條第二十三條ノ例ニ據リ共ノ仕拂フヘキ金額ノ仕拂傳票ヲ作り證書類ヲ添付シ其ノ都度鎮守府所在地ニ在テハ當該鎮守府經理部長ノ検査ヲ受ケタル後明治二十三年大藏省令第九號中第二十二號乃至第二十四號書式ニ據リ仕拂請求書ヲ作り作業及鐵道會計規則第十八條ノ例ニ據リ取扱フヘシ

第十三條 各廳長仕拂請求書ヲ受取人ニ交付シ又ハ金庫ニ送付スルニハ歳入歳出取扱規程第三十條乃至第三十七條ヲ準用スヘシ但歳入歳出取扱規程第三十三條ノ場合ニ於テハ領收證ヲ作業及鐵道會計規則第九條第三項ノ計算書ニ添付シ同規程第二十六條ノ場合ニ於テハ作業及鐵道會計

金庫出納事務規程ニ據ルヘシ

第十四條 各廳長ハ毎月其ノ收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ基キ作業及鐵道會計規則第二十六條ニ據リ明治二十三年大藏省令第九號中第五號書式ノ徵收報告書ヲ作り金庫ヨリ送付シタル歳入金月計對照表ヲ添ヘ翌月五日マテニ經理局長ニ送付スヘシ

第十五條 各廳長年度經過後(翌年度七月三十一日以前)ニ於テ收入科目ニ誤謬アルヲ發見シタルトキハ前條ニ準シ即時訂正報告書ヲ作り經理局長ニ送付スヘシ

第十六條 經理局長第十四條ノ徵收報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ明治二十三年大藏省令第九號中第六號書式ニ據リ徵收合計表ヲ作り各廳長ノ徵收報告書及金庫月計對照表ト共ニ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 經理局長第十五條ノ訂正報告書ヲ受ケタルトキハ前項ニ準シ取扱フヘシ

第十八條 收入官吏年度末ニ領收シタル資金ニ屬スル歳入金ニシテ出納官吏現金取扱規則第十五條ニ定メタル期日即四月一日ニ現金ノ拂込ヲ了リタルトキ又ハ金庫所在地外ニ在テ四月一日ニ金庫ニ對シ現金ノ發送ヲ爲シタルトキハ四月一日以後ニ於テモ尙三月三十一日ノ屬スル年度ノ歳入トシテ整理スヘシ

第十九條 各廳長ハ毎月第四號書式ノ原簿統計表及第五號書式ノ仕拂請求書發行濟額及歳出仕拂元受金差引額報告書ヲ作り翌月十日マテニ經理局長ニ送付スヘシ

第二十條 各廳長資金ニ屬スル現金ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ金庫ニ繰越ノ請求ヲ爲シ同時ニ第六號書式ノ繰越計算報告書ヲ作り速ニ經理局長ニ送付スヘシ但便宜ノ爲メ當該年度二月申ニ於テ内繰越ヲ金庫ニ請求スルコトヲ得

第二十條 各廳長作業及鐵道會計規則第二十二條ニ據リ收入未濟ノ金額ヲ翌年度ニ繰越シタルトキハ第七號書式ニ據リ繰越計算報告書ヲ作り經理局長ニ送付スヘシ

第二十一條 各廳長作業及鐵道會計規則第二十三條ニ據リ其ノ歳出豫算ヲ翌年度ニ繰越シ之ニ相當スル金額ヲ造船及造兵材料資金ニ屬スル現金ノ持越高ノ内ニ組込ミ翌年度ニ繰越シタルトキハ第八號書式ニ據リ繰越計算報告書ヲ作り經理局長ニ送付スヘシ

第二十二條 經理局長前二條ノ報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ至當ト認メタルトキハ明治二十四年三月大藏省令第一四二八號及同年四月同省令第一六五六號ノ通達ニ據リ繰越計算報告書ヲ作り大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

經理局長前項歳出豫算繰越ノ手續ヲナストキハ同時ニ第六條ノ例ニ據リ仕拂豫算更定ノ手續ヲナスモノトス

第二十三條 各廳長ハ資金ニ屬スル歳入金ニシテ金庫ニ納入済金額ノ内事故アリテ下戻ヲ要スルモノアルトキハ其ノ年度内ト雖モ歳出豫算額内ヲ以テ仕拂請求書ヲ發シ下戻ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 各廳長ハ資金ニ屬スル歳出ニシテ誤拂過渡トナリタルモノアルトキハ返納ノ義務アル者ニ對シ納入告知書ヲ發シ特別會計ノ歳入ニ納付ノ手續ヲ爲スヘシ又作業及鐵道會計規則第十九條ノニニ據リ定額ニ戻入スルコトヲ得ルモノ、返納ハ返納告知書ヲ發シ歳出ノ返納トシテ特別會計ノ金庫ニ納付ノ手續ヲ爲シ其返納トナリタル金額ハ歳出豫算ノ戻入計算ニ立テ整理スヘシ

第二十五條 各廳長ハ資金ニ屬スル貯蓄材料ノ價格改正又ハ不用品拂下ノ爲メ格價ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ第九號書式ニ據リ貯蓄材料價格増減報告書ヲ作り其ノ都度之レヲ經理局長

ニ送付スヘシ

第二十六條 各廳長ハ毎年度末ニ於テ第一號書式ノ三ニ據リ當該年度分配サレタル資金ノ受拂勘定表ヲ作り年度經過後直ニ之ヲ經理局長ニ送付スヘシ

第二十七條 經理局長前條ノ勘定表ヲ受ケタルトキハ之ヲ統計差引シ益金アルトキハ同年度一般ノ歳入トシテ國庫ニ納付ノ爲メ明治二十四年三月大藏省乾第一五七八號通達ニ據リ請求書ヲ作り大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 各廳長前條ニ依リ益金ヲ國庫ニ納付シタル場合ニ於テ歳出仕拂元受金ヨリ一般歳入ニ移換ノ順序ヲナシタルコトノ報告ヲ金庫ヨリ受ケタルトキハ該報告ニ據リ當該年度ノ計算ヲ整理スヘシ

第三章 決算

第二十九條 各廳長ハ第十號書式ニ據リ造船及造兵材料資金歳入歳出ノ決定計算書並特別會計計算書ヲ作り翌年度七月三十一日マテニ經理局長ニ送付スヘシ

第三十條 經理局長前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ明治三十年十月大藏省乾第二二六二號通達ノ書式ニ據リ作業及鐵道會計規則第九條第一項ノ歳入歳出決定計算書ヲ作り又明治二十四年八月大藏省乾第四七九三號通達ノ書式ニ據リ會計規則第五十五條ノ特別會計計算書ヲ作り翌年度八月三十一日マテニ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 各廳長ハ作業及鐵道會計規則第九條第二項及第三項ノ例ニ據リ會計検査院ニ證明ノ爲メ同院ニ於テ定ムル所ノ歳入證明規程ニ據リ歳入徴收額計算書ヲ作り證書書類ヲ添へ年度經過後二箇月以内ニ經理局長ニ送付シ又支出證明規程ニ據リ支出計算書ヲ作り證書書類ヲ添へ翌

月十五日マテニ經理局長ニ送付スヘシ

各廳長前項ノ計算書ヲ送付スルトキハ其歳入額支出額ニ對スル類別金額仕譯書(第二號書式ノ一ニノ附屬書式ニ準シ)ヲ作り該計算書ニ添付スヘシ

現金前渡官吏ヨリ作業及鐵道會計規則第四十三條ノ例ニ據リ會計検査院ニ提出スヘキ仕拂計算書ハ歳入歳出取扱規程第四十二條及第四十三條ノ例ニ據ルヘシ

收入官吏ハ作業及鐵道會計規則第四十三條ノ例ニ據リ會計検査院ニ證明ノ爲メ同院ニ於テ定ムル所ノ收入證明規程ニ據リ收入計算書ヲ作り證書書類ヲ添へ翌年度五月十五日迄ニ當該各廳長ニ送付スヘシ

收入官吏前項ニ據リ計算書ヲ提出セントスルトキハ各所屬長ニ於テ現金出納簿ニ對照シ其ノ符合及殘額現存ヲ認メタル保證書ヲ作り計算書ニ添付セシムヘシ

各廳長前二項ノ計算書及證書書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ會計検査院ニ於テ定ムル所ノ收入證明規程ニ據リ下検査ヲ執行シ期日以内ニ會計検査院ニ送付スヘシ此ノ場合ニ於テハ經理局ヲ經由スヘシ

第三十二條 經理局長前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四章 帳簿

第三十三條 經理局ニ於テハ第十一號乃至第十五號書式ニ據リ歳入總計簿、歳出總計簿、歳出仕拂元受金總差引簿、資金整理簿及原簿總計簿ヲ備へ其ノ計算ヲ整理スヘシ

第三十四條 各廳ニ於テハ作業及鐵道會計規則第四十六條第四十七條及第四十九條ニ據リ明治二



報告ハ其ノ司令之ヲ調製シ各一通ツ、海軍大臣海軍軍令部長在籍鎮守府司令長官及所屬長官  
役務上其ノ艦艇ヲ統率スル鎮守府司令長官ニ進達スヘシ但シ海軍大臣海軍軍令部長ハ直接進達  
官艦隊司令長官及要港部司令官ヲ附フ  
スルヲ要ス

第三條 艦艇及水雷敷設隊現狀報告ハ既成艦艇及水雷敷設隊ノ現狀ヲシテ一目瞭然タラシムルヲ  
目的トス故ニ艦艇ニ在テハ船體及機裝、兵裝、汽機汽艙等ニ異狀ヲ呈シタル如キ又水雷敷設隊ニ  
在テハ衛所、兵器、附屬船艇等ニ異狀ヲ呈シタル如キハ特ニ簡明ニ其ノ要點ヲ記入スヘシ又報告  
ニ記入ノ事件前月ニ同シキモノト雖之ヲ省略セス報告毎ニ一々登記スヘシ但シ報告ノ記事多ク  
シテ一表ニ記載シ盡サ、ルトキハ二表以上ヲ用フルコトヲ得

水雷艇隊ノ現狀報告ハ警備艇ノモノト豫備艇ノモノト別表ニ記載スルヲ要ス

第四條 臨時報告ニハ必要ノ事項ノミヲ記入スルモノニシテ要旨欄内ニ其ノ報告ノ要旨  
工者ハ坐標報ヲ記入スヘシ  
告等ノ如シ

第五條 艦艇ニ在テハ左ノ事件ハ必ス之ヲ臨時報告トシ發生ノ都度其ノ大要工事ノ日數等ヲ先ツ  
電信ヲ以テ報告シ複雑ノ事件ハ後書面ヲ以テ詳細報告スルモノトス但シ工事ノ著手等ニ在テハ  
其ノ三日以内ニ竣工復舊スルモノ若ハ三日以内ニ書面到着ノ見込アルモノ又ハ重大ナル他ノ工  
事中ニ生セシ發見工事ニシテ報告濟、工事期限内ニ落成スルモノ其ノ他別ニ其ノ著手、事件等ノ  
發生ヲ報告スヘキ規程アルモノ  
假令ハ艦艇修理檢査試 若ハ本籍軍港ニ於ケル事件ノ發生ニ關シ  
其ノ長官ヘノ報告ノ如キモノハ書面ヲ以テ報告シ電信ヲ以テ報告スルニ及ハス  
一 擱岸坐礁衝突火災等ノ出來事ヲ始メ本艦艇ノ進退兵備上ニ關スル重要ノ事件發生シタルト  
キ

二 在役艦及第一豫備艦ノ修理改造若ハ兵器機關ノ分解開放檢査手入等ニ著手シ急速發航ノ命  
ニ從フ能ハサルトキ但シ其ノ竣工復舊ノ豫定期日ヲ併記スルコトヲ要ス其ノ期日變更セシ  
トキハ其ノ都度更ニ報告ヲ要ス

三 前諸號ノ事業竣工復舊シ發航ニ差支ナキニ至リタルトキ  
第六條 水雷敷設隊ニ在テハ前條ノ例ニ依リ左ノ事件ハ之ヲ臨時報告トシ速ニ報告スヘシ  
一 衛所及魚形水雷發射臺場其ノ他重要ナル建築物等ノ毀損ノ如キ防備上ニ關スル重要ノ事件  
發生シタルトキ  
二 衛所及魚形水雷發射臺場其ノ他重要ナル建築物等ノ修理改造若ハ兵器、船艇ノ檢査修理手  
入等ニ著手シ急速防禦ヲ實行スル能ハサルトキ但シ其ノ竣工復舊ノ豫定期日ヲ併記スルコ  
トヲ要ス  
三 前諸號ノ事業竣工復舊シタルトキ  
(表略ス)

○海軍省達第五十三號  
通常物品出納命令官會計官吏表中港務部ノ部品名稱「材料」ヲ「要具」ニ改メ「防火用物品」ノ次ニ「軍港  
電燈用物品」ヲ加フ

明治三十四年四月二十四日 海軍大臣山本權兵衛  
○海軍省達第五十四號

海軍艦團隊下士卒教育規則第三十八條及別表第四ニ依リ發射セシムヘキ發射彈數左ノ通定ム  
明治三十四年四月二十五日 海軍大臣山本權兵衛



第三十八條第二號ニ掲タル銃射撃ニ於テ發射セシムヘキ内筒砲彈數ハ軍艦射撃規則ニ規定セル年額内トシ小銃彈數ハ艦團部隊ニ於ケル兵曹水兵ノ定員每一人ニ付三發ノ割合トス  
別表第四號砲助手教程中小銃射撃彈數ハ海軍小銃射法教程ニ規定セル年額彈數以外ニ於テ兵員每一人ニ五十發トシ拳銃射撃彈數ハ明治二十三年達第二百八十五號ニ依ル又内筒砲彈數ハ軍艦射撃規則ニ規定セル年額内トス

○海軍省達第五十五號

治療品出納規程中第二表乙病院供給用消耗品及病院供給用定備品ノ欄ヲ削除ス  
本達ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年四月三十日

海軍大臣山本權兵衛

○會計検査院達第一號

明治二十八年會計検査院達第二號物品出納證明規程左ノ通改正ス

明治三十四年四月一日

會計検査院長男爵内海忠勝

物品出納證明規程

- 第一條 物品會計規則ニ依リ物品會計官吏ノ證明スヘキ物品出納計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ
- 第二條 身元保證金ヲ納メタル分任物品會計官吏交替ノトキハ特ニ其物品出納計算書ヲ圖製シ證明ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ在リテハ主任物品會計官吏ヲ經由スヘシ
- 第三條 物品出納計算書ニハ左ノ區分ニ準シ物品ノ種類若クハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シテ毎品之ヲ列記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集計スルモ妨ナシ

- 一 通常物品ニ在リテハ器具機械備品消耗品動物等ニ之ヲ區分スヘシ
- 二 作業及鐵道其他之ニ類スル部局ノ事業用物品ニ在リテハ生産品、材料素品、機械運轉用品、作業場用備品、作業場用器具機械等ニ之ヲ區分スヘシ
- 三 造船造兵材料鐵道用品資金所屬物品其他工事材料林產物品、農工業物品ノ類ニ在リテハ地金木材穀類等ニ之ヲ區分スヘシ

第四條 左ノ事項ハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

- 一 證憑書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ共事由
- 二 現在品ノ内地運送中ノモノアルトキハ其數量價格及事由
- 三 既往年度代價收入濟ニ係ル物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ其數量及價格

第五條 物品出納ノ證憑トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ  
一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書及領收證書但監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

二 不用物品ノ賣拂ニ對シテハ品質、數量、代價、賣拂ノ年月日並代價納付濟ノ年月日及其事由ヲ詳記シタル當該官吏ノ證明書又ハ決議書

三 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質、數量、價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書

四 贈與拂等ノ物品ニ對シテハ其價格事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書  
作業及鐵道造船造兵材料鐵道用品資金所屬ノ物品ニ對シテハ前各號書類ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 價格ヲ評定シタルモノハ其評定價格書又年度末ニ於テ其價格ヲ改定シタルモノアルトキハ每件其事由ヲ詳記シタル仕譯書又ハ決議書
  - 二 不用物品ニ組換タルモノアルトキハ每件其事由ト元價格又ハ見積價格ヲ詳記シタル證明書若クハ決議書
- 收入印紙及郵便切手類ニ對シテハ第一項各號書類ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ
- 一 交換渡ニ對シテハ受取人ノ領收證書但損傷汚染又ハ廢棄賣棄ニ係ル交換ニハ其事由並種類員數ヲ詳記シタル當該上官ノ認定書ヲ添付スヘシ
  - 二 糞漬及焼却拂ニ對シテハ事由並種類員數ヲ詳記シタル當該上官ノ認定書及立會官吏ノ證明書
- 前各項ノ外物品ノ種類ニ依リ特ニ明細書若クハ證書ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス
- 第六條 前條ノ證書類ハ受拂ニ大別シ物品出納計算書ニ掲グル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量並價格ノ合計及證書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ掲グル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ
- 一 證書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量價格合計ヲ記載スヘシ
- 第七條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ニシテ物品會計規則第十八條ニ依リ圖書ヲ以テ證明スル場合ニ於テ前回ノ證明高ニ對シ増減異動アルモノハ其仕譯書ヲ添付スヘシ
- 第八條 下検査書ハ物品出納計算書毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 物品出納計算書ト物品出納簿トノ符合及其現在品ノ保證
  - 二 事實ニ適合セスト認定シタル事項及其理由

第九條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附則

第十條 本規程ハ明治三十三年度分ヨリ施行ス

造幣局金銀地金及廢毀紙幣豫備並廢銷公債證書類ニ係ル出納ノ證明ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ル

作業及鐵道物品出納證明規程、官設鐵道用品資金所屬物品出納證明規程、印紙類出納證明規程、郵便切手類出納證明規程、葉煙草賣賣所葉煙草出納證明規程及明治二十八年會計検査院達第七號明治二十八年會計検査院達第九號ハ明治三十二年分限リ廢止ス

(別記)

明治何年度	
物品出納計算書	
<p>一 計算書ヲ授受スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ</p> <p>一 物品會計官吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ</p> <p>一 計算書ノ用紙ハ折引厚質美濃紙ニツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ綴代ヲ存スヘシ</p> <p>一 計算書ハ改換塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲナシタルトキハ二綴ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ</p>	<p>證憑書 何冊</p> <p>何 ヲ</p> <p>名 應</p>









明治何年度物品出納證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年月日

○陸達第三十號

停年名簿編纂規則第四條第二項ヲ左ノ通改正ス

明治三十四年五月二日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

轉科ノ者ノ列次ハ原兵科ノ停年ヲ通算シ陸軍現役將校列次名簿編纂規則第二條及第三條ノ例ニ準シ之ヲ定ムルモノトス

〔參照〕

陸達第六十號停年名簿編纂規則(明治二十五年七月一日)抄錄

第四條第二項

轉科ノ者ハ原兵科ノ停年ヲ通算シテ列次ヲ定メ其同停年者アルトキハ原兵科ノ列次ニ從フ

○陸達第二十一號

陸軍武官進級取扱規則中別紙ノ通改正セラル

明治三十四年五月二日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第七條第二項中左ノ通改正ス

「准士官」ヲ「曹長及曹長同等ノ下士」ニ改ム

第十條中及同條第一第二項中左ノ通改正ス

第十條中「下士」ヲ「士官准士官下士」ニ改ム

第一項「中少尉其所屬ヲ轉換シタルトキハ舊所屬部隊ニ於ケル候補名簿ノ列次ニ從ヒ新所屬部隊ノ候補名簿中適當ノ位置ニ組入レ順次ニ進級セシム」ニ改ム

第二項其他ノ下士ニ在テハノ上ニ「特務曹長ノ候補者及」ノ九字ヲ加フ

〔参照〕

陸軍第九十五號陸軍武官進級規則(明治三十年八月三日)抄録  
 第七條 決定候補名簿ヲ作ルハ左ノ例ニ據ル  
 一 准士官ニ在テハ師團長及之ト同等以上ノ階アル長官第一條第四項ノ範圍毎ニ列序ヲ定メ之ヲ作ル  
 但學校附寮内居住ノ曹長ヲ特務曹長ニ拔擢スルニハ教育總監ハ決定期ノ前月中ニ諸學校ヲ通シタル候補者ノ列次幾人  
 中ノ第何番タルコトヲ當該師團長(通報)師團長ハ其列次ニ從ヒ之ヲ原所屬隊候補名簿中適當ノ位置ニ繰入ス而シテ  
 爾後該候補者身上ニ異動ヲ及スヘキ事故生スレハ其都度教育總監ハ之ヲ師團長ニ通報スヘシ  
 第十條 決定候補名簿ニ登載セル下士進級區域ヲ轉換シタル者ハ左項ニ據リ進級セシムルモノトス  
 一 特務曹長ノ候補者ニ在テハ其列次ニ從ヒ新所屬部隊ノ候補名簿中適當ノ位置ニ繰入レ爾次ニ進級セシム  
 二 其他ノ下士ニ在テハ候補名簿ノ列次即チ決定者幾人中ノ第何番タルコトヲ甲所管ヨリ乙所管ニ通報シ乙所管ニ於テハ  
 其列次ニ從ヒ候補名簿中適當ノ位置ニ繰入レ爾次ニ進級セシムヘシ

○陸軍第三十二號

陸軍禮式別冊ノ通改正セラル

明治三十四年五月四日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

(別冊)

陸軍禮式目次

- 第一編 總則
- 第二編 敬禮
  - 第三章 軍人ノ敬禮
    - 第一節 室内ノ敬禮
      - 其一 通則
      - 其二 將校ノ敬禮
    - 其二 將校ノ敬禮

- 其三 下士兵卒ノ敬禮
  - 第二節 室外ノ敬禮
    - 其一 通則
    - 其二 將校ノ敬禮
    - 其三 下士兵卒ノ敬禮
  - 第二章 部隊ノ敬禮
    - 第一節 通則
    - 第二節 停止間ノ敬禮
    - 第三節 行進間ノ敬禮
    - 第四節 途步行進間ノ敬禮
    - 第五節 演習間ノ敬禮
    - 第六節 端船ノ敬禮
  - 第三章 衛兵ノ敬禮
  - 第四章 歩哨ノ敬禮
  - 第三編 儀式
    - 第一章 儀仗
      - 第一節 通則
      - 第二節 儀仗隊
      - 第三節 儀仗衛兵



第二章 迎送式  
 第三章 伺候式  
 第四章 觀兵式  
 第五章 禮砲式  
 陸軍禮式

第一編 總則

第一條 本禮式中將官或ハ將校ト稱スルハ明文アルモノノ外同相當官ヲ含ム又上官ト稱スルハ階級ノ上ナル者ヲ謂フ  
 軍人ト稱スルハ將校並相當官准士官下士兵卒及雜卒諸職工ヲ謂フ  
 部隊ト稱スルハ武裝セルト否トニ關セス又人員ノ多寡ニ拘ラス隊伍ヲ組ミタルモノヲ謂ヒ隊長ト稱スルハ其ノ部隊ノ大小ヲ問ハス之ヲ引率スル者ヲ謂フ  
 衛兵ト稱スルハ明文アルモノノ外衛戍諸衛兵並風紀衛兵ヲ謂フ  
 歩哨ト稱スルハ野外ニ於ケル歩哨ノ外徒歩ニ在ル他ノ諸歩哨ヲ謂フ  
 第二條 軍人ハ何レノ時何レノ場合ヲ論セス上官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同級ハ互ニ敬禮ヲ交換スルモノトス但シ答禮ハ場合ニ依リ之ヲ略スルモ妨ナシ例ヘハ舉手注目又ハ刀禮ヲ單ニ注目ニ換フルカ如シ  
 第三條 敬禮ハ人ニ對シテ行フニアラス其ノ官職ニ對シテ行フモノトス故ニ受禮者ハ毫モ之ヲ宥怨スヘキモノニアラス其ノ服裝或ハ距離遠隔等ノ爲又ハ夜間ニ在リテ上下ノ識別ニ困難ノ場合若ハ同級者ニ在リテハ先後ヲ論ヒ互ニ相競フテ敬禮ヲ行ヒ人ニ後ルルヲ以テ耻辱トスヘシ

第四條 敬禮ハ制規ノ服裝ヲ爲セシ人ニ對シテ行フモノトス然レトモ軍人單獨ノ敬禮ハ面識アル人ニ對シテハ其ノ著服ノ如何ニ關セス之ヲ行フヘシ  
 軍人「君カ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ直ニ姿勢ヲ正スヘシ  
 第五條 敬禮ハ階級ノ異ナル人二人以上ニ對シテハ明文アルモノノ外其ノ最高級ノ人ニ對シテ之ニ相當スル敬禮ヲ行フモノトス  
 前項ノ場合ニ於テハ其ノ最高級ノ人ノミ答禮スルヲ例トス  
 第六條 二人以上ノ軍人互ニ行遇ヒ若ハ同一場所ニ會合スルトキハ下級者ハ要スレハ上級者ニ其ノ位置ヲ讓ルヘシ  
 第七條 部隊、衛兵ノ敬禮ハ晝間ニアラサレハ行フコトナシ  
 第八條 軍旗ハ明文アルモノノ外何レノ場合ト雖敬禮ノ爲之ヲ垂ルルコトナシ  
 第九條 皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王ニ對シテハ特ニ規定アルカ又ハ明文アルモノノ外公式ノ場合ニ限り、天皇ニ準スル敬禮ヲ行フ  
 外國ノ君主、皇族ニ對シテハ特ニ規定アルモノノ外天皇若ハ皇族ニ準スル敬禮ヲ行フ但シ公式ノ場合ニ限ル  
 第十條 皇族、武官ノ職ヲ奉シ其ノ職務執行中ハ其ノ武官相當ノ禮式ニ從フ  
 第十一條 海軍軍人、軍隊及和親諸國ノ陸海軍軍人、軍隊ニハ我カ陸軍軍人、軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ  
 第十二條 將校、上級ノ職ヲ奉シ若ハ之ヲ代理スルトキト雖其ノ本官相當ノ禮式ニ從フ  
 第十三條 准士官及見習士官 見習士官見習藥劑官見習ハ士官ノ禮式ニ從フ

第十四條 士官候補生見習士官ハ其ノ階級ニ應シテ下士兵卒ノ禮式ニ、陸軍諸生徒ハ兵卒ノ禮式ニ從フ

第十五條 上等兵ハ下士ト同一ノ敬禮ヲ受ク

第二編 敬禮

第一章 軍人ノ敬禮

第一節 室内ノ敬禮

其一 通則

第十六條 室内トハ居室、事務室、應接所等ヲ謂ヒ廊下及庭園等ノ如キハ室外ニ屬ス但シ宮中ニ在リテハ特ニ其ノ規定ニ從フ

實所參拜其ノ他軍人拜神ノ禮ハ室内ノ敬禮トス

第十七條 軍人室内ニ入ルトキハ戶外ニ於テ帽ヲ脱スヘシ但シ下士兵卒武器ヲ手ニ持ツトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 軍人室内ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ面シテ姿勢ヲ正シ其ノ眼ニ注目シテ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾グルモノトス若シ帽ヲ手ニ持ツトキハ右手ニテ其ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム刀ヲ佩ルトキハ柄ヲ後ニシ兩膝ノ間ヲ握ル

第十九條 軍人、上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ距ルコト約五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ若シ上官二人以上在ルトキハ先ツ其ノ最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スルモノトス其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ

第二十條 軍人、上官ヨリ官記、位記、勳記、辭令書等ノ類ヲ受クルトキハ前條ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第二十一條 軍人、上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルトキモ亦前條ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈シ若シ執統スルトキハ左手ヲ以テスヘシ而シテ其ノ受クル所ノ物其ノ場ニ於テ披見スルヲ要スレハ銃ハ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副テ披見スヘシ又返簡若ハ領證ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツモノトス

第二十二條 軍人、上官ヨリ命令、諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ第十九條ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ之ヲ承リ或ハ陳述シ其ノ場ヲ退去スルニ臨ミ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フモノトス

第二十三條 上官、居室ニ來ルトキハ椅子ヲ離レテ立チ敬禮ヲ行フモノトス而シテ其ノ關係アル本人ノ外傍ニ在リテ事務ニ服スル者ハ一旦敬禮ヲ行フノ後著席シ各其ノ事ニ服シ上官居室ヲ去ルトキ復タ敬禮ヲ行フヘシ

第二十四條 同級又ハ下級ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同級ナレハ一旦椅子ヲ離レテ敬禮シ下級ナレハ其ノ儘答禮スルモノトス

第二十五條 軍人、室内ニ於テ公事ヲ談スルトキ下級ノ者ハ椅子ヲ離レテ立チ姿勢ヲ正スヘシ但シ上官許可スレハ著席スルモ妨ナシ

其二 將校ノ敬禮

第二十六條 天皇天皇太后、皇太后、皇后ニ拜謁スルトキハ御室ニ入り一タヒ敬禮シ更ニ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ進ミ二タヒ敬禮ヲ行ヒ其ノ儘二三歩退歩シ右轉回ヲ爲シ御室ノ出口ニ於テ三

マヒ敬禮シ然ル後退去スヘシ但シ特ニ式アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 將校、下士兵卒ノ居室ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ナシ然ルトキハ答禮ハ舉手注目ヲ爲シ又脱帽スルトキハ只之ニ注目シ答禮ノ意ヲ表スヘシ

第二十八條 宴會、集會等總テ公會ニ於テ上官ト同席スルトキハ先ニ椅子ニ倚ルコトナク先ニ食卓ニ就クコトナク先ニ食卓ヲ離ルコトナク先ニ喫煙スルコトナキヲ禮トス

又上官ヨリ宴會等ニ招カレ其ノ參著及退散ノ時ハ必ス帶劔シテ挨拶スルヲ禮トス

其二 下士兵卒ノ敬禮

第二十九條 下士兵卒ノ居室ニ將校來ルトキハ最初之ヲ認知シタル者「直レ」ト呼ヒ其ノ室ニ現在スル者皆其ノ場ニ立チ姿勢ヲ正スヘシ但シ事務室及講堂ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 下士兵卒、執銃シアルトキノ敬禮ハ立銃シテ姿勢ヲ正スモノトス

第二節 室外ノ敬禮

其一 通則

第三十一條 軍人室外ノ敬禮ハ舉手注目トス其ノ法姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ伸シ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊クシ受禮者ノ眼又ハ敬スヘキモノニ注目ス

第三十二條 軍人、上官ノ窓扉等ヨリ外望シアル前ヲ通過スルトキハ敬禮ヲ行フヘシ之ニ反シ窓扉等ヨリ上官ノ其ノ前ヲ通過スルヲ認メタルトキ亦同シ

第三十三條 軍人、停止シアルニ方リ上官其ノ傍ヲ通過スルトキハ先ツ上官ノ方ニ面シ敬禮ヲ行フヘシ

第三十四條 軍人、停止シアル上官ノ許ニ至ルトキハ之ヲ距ル約五六歩ノ所ニ於テ停止シ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

第三十五條 軍人、途上ニ於テ行幸ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面乘馬ハ其ハ下シ車駕六歩前ニ近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ六歩過去ル迄此ノ姿勢ヲ保ツヘシ但シ公式ノ行裝ニアラサルトキハ場合ニ依リ乘車ノ軍人ハ道路ノ一側ニ停止シ其ノ儘敬禮ヲ行フモ妨ナシ

第三十六條 軍人、軍旗ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ之ニ敬禮ヲ行フヘシ但シ軍旗ニ上覆ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 軍人、上官ノ引率スル部隊ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ隊長ニ敬禮ヲ行ヒ且其ノ隊ニ注目スヘシ然レトモ儀仗隊ノ儀仗服務中ノモノ竝會葬ノ儀仗隊ニ對シテハ其ノ隊長ニモ亦敬禮ヲ行ハス

軍人部隊ノ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ隊長ニ答禮スルモノトス

第三十八條 軍人、途上ニ於テ儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬式ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ官職ノ如何ヲ問ハス其ノ概ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第三十九條 軍人、上官ノ後方ヨリ來リ之ヲ通過セント欲スルトキハ先行スルノ許可ヲ請ヒ然ル後之ヲ通過スヘシ

第四十條 軍人、乘馬シ馳歩若ハ速歩ヲ以テ行進中上官ニ遇フトキハ常歩ニ移シ敬禮ヲ行フヘシ但シ傳令使等ニシテ至急ノ公務ヲ執行スルトキハ其ノ事由ヲ告ケ常歩ニ移ササルモ妨ナシ

第四十一條 軍人、乘車ニテ上官ニ遇フトキハ乘車ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ但シ自轉車ニ乗ルトキハ舉手注目ヲ單ニ注目ニ換フルコトヲ得

第四十二條 軍人、上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルトキハ第三十四條ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ呈シ若シ刀、銃又ハ槍ヲ持ツトキハ左手ヲ以テスヘシ而シテ其ノ受クル所ノ物其ノ場ニ於テ披見スルヲ要スレバ刀ハ持チタル儘銃又ハ槍ハ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副テ披見スヘシ又返簡若ハ領證ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツモノトス

第四十三條 軍人、上官ヨリ命令、諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ第三十四條ニ據リ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ之ヲ承リ或ハ陳述シ其ノ場ヲ退去スルニ臨ミ舊位ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フモノトス

第四十四條 乘馬ノ軍人野外ニ於ケル場合ニ於テ上官乘馬シアラサルトキハ敬禮ヲ行フノ後下馬スルヲ禮トス然レトモ上官許可スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 軍人、上官ト同行スルトキハ其ノ左側或ハ兩側若ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス  
軍人二人以上共ニ舷梯ヲ降り端船等ニ乗組ムトキハ下級者ヨリ先ニスルヲ禮トス

其二 將校ノ敬禮

第四十六條 將校、軍旗若ハ上官ニ行進ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ停止スルコトナク頭ヲ少シク軍旗又ハ受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フヘシ

第四十七條 將校、拔刀シアルトキ天皇及軍旗ニ對シ又ハ隊伍ニ在ルトキニ限り左ノ方法ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ在リテハ肩刀ニテ姿勢ヲ正シ受禮者ニ注目スヘシ

第一節 刀ヲ垂直ニ上ケ其ノ刃面ヲ顔ノ中央ニ對セシメ鏢ヲ肩ノ高サニ齊クシ肘ハ自然ニ體

ニ近接ス

第二節 右臂ヲ全ク伸シテ刀ヲ斜ニ下ケ爪ヲ上ニシテ拳ヲ右股ヨリ少シク離シ受禮者又ハ敬スヘキモノニ注目ス

第三節 再ヒ刀ヲ舉ケテ之ヲ肩ニス其ノ法刀ノ柄ヲ右手ノ拇指ト食指、中指トノ間ニ保持シ他ノ二指ヲ柄ノ外ニ附シ其ノ手ヲ右臙骨ノ稍下方ニ接著シ刀身ヲ垂直ニ立テ刀背ヲ肩ノ凹部ニ托シ微シク臂ヲ屈シ肘ヲ後方ニ出ス

其三 下士兵卒ノ敬禮

第四十八條 下士兵卒、軍旗若ハ所屬團隊長所屬團隊長 團中隊附士官ヲ含ムニ行進ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ約六歩前ヨリ姿勢ヲ正シ約三步ノ所ニ於テ停止シ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ又此ノ場合ニ於テ他ノ上官ニ對シテハ停止スルコトナク頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フヲ異ナリトス

第四十九條 下士兵卒、執銃、執刀又ハ執槍シアルトキノ敬禮ハ天皇ニハ捧銃、捧刀又ハ捧槍ニ第三十五條ニ據リ之ヲ行ヒ軍旗若ハ上官ニ行進ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ執銃、執刀又ハ執槍ノ儘姿勢ヲ正シ歩調ヲ取り頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケ之ニ注目スヘシ但シ第三十三條及第三十四條ノ場合ニ於ケル敬禮ハ立銃、肩刀、立槍ヲ爲シ受禮者ニ注目スルモノトス

第五十條 下士兵卒、喇叭ヲ携フルトキノ敬禮ハ前條ニ同シ但シ其ノ携持法ハ紐ヲ頸ニ掛ケ右手ノ四指ヲ接シ拇指ヲ上ニシ喇叭ノ後身ト前身トヲ握リ接著管ヲ右手ノ脈部ニ接シ漏斗狀ノ邊端ヲ右臙骨下部ニ當テ口管ヲ右足尖ノ方向ニ一致セシメ之ヲ水平ニ保持シ臂ハ自然ニ體ニ接著スルモノトス乘馬ノ時ニ在リテモ亦之ニ同シ只漏斗狀ノ邊端ヲ右股ニ當テ口管ヲ上ニシ之ヲ保持スルヲ異ナリトス

第五十一條 下士兵卒、物件ヲ提携シ右手ヲ舉グルコト能ハサルトキ若ハ之ヲ擔荷シアルトキハ  
 第四十八條ニ準シ其ノ儘停止シ若ハ停止スルコトナク軍旗又ハ受禮者ニ注目シテ禮意ヲ表スヘ  
 第五十二條 憲兵下士上等兵ハ職務執行ノ爲止ムヲ得サル場合ニ在リテハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ナ

第二章 部隊ノ敬禮

第一節 通則

第五十三條 部隊相遇フトキハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ其ノ法停止間ト行進間トニ論ナク其ノ隊長ノ  
 階級下ナル方ヨリ先ツ之ヲ行ヒ同級ナレハ先後ヲ論スルコトナシ若シ其ノ一方ニ軍旗アルトキ  
 ハ軍旗ナキ方ヨリ先ツ之ヲ行フヘシ但シ儀仗隊ノ儀仗服務中ノモノ並會葬ノ儀仗隊ト他ノ部隊  
 ト相遇フトキハ互ニ敬禮ヲ行フコトナシ

大隊以上ノ部隊敬禮ハ中隊毎ニ之ヲ行フモノトス

第五十四條 武裝セル部隊相互ノ敬禮ハ騎兵ニ在リテハ肩刀若ハ立槍シ步兵、砲兵、工兵、輜重兵、  
兵乘馬シアルトキハ騎兵ニ同シニ在リテハ停止間ナレハ隊列ヲ正シ行進間ナレハ行進ヲ止メス「頭左(右)」ノ令  
ニテ皆頭ヲ少シク他隊ノ方ニ向ケ之ニ注目シ其ノ隊長ハ互ニ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒ下士以下ニ在  
ナレハ肩刀、立槍又ハ執銃ノ儘互ニ注目シ若ハ舉手注目シ喇叭「皇御國」一回ヲ吹奏ス  
停止間ナレハ捧銃、捧槍又ハ立槍シ若ハ舉手注目シ喇叭「皇御國」一回ヲ吹奏ス

第五十五條 武裝セル部隊歩兵ノ刀ヲ佩ヒサスル類ノ敬禮ハ停止間ナレハ隊列ヲ正シ行進間ナレ  
 ハ行進ヲ止メ「頭左(右)」ノ令ニテ頭ヲ少シク他隊ノ方ニ向ケ之ニ注目シ其ノ隊長ノミ舉手注  
 目ノ敬禮ヲ行フヘシ

第五十六條 武裝セル部隊、武裝セサル部隊ニ對スル敬禮ハ前條ニ同シ但シ隊長ノ敬禮ハ第五十  
 四條ニ據ル

第五十七條 部隊ノ軍旗ニ對スル敬禮ハ部隊相互ノ敬禮ヲ行フヲ以テ別ニ之ヲ行ハス唯其ノ隊長  
 ノミ軍旗ニ敬禮ス但シ軍旗迎送ノ敬禮ハ各其ノ兵科操典ノ規定ニ從フ

第五十八條 將校ノ引率セル部隊下士以下ノ引率セル部隊ニ對シテハ唯其ノ隊長ノミ答禮ヲ行フ  
 ヘシ

第五十九條 部隊ノ軍人ニ對スル敬禮ハ其ノ軍人隊長ヨリ上級ノ者ニアラサレハ之ヲ行ハス下級  
 ノ軍人ヨリ敬禮ヲ受クルトキハ其ノ隊長ノミ答禮ヲ行フヘシ但シ儀仗隊ノ儀仗服務中ノモノ並  
 會葬ノ儀仗隊ハ明文アルモノノ外何人ニ對スルモ敬禮ヲ行フコトナシ

第六十條 部隊儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬式ニ遇フトキハ停止間ト行進間トニ論ナク柩ニ對シ  
 死者ノ階級ニ應シ敬禮ヲ行フヘシ若シ死者ノ階級隊長ヨリ下級ナレハ其ノ隊長ノミ之ニ敬禮ス  
 第六十一條 部隊拜神ノ禮ハ其ノ神前ニ於テ橫隊又ハ縱隊ニ整列シ步兵、要塞砲兵、工兵ニ在リテ  
 ハ銃ニ劔ヲ裝シ捧銃ヲ行ヒ騎兵、輜重兵ニ在リテハ立槍シ野戰砲兵ニ在リテハ不動ノ  
 姿勢ヲ執リ總テ將校及曹長ハ捧刀第四十七條第一シ隊長ハ刀ヲ以テ敬禮シ軍旗亦敬禮ヲ行ヒ喇  
 叭「國ノ鎮メ」三回ヲ吹奏ス

第六十二條 軍人、隊列ヲ離レアルトキノ敬禮ハ單獨ノ禮式ニ從フ

第二節 停止間ノ敬禮

第六十三條 天皇ニ對シテハ隊列ヲ正シ步兵、要塞砲兵、工兵ニ在リテハ銃ニ劔ヲ裝シ捧銃ヲ行ヒ  
 騎兵ニ在リテハ立槍シ野戰砲兵ニ在リテハ砲手ハ其ノ定位ニ立テテ不動ノ姿勢ヲ執リ

輜重兵ニ在リテハ乘馬シアルトキハ捧刀シ駄馬又ハ車輛ヲ輓クトキハ其ノ傍定位ニ立チ不動ノ  
姿勢ヲ執リ曹長ハ捧刀シ將校ハ皆刀ヲ以テ敬禮シ軍旗亦敬禮ヲ行ヒ喇叭「君カ代」ヲ吹奏ス  
ヨリ約三十歩ノ所ニ來ルトキ吹奏ヲ但シ公式ノ行装ニアラサルトキハ場合ニ依リ歩兵、要塞砲  
始メ約十五歩過去ルニ至リテ止ム  
兵、工兵ハ銃ニ劔ヲ裝セス下馬ノ騎兵及輜重兵ハ其ノ儘定位ニ立チ不動ノ姿勢ヲ執リ敬禮スル  
モ妨ナシ

第六十四條 將官ニ對シテハ第五十四條ニ據リ敬禮ス只喇叭ハ左ノ區分ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏  
スルヲ異ナリトス但シ同相當官ニ對シテハ單ニ隊長ノミ敬禮ヲ行フヘシ

一 元帥

四回

二 陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官

三回

三 陸軍中將

二回

四 陸軍少將

一回

第六十五條 前條ノ場合ニ於テ受禮者突然隊ノ左翼ヨリ來ル時ノ如キハ中隊各個ニ敬禮ヲ行フモ  
妨ナシ又喇叭ハ受禮者ノ職ヲ知ル能ハサルトキハ官等ニ應スル回数、官等ヲモ確認シ得サルト  
キハ單ニ一回吹奏ス

第六十六條 上長官及士官ニ對シテハ第五十五條ニ據リ敬禮ヲ行ヒ其ノ隊長ノミ第五十四條ノ規  
定ニ從フ但シ相當官ニ對シテハ單ニ隊長ノミ敬禮ヲ行フ

第六十七條 所屬隊長ニハ其ノ部下ニ限リ第六十四條ニ據リ敬禮ヲ行フ只喇叭ヲ吹奏セサルヲ異  
ナリトス其ノ旅團長、警備隊司令官タル大佐ニ對スルトキ亦同シ

第六十八條 第六十三條ノ場合ニ於テハ車駕隊列ヨリ約三十歩ノ所ニ來ルトキ敬禮ノ姿勢ヲ執リ

約十五歩過去ル迄其ノ姿勢ヲ保チ第六十四條乃至第六十七條ノ場合ニ於テハ約十歩ノ所ニ來ル  
トキ敬禮ノ姿勢ヲ執リ約十五歩過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第六十九條 第六十三條乃至第六十七條ノ敬禮ハ受禮者ノ通過スル方ニ面シテ整列シ之ヲ行フモ  
ノトス但シ騎兵、野戰砲兵、輜重兵途上縱隊ニ在ルトキハ場合ニ依リ其ノ儘敬禮ヲ行フモ妨ナ  
シ

第七十條 儀式、祭典等ノ爲其ノ場所ニ整列シアル部隊ハ天皇ニ對スルノ外敬禮ヲ行フコトナシ

第三節 行進間ノ敬禮

第七十一條 天皇ニ對シテハ直ニ停止シ道路ノ一側ニ整列シ第六十三條及第六十八條ニ據リ敬禮  
ヲ行ヒ鹵簿隊列ヲ過去ル後再ヒ行進ヲ始ム但シ公式ノ行装ニアラサルトキハ場合ニ依リ道路ノ  
一側ニ停止シ其ノ隊形ノ儘歩兵、要塞砲兵、工兵ニ在リテハ銃ニ劔ヲ裝セス敬禮ヲ行フモ妨ナシ

第七十二條 將官ニ遇フトキハ第五十四條ニ據リ敬禮ヲ行フ只喇叭「海行カハ」一回ヲ吹奏スルヲ  
異ナリトス但シ同相當官ニ對シテハ單ニ隊長ノミ敬禮ヲ行フ

第七十三條 上長官及士官ニ遇フトキハ第五十五條ニ據リ敬禮ヲ行ヒ其ノ隊長ノミ第五十四條ノ  
規定ニ從フ但シ相當官ニ對シテハ單ニ隊長ノミ敬禮ヲ行フ

第七十四條 所屬隊長ニハ其ノ部下ニ限リ第七十二條ニ據リ敬禮ヲ行フ只喇叭ヲ吹奏セサルヲ異  
ナリトス其ノ旅團長、警備隊司令官タル大佐ニ對スルトキ亦同シ

第七十五條 第七十二條乃至第七十四條ノ敬禮ハ其ノ隊ノ先頭受禮者ヲ距ルコト約六歩ノ所ヨリ  
敬禮ノ姿勢ヲ執リ隊列ヲ過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第七十六條 行進スルニ部隊、途上ニ於テ行進フトキハ互ニ道路ノ右側ヲ取リテ通過スヘシ

第七十七條 部隊、衛兵ノ前ヲ通過スルトキハ第五十四條又ハ第五十五條ニ據リ中隊若ハ小隊各個ニ敬禮ヲ行フ但シ下士以下ノ司令タル衛兵ニ對シテハ敬禮ヲ行ハス其ノ隊長ノミ答禮ス

第四節 途步行進間ノ敬禮

第七十九條 天皇ニ對シテハ第七十一條ニ據リ敬禮ヲ行フ其ノ休憩セルトキ亦之ニ準ス

第八十條 途步行進間ニ在リテハ前條ノ場合ヲ除クノ外何人ニ對スルモ敬禮ヲ行ハス唯其ノ隊長ノミ互ニ敬禮ヲ行フ若シ時宜ニ依リ市街ニ於テ途步行進ヲ爲ストキハ先ツ速步行進ニ復シ第七十二條乃至第七十七條ニ據リ敬禮ヲ行フヘシ

第八十一條 途步行進間ニ於テ隊列ヲ解キ休憩シアルトキハ各自ニ軍人單獨ノ敬禮ヲ行ヒ又場合ニ依リ之ヲ行ハサルモ妨ナシ

第八十二條 途步行進間ハ第八十條ニ示スカ如ク部隊ノ敬禮ヲ行ハスト雖軍旗、部隊其ノ他尊敬スヘキ人ニ行遇ヒ又ハ衛兵ノ前ヲ通過スルトキハ隊中皆高聲ニ談話セス唱歌ヲ止メ煙管又ハ卷煙草ヲ口ヨリ去リ整肅ニ歩行スルヲ禮トス

第五節 演習間ノ敬禮

第八十三條 天皇、練兵場ニ親臨アルトキハ最初ニ之ヲ認知シタル隊長先ツ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ各隊皆演習ヲ止メ其ノ位地ニ於テ第六十三條ニ準シ敬禮ヲ行ヒ各隊長ハ駈歩ニテ車駕ノ許ニ至リ演習ノ次第ヲ奏上ス而シテ勅命アルカ又ハ車駕其ノ場ヲ去ルニアラサレハ演習ヲ始ムヘカラス

車駕其ノ場ヲ去ルニ方リテハ再ヒ前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第八十四條 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官練兵場ニ來ルトキハ最初ニ之ヲ認知シタル隊長先ツ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ各隊皆

一旦演習ヲ止メ其ノ位地ニ於テ第六十四條ニ準シ敬禮ヲ行ヒ各隊長ハ駈歩ニテ其ノ許ニ至リ演習ノ次第ヲ陳述シ然ル後別ニ命令アルニアラサレハ再ヒ演習ヲ始ムヘシ

第八十五條 團隊長警備隊司令官ヲ含ム、練兵場ニ來ルトキハ其ノ部下ニ限リ一旦演習ヲ止メテ姿勢ヲ正シ各隊長ハ直ニ駈歩ニテ團隊長ノ許ニ至リ敬禮ヲ行ヒ演習ノ次第ヲ陳述シ然ル後別ニ命令アルニアラサレハ再ヒ演習ヲ始ムヘシ但シ各兵監ノ當該軍隊及要塞司令官ノ當該要塞砲兵隊ニ對スルモ亦本文ニ準ス

第八十六條 第八十三條及第八十四條ノ場合ニ在リテハ銃ヲ交叉シ或ハ下馬シテ休憩セルトキト雖「氣ヲ付ケ」ノ號音ニテ皆銃ヲ取り或ハ乘馬シ整列シテ敬禮ヲ行ヒ第八十五條ノ場合ニ在リテハ其ノ儘各自ニ姿勢ヲ正シ其ノ隊長ノミ敬禮ヲ行フヘシ

第八十七條 射擊場及作業場等ニ於テモ亦演習上妨ナキトキニ在リテハ練兵場ニ準スルモノトス

第八十八條 野外演習若ハ之ニ準スル特別ノ演習實施中ハ部隊ノ敬禮ヲ行ハス

第六節 端船ノ敬禮

第八十九條 天皇ニ對シテハ直ニ航進ヲ停メ端船長起立シテ敬禮ヲ行ヒ御船過去ルノ後再ヒ航進ヲ始ム但シ樞手ハ樞ヲ收ムルコトナシ

第九十條 將官ニ對シテハ徐航シ端船長起立シテ敬禮ヲ行ヒ受禮者ノ乗船過去ルノ後常航ニ復ス

第九十一條 所屬隊長ニ對シテハ其ノ部下ニ限リ前條ノ敬禮ヲ行フヘシ其ノ旅團長、警備隊司令官タル大佐ニ對スルトキ亦同シ

第九十二條 帆走ノ端船ニ在リテハ帆ヲ下シタル後第八十九條乃至第九十一條ノ敬禮ヲ行フヘシ

第九十三條 左ノ場合ニ在リテハ常航シ端船長起立シテ敬禮ヲ行フヘシ  
一 士官ノ乘リタル端船上長官ニ對スル時  
二 下士以下ノ乘リタル端船上長官若ハ士官ニ對スル時

第九十四條 左ノ場合ニ在リテハ常航シ端船長居坐ノ儘敬禮ヲ行フヘシ  
一 將官ノ乘リタル端船將官ニ對スル時  
二 上長官ノ乘リタル端船上長官ニ對スル時  
三 士官ノ乘リタル端船士官ニ對スル時

第九十五條 端船附屬員外ノ乘員ハ第八十九條ノ場合ニ在リテハ起立シテ單獨ノ敬禮ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ在リテハ端船ノ禮式ニ關セス居坐ノ儘姿勢ヲ正スモノトス

第九十六條 端船後方ヨリ來リ上官ノ乘リタル端船ヲ乘リ越ヘ或ハ其ノ前方ヲ横過スルヲ許サス然レトモ至急ヲ要スル場合ニ在リテハ相當ノ敬禮ヲ行ヒ其ノ事由ヲ告ケテ乘リ越シ或ハ横過スルモ妨ナシ

第九十七條 端船ノ番兵ハ上官ニ對シテハ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ

第九十八條 將校ノ乘リタル端船禮砲ヲ受クル場合ニ在リテハ禮砲ノ初發ニテ航進ヲ停メ終發ニテ航進ヲ始ムルモノトス

第三章 衛兵ノ敬禮  
第九十九條 衛戍ノ諸衛兵ハ左ニ列記スルモノニ對シテハ門外又ハ衛舎前ニ横隊ニ整列シ銃或ハ槍ヲ執リ野戰砲兵ハ不動 敬禮ヲ行フヘシ其ノ敬禮ヲ行フヘキ距離及隊列ノ正面ハ場所ノ模倣ニテ航進ヲ始ムルモノトス

依リ適宜ニ之ヲ定ムルモノトス但シ第三、第四ニ掲グルモノニ對シテハ其ノ門ヲ出入スルトキニ限ル

一 天皇皇族  
二 軍旗  
三 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官  
四 部隊

第一百條 風紀衛兵ハ天皇ニ對シテハ門外又ハ衛舎前ニ整列シ左ニ列記スルモノニ對シテハ其ノ屯營門ヲ出入スルトキ衛舎前ニ整列シ銃或ハ槍ヲ執リ野戰砲兵ハ不動 敬禮ヲ行フヘシ

一 皇族 天皇太后、皇太后、皇后ヲ除ク以下同シ  
二 前條第二、第三及第四ニ掲グルモノ  
三 所屬師、旅團長及整備隊司令官  
四 所屬聯隊長及獨立隊長

第一百一條 衛兵ハ前二條ノ場合ニ於テ第九十九條第三ニ掲グルモノニ對シ其ノ官職ヲ認知スルヲ得サルトキハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ナシ又下士以下ノ引率セル部隊及武裝セサル部隊ニ對シテハ敬禮ノ爲ニ整列スルコトナシ

第一百二條 衛兵、天皇ニ對シテハ第六十二條ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第一百三條 衛兵、軍旗ニ對シテハ之ヲ部隊ニ植立セルトキハ先ツ部隊ニ對スル敬禮ヲ行ヒ軍旗其ノ前ヲ通過スルニ臨ミ更ニ軍旗ニ對シ第六十二條ニ準シ敬禮ヲ行ヒ喇叭「足曳キ」ヲ吹奏ス但シ軍旗迎送隊ニハ部隊ニ對スル敬禮ヲ行ハス直ニ軍旗ニ對スル敬禮ヲ行フモノトス



第四百四條 衛兵ハ元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官ニ對シ第六十四條及第六十五條ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第四百五條 衛兵、部隊ニ對シテハ第五十四條ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

第四百六條 風紀衛兵、第三百條第三、第四ニ掲グルモノニ對シテハ第六十四條、第六十五條及第六十七條ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ但シ騎兵ノ銃ヲ持ツモノハ步兵ニ同シ

第四百七條 屯營以外ニ宿營セル軍隊ノ風紀衛兵ハ本章ノ規定ヲ準用ス但シ別ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四章 歩哨ノ敬禮

第四百八條 歩哨ハ左ニ列記スルモノニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

一 天皇、皇族

二 軍旗

三 將校

四 大勳位及勳一等功一級ヨリ勳六等功五級ニ至ル各種勳章實冠章ヲ除ク佩用者

五 下士

六 勳七等、勳八等及功六級、功七級ノ各種勳章實冠章ヲ除ク佩用者

第四百九條 歩哨、敬禮ヲ行フニハ其ノ定位地ニ立チ若シ哨舎内ニ在ルトキハ必ス之ヲ出ルモノトス受禮者約六步前ニ來ルトキ敬禮ノ姿勢ヲ執リ頭ヲ其ノ方ニ向ケ之ニ注目シツ、六步過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ

第四百十條 核哨ニ在リテハ相互ニ注視シ同時ニ敬禮ヲ行フヘシ

第四百十一條 歩哨ハ夜間ニ在リテモ受禮者タルヲ識別スレハ敬禮ヲ行フヘシ

第四百十二條 歩哨ノ敬禮ハ第八條ノ第一乃至第四ニ掲グルモノニ對シテハ捧銃又ハ捧槍シ第五、第六ニ掲グルモノニ對シテハ執銃又ハ執槍ノ儘姿勢ヲ正スモノトス

第四百十三條 歩哨、部隊ニ對シテハ姿勢ヲ正シ其ノ隊長ニ對シ前條ノ區分ニ從ヒ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第四百十四條 歩哨、儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ柩ニ對シテハ其ノ死者ノ階級ニ相當スル敬禮ヲ行フヘシ

第四百十五條 歩哨、帶勳者ニシテ其ノ勳章ニ對スル敬禮ト官職ニ對スル敬禮ト相等シカラサルモノニ對シテハ其ノ重キニ從テ敬禮ヲ行フヘシ

第四百十六條 歩哨、帶勳者ノ略綬ヲ佩用スルモノニ對シテハ執銃又ハ執槍ノ儘姿勢ヲ正スヘシ

第四百十七條 歩哨、兵卒ヨリ敬禮ヲ受クルトキハ執銃又ハ執槍ノ儘姿勢ヲ正スヘシ

第四百十八條 歩哨、野戰砲兵ナルトキハ何レノ場合ニ在リテモ舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三編 儀式

第一章 儀仗

第一節 通則

第四百十九條 儀仗、爲天皇及高貴ノ人ニ供スル部隊ヲ儀仗兵ト稱ス

第四百二十條 儀仗兵ヲ分テ二トス即チ左ノ如シ

一 儀仗隊

二 儀仗衛兵

第四百二十一條 儀仗隊トハ天皇及其ノ儀仗ヲ受クル人軍隊屯在地著發ノ時ニ方リ行在所又ハ旅館

ト波止場、停車場等ノ間途上ノ警衛ニ任スルモノヲ謂ヒ儀仗衛兵トハ行在所又ハ旅館ノ守衛ニ任スルモノヲ謂フ

第二百二十二條 儀仗隊ヲ出スノ場所ハ儀仗ヲ受クルハ海路鐵道ヲ採ルトキハ波止場又ハ停車場トシ其ノ他ノ道路ヲ採ルトキハ市外約十町ノ所トス但シ市外ニ至ルノ距離甚タ遠クシテ儀仗隊歩兵ナルトキハ市内適宜ノ場所ニ出スモ妨ナシ然レトモ迎送式ノ爲整列スル部隊ヨリ遠キ場所ニ出スヲ要ス此ノ場所ハ要スレハ衛戍司令官之ヲ定ム

第二百二十三條 儀仗兵ハ首トシテ騎兵若ハ歩兵ヲ用ウ故ニ他ノ兵種ヲ用ウルトキハ其ノ編成ハ此ノ二兵種ニ準シテ衛戍司令官適宜之ヲ定ム

第二百二十四條 儀仗兵ハ左ニ列記スルモノニ對シ之ヲ供スルモノトス

一 天皇、皇族

二 將官

第二百二十五條 儀仗兵ヲ供スルハ左ニ列記スル場合ノ外特ニ規定アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル

一 天皇皇族、軍隊屯在地ニ行幸、行啓若ハ通御アリテ其ノ地著御及發御ノ時

二 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官、公務ニ依テ軍隊屯在地ニ赴キ其ノ地著發ノ時

三 軍隊ノ長タル將官旅團長、師團長、司令官、初メテ部下軍隊ノ屯在地ニ著シ又ハ轉職等ニテ其ノ地ヲ發スル時

第二百二十六條 儀仗兵ヲ供スルハ前條ニ掲グル如シト雖其ノ儀仗衛兵ハ旅行中ノ滞在ニアラサレ

ハ之ヲ供スルコトナシ

第二百二十七條 儀仗兵ハ晝夜ノ別ナク何レノ時ト雖之ヲ供スルモノトス

第二百二十八條 儀仗兵ハ正裝ヲ爲スヘシ

第二百二十九條 儀仗兵ノ敬禮ハ其ノ儀仗隊ニ在リテハ部隊ノ禮式ニ據リ儀仗衛兵及步哨ニ在リテハ衛兵及步哨ノ禮式ニ據ルヘシ

第二百三十條 儀仗兵ハ儀仗ヲ受クル人ト同級以上ノ人並軍旗ニ對スルノ外何人ニ對スルモ敬禮ヲ行フコトナシ但シ步哨ハ此ノ限ニ在ラス

第二百三十一條 儀仗兵ノ編成ハ第二百三十二條及第二百三十三條ニ掲グル如シト雖場合ニ依リ其ノ人員此ノ編成ニ充タサル時ハ衛戍司令官適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第二節 儀仗隊

第二百三十二條 儀仗隊ノ編成ハ受禮者ニ依リ區別アルコト左ノ如シ

一 天皇ニハ騎兵一中隊若ハ歩兵一大隊ニシテ軍旗ヲ植テ聯隊長之ヲ指揮ス

二 皇族ニハ騎兵二小隊若ハ歩兵二中隊ニシテ軍旗ヲ植テ歩兵ハ大隊長騎兵ハ中隊長之ヲ指揮ス

三 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官ニハ騎兵一小隊若ハ歩兵一小隊ニシテ中隊長之ヲ指揮ス

四 陸軍中將ニハ騎兵半小隊若ハ歩兵一小隊ニシテ中尉之ヲ指揮ス

五 陸軍少將ニハ騎兵半小隊若ハ歩兵一小隊ニシテ少尉之ヲ指揮ス旅團長、師團長、司令官、タル大佐モ之ニ同シ

第三節 儀仗衛兵

第三百二十三條

儀仗衛兵ノ編成及歩哨ノ種類ハ受禮者ニ依リ區別アルコト左ノ如シ

- 一 天皇ニハ歩兵一中隊ヲ軍旗ト共ニ出シ大隊長之ヲ指揮シ正門ノ歩哨ハ複哨トス
- 二 皇族ニハ歩兵二小隊ヲ軍旗ト共ニ出シ中隊長之ヲ指揮シ正門ノ歩哨ハ複哨トス
- 三 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官ニハ歩兵一小隊ヲ出シ中尉之ヲ指揮シ本門ノ歩哨ハ單哨トス
- 四 陸軍中將ニハ歩兵半小隊ヲ出シ中尉之ヲ指揮シ本門ノ歩哨ハ單哨トス
- 五 陸軍少將ニハ歩兵半小隊ヲ出シ少尉之ヲ指揮シ本門ノ歩哨ハ單哨トス

第二章 迎送式

第三百二十五條 天皇及高貴ノ人軍隊屯在地著獲ノ時迎送ノ爲軍隊整列スル之ヲ迎送式ト稱ス

第三百二十六條 迎送式ハ左ニ列記スルモノニ對シテ行フモノトス

- 一 天皇、皇族
- 二 將官

第三百二十七條 迎送式ヲ行フハ第三百二十五條ニ掲グル場合ノ外特ニ規定アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル

第三百二十八條 迎送式ハ晝間ニアラサレハ行フコトナシ

第三百二十九條 迎送式ニハ將校ハ通常禮裝下士以下ハ略裝ヲ爲スヘシ

第三百四十條 迎送式ノ爲整列スヘキ部隊ノ兵數ハ受禮者ニ依リ區別アルコト左ノ如シ

- 一 天皇ニハ該地衛戍兵悉皆

二 皇族ニハ該地衛戍兵約二分ノ一

三 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官ニハ該地衛戍歩兵約三分ノ一

四 軍隊ノ長タル將官旅團長、師團長、司令官、大佐、中佐、少佐ニハ該地屯在ノ部下諸兵隊悉皆

第三百四十一條 迎送式ノ爲部隊ノ整列スル場所ハ波止場、停車場又ハ市ノ入口ト行在所又ハ旅館トノ間ニシテ道路ノ一側又ハ兩側ニ整列ス但シ隊列ノ位次ハ受禮者ノ來ルヘキ方ヲ上トス此ノ場所ハ要スレハ衛戍司令官之ヲ定ム第三百四十四條ノ場所亦之ニ同シ

天皇汽車等ニテ通御ノ時モ前項ニ準ス

第三百四十二條 迎送式ノ爲整列スル部隊ハ受禮者其ノ場ニ來著スルトキ第六十三條、第六十四條及第六十七條ニ據リ敬禮ヲ行フヘシ

第三百四十三條 天皇皇族著御ノ時ハ師團長及衛戍司令官ハ波止場、停車場又ハ市ノ入口ニ奉迎シ而シテ行在所又ハ旅館迄隨從ス其ノ發御ノ時ハ之ニ反ス但シ此ノ場合ニ於テ師團長及衛戍司令官ハ要スレハ參謀官若ハ副官ヲ隨フルコトヲ得

第三百四十四條 天皇、著御及發御ノ時ニ限リ該地所在ノ諸將校悉皆奉迎、奉送ヲ爲スヘシ

第三百四十五條 天皇及高貴ノ人軍隊屯在地著獲ノ時行在所又ハ旅館ニ將校參伺スル之ヲ伺候式ト稱ス

第三百四十六條 第三百二十六條乃至第三百二十九條ハ伺候式ニモ亦適用ス

第三百四十七條 伺候式ハ受禮者ニ依リ區別アルコト左ノ如シ但シ各自ノ伺候ヲ各階級ノ總代伺候

ニ換フルコトヲ得

- 一 天皇皇族ニハ該地所在ノ士官以上行在所又ハ旅館ニ伺候ス
- 二 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官ニハ該地所在ノ上長官以上其ノ旅館ニ伺候ス
- 三 軍隊ノ長タル將官旅團長、警備隊司令官、旅團長、警備隊司令官、大佐ヲ含ムニハ該地所在ノ所屬士官以上伺候ス
- 第四百四十八條 伺候式ハ到着後二十四時間以内出發前二十四時間以内ニ於テスルヲ例トス
- 第四百四十九條 伺候式ハ拜謁又ハ對謁スルヲ例トス然レトモ時宜ニ依リ拜謁ヲ賜ハラス又ハ受禮者對謁ヲ辭スルトキハ只官氏名ヲ帳簿ニ記スルカ若ハ名刺ヲ呈シ其ノ禮意ヲ通スヘシ
- 第四百五十條 伺候式ニ在リテハ殊更ニ對話陳述ヲ要スルニアラサレハ敬禮ヲ行フノ後直ニ退去スルモノトス
- 第四百五十一條 伺候式ハ一定ノ時限ヲ期シ止ムヲ得サル支障アル者ノ外所在ノ將校皆同時ニ行フヲ要ス故ニ該地衛戍司令官其ノ時限ヲ定メ一般ニ通達スヘシ

第四章 觀兵式

- 第四百五十二條 天長節、陸軍始其ノ他臨時ノ儀式等ニ依リ團隊ヲ集合シ整飾シテ觀閱ニ供スル之ヲ觀兵式ト稱ス
- 第四百五十三條 觀兵式ヲ分テ二トス即チ左ノ如シ
  - 一 閱兵式
  - 二 分列式
- 第四百五十四條 觀兵式ハ左ニ列記スルモノニ對シ行フモノトス但シ之ヲ行フハ天長節、陸軍始其ノ

外特ニ規定アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル

- 一 天皇、皇族
  - 二 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官
  - 三 軍隊ノ長タル將官旅團長、警備隊司令官、旅團長、警備隊司令官、大佐ヲ含ム
  - 第四百五十五條 觀兵式ニ出場スル者ハ正裝ヲ爲スヘシ
  - 第四百五十六條 觀兵式ニ出場スル諸兵ノ指揮ハ特ニ指揮官ヲ定ムルニアラサレハ其ノ地所在ノ高級團隊長之ヲ司トル然レトモ此ノ官親ヲ觀閱ヲ爲ストキハ次級ノ者其ノ指揮ヲ爲スヘシ
  - 第四百五十七條 天皇ニ對シ觀兵式ヲ行フトキニ限リ該地所在ノ諸將校悉皆出場スヘシ
  - 第四百五十八條 天長節、陸軍始ニ當リテハ小衛戍地ノ軍隊及分遣隊ニ在リテモ亦本章ノ規定ニ準シ其ノ隊長分列式ヲ行フヘシ
  - 第四百五十九條 觀兵式ニ關スル細部ノ規定ハ本禮式附錄ニ從フ此ノ附錄ハ陸軍大臣之ヲ定ム
- 第五章 禮砲式
- 第四百六十條 敬禮ノ爲發砲スル之ヲ禮砲式ト稱ス
  - 第四百六十一條 禮砲式ハ紀元節、天長節其ノ他臨時ノ祝日ニ當リ行フノ外左ニ列記スルモノニ對シテ行フモノトス
    - 一 天皇、皇族
    - 二 將官
  - 第四百六十二條 禮砲式ノ發砲數ニ區別アルコト左ノ如シ
    - 一 紀元節、天長節及臨時祝日ニハ百零一發

- 一 天皇ニ對シテハ百零一發
  - 二 皇族ニ對シテハ二十一發
  - 三 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官ニ對シテハ十九發
  - 四 師團長ニ對シテハ十三發
  - 五 第百六十三條 禮砲式ヲ行フハ左ニ列記スル場合ノ外特ニ規定アルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限ル
    - 一 紀元節、天長節
    - 二 天皇、皇族、野戰砲兵隊臺灣守備砲兵隊ヲ含ム屯在ノ地ニ行幸、行啓若ハ通御アリテ其ノ地著御及發御ノ時
    - 三 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官、公務ニ依テ野戰砲兵隊屯在ノ地ニ赴キ其ノ地著發ノ時
    - 四 師團長初メテ部下野戰砲兵隊屯在ノ地ニ至ル時及轉職等ニテ其ノ地ヲ發スル時
- 第百六十四條 禮砲式ハ晝間ニアラサレハ行フコトナシ而シテ紀元節、天長節其ノ他臨時ノ祝日ニ於テスルモハ特ニ命令アルニアラサレハ當日正午ニ之ヲ行フモノトス
- 第百六十五條 紀元節、天長節其ノ他臨時祝日ニ於テスル禮砲式ハ全國各野戰砲兵隊悉皆之ヲ行フモノトス
- 第百六十六條 同一衛戍地ニ數個ノ砲兵隊集團シアル場合ニ於テハ其ノ内ノ一隊ヲ限リ發砲ヲ爲スモノトス

○陸達第三十三號

陸軍平時備人定員表中左ノ通改正ス

明治三十四年五月二十二日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

師團司令部ノ下驛工ノ區畫中ニ「一」ヲ加ヘ計ノ區畫中「一五」ヲ「一六」ニ改ム

陸軍兵器廠臺北本廠ノ下小使及計ノ區畫中「四」ヲ「六」ニ改ム

備考第六項中「小倉」ノ次ニ「臺中、臺南」ヲ加フ

○陸達第二十四號

陸軍下士上等兵看護手及樂手補ニシテ官職ヲ失ヒ陸軍服役條例第六十六條第二項及第百八條ニ依リ現役ニ服セシムヘキ者ノ取扱左ノ通定ム

明治三十四年五月二十五日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

- 一 各師團隊附各兵科下士上等兵及看護手タリシ者ハ從來所屬ノ聯「大」隊ニ於テ服役セシム
- 二 各師團隊附衛生部及軍吏部下士タリシ者ハ其師團ノ聯「大」隊ニ編入シ服役セシム
- 三 師團司令部ノ所轄ニ屬スル隊外下士タリシ者ハ第二號ノ例ニ依ル
- 四 臺灣守備隊附各兵科下士上等兵及看護手タリシ者ハ從來所屬ノ大、中隊ニ於テ服役セシメ當期交代歸還ノ際原隊ニ復歸セシム
- 五 前諸號ニ掲グル者ノ外ハ總テ本籍地所管師團ノ聯「大」隊ニ編入シ服役セシム

附則

明治二十九年陸達第百五號ハ廢止ス

○陸軍第三十五號

明治三十年十二月陸軍第六十三號別紙備考第三項中「臺灣守備步兵大隊」ノ下ニ「及清國駐屯步兵大隊」ヲ加フ

明治三十四年五月二十五日

陸軍大臣 齋藤實

〔參照〕

明治三十年十月二日 陸軍第六十三號ハ步兵大隊制定ノ件ナリ

○陸軍第三十六號

國防用防禦營造物出入規則中左ノ通改正ス

明治三十四年五月二十八日

陸軍大臣 齋藤實

第二條中「陸軍軍官衛長官」ヲ「陸軍軍官衛長官團隊長（中隊長及團隊長ノ下ニア）及學校長」ニ改ム

第四條中「陸軍軍官衛長官」ヲ「陸軍軍官衛長官團隊長及學校長」ニ改ム

第六條中「要塞司令官同參謀」ヲ「要塞司令部將校」ニ改メ「東京防禦總督、東京防禦總督部參謀長同參謀」ヲ削ル

〔參照〕

陸軍第八十六號國防用防禦營造物出入規則（明治三十二年九月四日）抄録

第二條 陸軍軍官衛長官ニ於テ公務ノ爲メ軍人軍團ヲ防禦營造物ニ出入セシメントスルトキハ當該要塞司令官若ハ築城部

本部長ノ承認ヲ經ヘシ

第四條 陸軍軍官衛長官ニ於テ公務ノ爲メ軍人軍團ヲシテ防禦營造物ヲ測量シ又ハ其形狀ヲ攝影撰寫セシメントスルトキハ

陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 職務ノ爲メ第一條第二條第三條ノ手續ヲ經ス各所管内及當該要塞内ニアル防禦營造物ニ入り出入シ得ヘキ者左ノ如シ

○海軍省達第五十六號

海軍省處務規程左ノ通定ム

明治三十四年五月十四日

海軍大臣 山本權兵衛

海軍省處務規程

第一章 總則

第一條 局長課長ハ各主任ノ事務ニ就キ法規ノ疑義質問ニ對シテハ之カ解釋ヲ與フルコトヲ得又海軍部内ニ對シ直接質疑文書ヲ發スルコトヲ得

第二條 尋常定例ノ省務ニ就キ海軍部内又ハ部外ニ對スル通牒ハ總務長官ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第三條 局長又ハ課長不在ノ爲代理ヲ要スルトキハ局長ニ在テハ大臣ヨリ課長ニ在テハ局長ヨリ特ニ其ノ代理ヲ命スルモノトス

局長ハ一時ノ病氣事故不在等ニ際シテハ前項ノ例ニ依ラス課長若ハ局員ニ命シテ便宜常務ヲ處辨セシムルコトヲ得課長亦此ノ例ニ依ル

第四條 局長ハ管掌ノ事務ヲ整理スル爲局内ノ服務規程ヲ定ムルコトヲ得

第五條 局長ハ所屬課員及判任官ノ分課ヲ定メ人事局長ニ通報スヘシ

第六條 海軍省出仕ノ將校同相當官ノ命課ハ大臣之ヲ行フ

第七條 各局ニ屬録事及技手ヲ配置スルコト別表ノ如シ

第八條 各局ノ事務分課中ニ明記セサル事件ハ其ノ事ニ關係ヲ有スルコト最モ多キ局ノ管掌トス

第九條 本省ノ判任官二人ヲシテ順次宿直セシム

第十條 宿直ハ定例ノ執務時間外ニ於ケル事務ノ取扱ヲ爲シ省内取締ノ責ニ任スヘシ

第二章 事務分課

第十一條 總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 他ノ各局ノ主務ニ屬セサル機密ニ關スルコト
- 二 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スルコト
- 三 大臣總務長官ノ應接接待ニ關スルコト
- 四 上裁又ハ機密ニ關スル差使往復ニ關スルコト
- 五 公文書類ノ接受發送ニ關スルコト
- 六 成案文書ノ審査及公文ノ淨書ニ關スルコト
- 七 決裁ヲ要スル書類ノ取扱ニ關スルコト
- 八 記録翻譯編纂及公文書類ノ保存ニ關スルコト
- 九 省内ニ於ケル印刷官報部及新聞社ニ關スルコト
- 十 統計及年報ニ關スルコト
- 十一 將官會議ニ關スルコト
- 十二 靖國神社ノ祭祀ニ關スルコト
- 十三 海軍雇傭囑託者ニアラサル外國人及公使館附外國武官ニ關スルコト
- 十四 在外帝國公使館附武官ニ對スル一般訓令ニ關スルコト
- 十五 本省內電信取扱所守衛備人ノ管理省内ノ風紀取締及保安ニ關スルコト
- 十六 本省宿直ニ關スルコト

十七 他ノ各局ノ所掌ニ屬セサル事項

十八 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第十二條 參事官ハ總務局ニ在テ大臣總務長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具申シ及法律命令等ノ審査ヲ掌ル

第十三條 編修ハ總務局ニ在テ翻譯編纂ノ事務ニ服ス但シ場合ニ依リ他ノ局ニ兼勤ヲ命セララルコトアルヘシ

第十四條 軍務局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 艦隊軍艦其ノ他諸官術學校等ノ建制及其ノ勤務ニ關スルコト
  - 二 軍艦水雷艇運送船通信船工作船及病院船ノ本籍及所屬ヲ定ムルコト
  - 三 艦隊軍隊ノ編制進退役務ニ關スルコト
  - 四 艦隊軍艦其ノ他諸官術學校等ノ定員制定ニ關スルコト
  - 五 要塞地帶法及軍港要港規則等ニ關スルコト
  - 六 軍紀風紀ニ關スルコト
  - 七 戒嚴及徵發ニ關スルコト
  - 八 儀式禮式ニ關スルコト
  - 九 制服服裝ニ關スルコト
  - 十 旗章及賞牌徽章等ニ關スルコト
  - 十一 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十五條 軍務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 演習及檢閲ニ關スルコト
  - 二 運輸及通信ニ關スルコト
  - 三 海上保安ニ關スルコト
  - 四 沿海各地ニ於ケル海軍部外ノ土木工事ニ關スルコト
  - 五 外國駐在將校及同機關官ニ關スルコト
  - 六 望樓ニ關スルコト
  - 七 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
  - 八 海軍教育本部ニ關スルコト
  - 九 海軍艦政本部ニ關スルコト
  - 十 水路部ニ關スルコト
- 第十六條 人事局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 准士官以上ノ進退、任免、補職、命課、增俸、分限其ノ他ノ人事ニ關スルコト
  - 二 軍人ノ敘位、敘勳、記章、褒章及賞與ニ關スルコト
  - 三 准士官以上ノ名簿、停年名簿及履歷簿ニ關スルコト
  - 四 武官ノ考課表及勤務報告ニ關スルコト
  - 五 准士官以上ノ人事ニ關スル上奏書、親裁書、辭令書、褒狀ノ取扱及辭令通報ニ關スルコト
  - 六 前號ノ上奏書、親裁書ニ關スル差使ニ服スルコト
  - 七 進級會議ニ關スルコト
  - 八 准士官以上ノ補充ニ關スルコト

- 九 拜謁、參賀、參拜、拜觀、御陪食、御陪宴及之ニ等シキ儀式祭典ニ關スルコト
  - 十 外國旅行券ニ關スルコト
  - 十一 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十七條 人事局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、分限其ノ他ノ人事ニ關スルコト
  - 二 軍屬及内國人ノ敘位、敘勳、記章、褒章及賞與ニ關スルコト
  - 三 文官ノ名簿及履歷簿ニ關スルコト
  - 四 文官ノ考課表ニ關スルコト
  - 五 文官ノ人事ニ關スル上奏書、辭令書、褒狀ノ取扱及辭令通報ニ關スルコト
  - 六 囑託者ニ關スルコト
  - 七 軍人軍屬ノ恩給、遺族扶助、給助、退官賜金ニ關スルコト
  - 八 海軍豫備員ニ關スルコト
  - 九 海軍雇傭ノ外國人ノ人事ニ關スルコト
  - 十 下士卒ノ任用進級其ノ他ノ人事ニ關スルコト
  - 十一 兵員ノ徵募補充及服役ニ關スルコト
  - 十二 召集及簡閱點呼ニ關スルコト
  - 十三 雇員傭人ニ關スルコト
  - 十四 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第十八條 醫務局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル



- 一 軍醫官及藥劑官ノ勤務ニ關スルコト
  - 二 外國駐在軍醫官及同藥劑官ニ關スルコト
  - 三 軍人ノ體格ニ關スルコト
  - 四 恩給ニ係ル診斷及傷痕疾病ニ因ル免官免役診斷ニ關スルコト
  - 五 傳染病豫防ニ關スルコト
  - 六 治療品ニ關スルコト
  - 七 以上ノ外第二課ノ所掌ニ屬セサル醫務衛生ニ關スルコト
  - 八 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
  - 九 海軍病院ニ關スルコト
- 第十九條 醫務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 艦船、建築物、被服、糧食、給水排水ノ衛生ニ關スルコト
  - 二 醫務衛生ノ統計ニ關スルコト
  - 三 軍醫官、藥劑官及軍醫學生、藥劑學生ノ教育ニ關スルコト
  - 四 内外國諸港ノ風土及地方病ニ關スルコト
  - 五 外國海軍ノ醫務衛生調査ニ關スルコト
  - 六 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
  - 七 海軍軍醫學校ニ關スルコト
- 第二十條 經理局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 豫算決算ニ關スルコト

- 二 仕拂豫算令示ノコト
  - 三 豫備金支出ニ關スルコト
  - 四 定額繰越、過年度支出及定額戻入ニ關スルコト
  - 五 特別會計ニ關スルコト
  - 六 收入及仕拂ニ關スルコト
  - 七 本省及歲入徴收官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル收入ノコト
  - 八 本省及委任仕拂命令官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル經費仕拂ノコト
  - 九 機動費ノ出納ニ關スルコト
  - 十 徴收總報告書ニ關スルコト
  - 十一 徴收簿及歲出簿登記保管ノコト
  - 十二 金錢ノ會計監査ニ關スルコト
  - 十三 出納官吏ノ身元保證金ニ關スルコト
  - 十四 主計官及主計學生ノ教育ニ關スルコト
  - 十五 主計官ノ勤務ニ關スルコト
  - 十六 外國駐在主計官ニ關スルコト
  - 十七 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
  - 十八 海軍主計官練習所ニ關スルコト
- 第二十一條 經理局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 俸給、諸給、旅費、諸手當、扶助金其ノ他金錢給與ニ關スルコト

- 二 被服物品及糧食品ノ經理ニ關スルコト
  - 三 兵備品ノ會計監査ニ關スルコト
  - 四 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二十二條 經理局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 通常物品及其ノ會計監査ニ關スルコト
  - 二 物品ノ賣買貸借ニ關スルコト
  - 三 官有財産ノ管理及取扱ニ關スルコト
  - 四 建築工事ノ計畫及施行ニ關スルコト
  - 五 東京所在各廳ノ建築工事ヲ爲スコト
  - 六 本省及本省ト同構内ニ在ル各廳ノ運輸通信取扱ニ關スルコト
  - 七 船舶車馬備入ニ關スルコト
  - 八 本省及本省ト同構内ニ在ル各廳ノ用度ニ關スルコト
  - 九 他ノ各課ニ屬セサル事項ニ關スルコト
  - 十 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二十三條 司法局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 海軍刑法、海軍治罪法、刑法、刑事訴訟法其ノ他刑事法令ニ關スルコト
  - 二 海軍懲罰令、文官懲戒令、海軍監獄則及捕獲審檢令ニ關スルコト
  - 三 軍事司法警察及海軍檢察ニ關スルコト
  - 四 軍法會議鎮守府司法部及海軍監獄ノ事務ニ關スルコト

- 五 訴訟及訴願ニ關スルコト
  - 六 主理録事及監獄官ノ勤務ニ關スルコト
  - 七 軍法會議及監獄ノ新築改築ニ關スルコト
  - 八 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二十四條 醫務局長及經理局長ハ軍醫官以下及主計官以下ノ教育ニ關シテハ教育本部長ト協議スヘシ
- 第三章 文書取扱
- 第二十五條 大臣總務長官又ハ本省ニ宛テ到來スル公文ハ總テ總務局ニ於テ接受スルモノトス但シ大臣親展書類ハ祕書官ニ於テ接受シ其ノ人事ニ關スルモノハ之ヲ人事局長ニ移スヘシ
- 第二十六條 總務局ニ於テハ前條ニ依リ接受シタル公文ヲ査閱シ之ニ番號ヲ附シ各局ノ主務ニ屬スルモノハ指定ノ印ヲ捺シ直ニ之ヲ各局ニ配付スヘシ
- 教育本部、艦政本部及水路部ノ意見ヲ徵スヘキモノ亦前項ノ例ヲ準用ス
- 第二十七條 前條接受シタル公文中重要ナル事件ハ首席副官ヨリ總務長官ノ査閱ニ供シ處分ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二十八條 副官又ハ祕書官ハ急速處分ヲ要スル事項ニシテ各局ノ審議ヲ待ツノ違ナキ場合ニハ大臣總務長官ノ閱覽決裁ヲ請ヒ直ニ之ヲ處分執行シ事後主務局ニ通知ス
- 第二十九條 各課長ハ主務ノ公文ヲ審査シ其ノ閣議、命令連、訓令、指令等ヲ照會、回答等ヲ要スルモノハ各其ノ案ヲ附シ捺印シ之ヲ局長ニ差出スヘシ其ノ案ヲ附スルヲ要セス總務長官若ハ大臣ノ閱覽ニ供スルニ止マルモノ亦同シ

局長ハ所屬課長ノ差出セル公文書類ヲ査閲シ要スルトキハ之ヲ改削セシメ檢印シ總務局ニ送付スヘシ

總務局及司法局ノ主務ニ屬スル事項ニ關シテハ前二項ノ例ヲ準用ス

第三十條 閣議、命令、照會、回答案ヲ附シ大臣ノ決裁ヲ受クルニハ所定ノ野紙ヲ用ヒ主務局長課長及課員若ハ局員之ニ檢印スヘシ但シ關係者ハ主務者ノ次ニ列記スヘシ

第三十一條 他局ニ關係アル文書ハ主務局長、課長等調査捺印ノ後主務局ヨリ關係ノ局ニ送付シ關係局ノ主務課長調査捺印シ局長之ヲ査閲檢印シ總務局ニ送付スヘシ

第三十二條 艦政本部、教育本部又ハ水路部ヨリ軍務局ニ送付スル書類ハ軍務局ニ於テ第三十條及第三十一條ニ準シ取扱フヘシ

第三十三條 總務局ノ主務ニシテ他局ニ關係アルモノ及各局ノ主務ニシテ教育本部、艦政本部若ハ水路部ニ關係アルモノハ第三十條及第三十一條ノ例ニ依ルヘシ

第三十四條 事ノ數局ニ聯帶スル文書ニシテ主務局ノ審案ニ對シ彼是意見ヲ異ニスルトキハ互ニ面議商量シ尙ホ決セサルトキハ直ニ總務局長又ハ大臣ニ面陳スヘシ附箋ヲ以テ意見ヲ述フヘカラス

第三十五條 法律、勅令、省令、告示其ノ他主要ナル規則ノ制定更改廢止ニ係ル原案ニハ必ス主務局部ニ於テ逐條理由書ヲ附スヘシ

第三十六條 總務局ニ於テハ主務局部又ハ關係局部ヨリ調査濟文書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ總務局長、大臣ノ閱覽ニ供シ又ハ決裁ヲ請フヘシ但シ主要ナル法規案ハ總務局長ニ呈出スル前參事官ノ審査ニ附スルモノトス

尋常定例ノ省務ハ總務局長ノ閱覽決裁ヲ請ヒ直ニ之ヲ處分執行スルコトヲ得

第三十七條 決裁濟文書ニシテ發布ヲ要スルモノハ總務局ニ於テ淨書校合シ發布ノ手續ヲナスヘシ但シ計算書類其ノ他文書ニ附屬ノ表圖若ハ別紙別冊ヲ要スルトキハ主務局ニ於テ淨書校合シ總務局ニ送付スヘシ

人事局ノ主務事項ニ關シテハ該局ニ於テ淨書發布ノ手續ヲ爲スヘシ但シ總務局ノ件名簿ニ登記スヘキモノハ此ノ限ニアラス

閱覽濟決裁濟及發布濟ノ書類ハ總務局ヨリ之ヲ主務局ニ送付スヘシ  
教育本部、艦政本部又ハ水路部ヨリ提出セシモノ亦前項ニ準ス

第三十八條 上申伺ニシテ當分又ハ到底詮議ニ及ヒ難キモノハ主務局ニ於テ附箋ニ其ノ理由ヲ記シ總務局長ノ閱覽ニ供シタル後差出廳ニ返却スヘシ但シ總務局ニ於テ接受シ主務局ニ回付シタルモノナルトキハ其ノ發送ニ臨ミ總務局ニ通知スルヲ要ス時宜ニ依リ該書類ハ參考トシテ主務局又ハ總務局ニ留置キ其ノ事由ヲ差出廳ニ通牒スルコトアルヘシ

第三十九條 第一條ニ掲クル事項ニシテ重要ナリト認ムルモノハ總務局長大臣ノ閱覽ニ供スルモノトス

第四十條 本省公文ハ件名簿ニ登記シ以テ處分ノ終始ヲ明ナラシムヘシ  
件名簿ハ海總號、海總機密號及祕人號ノ三種トシ海總號、海總機密號ハ總務局ニ、祕人號ハ人事局ニ備ヘ置クモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名 原番號アルモノハ等ヲ記入シ各一貫ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附點スヘシ

前項ニ掲クル件名簿ノ外總務局ニ省令、訓令、告示、達、内令、海軍軍機號、海總號、印刷配賦ニ及指令、通報ノ各件名簿ヲ備フヘシ

第四十一條 前條ニ依リ番號ヲ附シタル本省公文ニ對シ各局ニ於テハ別ニ件名簿ヲ置カス唯受領、發送簿ヲ備ヘ以テ文書ノ出入ヲ明ナラシムヘシ

受領發送簿ニハ公文ノ件名番號、原番號、原番號ヲモ記入ス、及受領發送月日等ヲ記入スヘシ

第四十二條 總務局ニ於テハ其ノ月十五日迄ニ主務局ニ配付シタル文書又ハ主務局ヨリ提出セシ文書ノ内審案ヲ要スルモノニシテ毎月末日ニ於テ完結セサルモノアルトキハ未結了文書目錄ヲ編製シ左ノ區分ニ依リ事由ヲ詳悉シ總務局長大臣ノ閱覽ニ供スヘシ

一 主務局ヨリ提案ノ後總務局ノ審査中ニ係ルモノ若ハ軍令部回付中ニ係ルモノニ就テハ總務局ニ於テ其ノ事由ヲ記入ス

二 總務局ヨリ主務局ニ配付シ又ハ主務局ヨリ提出セシ文書中各局ノ審案中ニ係ルモノニ就テハ各局ニ於テ其ノ事由ヲ記入ス

目錄ハ各局別ニ依リ一局一通トシ總務局ニ於テ之ヲ編製シ翌月二日迄ニ各局ニ回付シ各局ニ於テハ同月五日迄ニ事由記入ノ上總務局ニ返付スヘシ但シ目錄中ノ事項ニシテ前項第一號ニ該當スルモノアルトキハ總務局ヨリ主務局ニ回付スル前事由記入ノ手續ヲ爲スモノトス

數育本部、鐵政本部及水路部ニモ前二項ヲ準用ス

第四十三條 左ニ掲クル公文ハ處分結了後直ニ總務局ニ於テ編纂保存シ其ノ他ハ主務各局ニ於テ保管スヘシ

一 上奏案、仰、裁案、立親裁書

二 法律勅令案

三 内令、省令、訓令、達、告示案

四 海總號、摺物業

五 指令、通報ニ載セタル指令案

六 將官會議書類

七 統計及年報材料

第四十四條 各局ニ於テ保管スル公文中未結了ノモノヲ除ク外ハ毎年六月ニ於テ必ス其ノ前年分ヲ總務局ニ送致スヘシ總務局ニ於テハ之ヲ査閱シ所要ニ從ヒ之ヲ編纂保存スヘシ

第四十五條 各局ニ於テ處務參照ノ爲總務局記録庫ニ在ル文書ノ閱覽ヲ要スルトキハ庫内ニ於テ之ヲ閱覽スルヲ例トス若シ各局ニ携帶スルヲ要スルモノアルトキハ必ス其ノ日ノ中ニ還付スヘシ

明治三十四年五月 海軍省第五十六號 海軍省庶務規程

(別表)

司 法 局	經 理 局	醫 務 局	人 事 局	軍 務 局	總 務 局	圖 錄 事 技 手
	四十二	五	十	七	八	
三						
	五	二				